

翻刻『忠臣規矩順従録』(一)

山 本 卓

本書は赤穂義士伝(「忠臣蔵」)もの実録の一本である。編者が知れないのが普通である実録にあつて、講釈師田丸常山在名(改編)本であるところに本書の意義がある。翻刻する所以である。講釈の影響を受け、本文の叙述がゆがんでいる。講釈用の創作とみられる叙述もある。舌耕の実相を窺う一資料となろう。三回にわたつて翻刻する予定である。

〔底本略書誌〕

- 写本
- 半紙本二十四卷六冊
- 各巻に序あり。識語なし(写年不明)。
- カタカナ本
- 外題「忠臣規矩準繩録」

- 内題「忠臣規矩順従録」
- 蔵書印「中治」「中川竜平」
- 架蔵

〔翻刻凡例〕

- 漢字の書体は原則として通行のものとした。
- 漢字は誤りでもあえてそのままにしたところがある。
- 通読の便を考慮して、句読点・濁点・中黒を付した。
- 漢字表記をカタカナにしたところがある。
- 此↓コノ 其↓ソノ 是↓コレ 夫↓ソレ 加様ニ↓カ様ニ
- 彼是↓カレコレ などである。
- かえつて読む部分(部分的な漢文表記)はカタカナにした。如此↓コノゴトシ 被召放事↓召放ルル事 無之↓コレナキ

可相勤↓相勤ベキ などである。

・踊り字は「々」以外はすべて開いた。

・「廿」など合字は、「二十」のようにすべて現行の表記とした。

・他本などから補った場合は（ ）とした。

〔翻刻〕

忠臣規矩準純録 二三四 (外題)

忠臣規矩順從録卷之一

序

一大道廢レテ仁義有り。仁義廢レテ孝子有り。國家乱レテ忠臣有り。

一コノ語ハ老子經ニアリ。ソノ語各別ニシテ又一通り別也。儒書ニハ專仁義礼智信ヲ説ク。老子ノ道ハ大道トテ一通リ道筋アリ。人物ハ元來仁義アリテ、主君ニ忠義ヲ尽シ、親ニ孝行ニシテ礼儀ヲ守ル。コレ人間ノ常也。教ズシテ天然ト具足スル処ノ大道也。然ルニコノ道廢レテ、仁義礼智信ノ五常出來リ人心細カニ導ク。又コノ仁義モ廢レテ君臣父子ノ（一オ）道ヲ忘却シテ、偏ニ只禽獸ノ如ク落下レリ。第一親子ノ間ニモ子ハ親ニ孝行スルハツト計リ思ヒ、親ノ慈愛不便ノ情ヲ失ナヒ、サモナキコトニモ忿リ旬リ、生立ル恩ヲ思ヒテ、只偏ニ我奴僕ノゴトク

ニ思ヒ悪口シ又跡式家督配當ノコトニナリテモ品眞私曲ノ沙汰アリテ、大ニ正道ヲ失ウ。タトエ不幸ノ子タリトモ親ノ心正路ナラバ、子ノ身トシテ実ハ失フマジ。又当代世ノ中ヲ見ルニ子ハ大ニ天道ニソムキ、只親ハ不便ガル物トバカリ相心エ常々慈愛ノ薄キト恨ミ、己ガ不行義ヲシカラ（一ウ）ルルト親仁ノ時代トハ今時ノ世風ハ大ニ替リ、古風ノ人心ニ違フ親ハ大ニ愚痴トソシリ、或ハ世帯金銀財宝ノ譲リ渡シヲソシト催促シ、又ハ死後ニ金銀配當ノコトニ付、兄弟一家公事諍論ニ及ビ悉ク人情ニハツレ、私欲ニ迷フ皆禽獸ノ類也。又武士ハ常々君臣ノ道ヲ失ヒ、主君ノ加恩ノウスキヲ恨ミ、我身ヲヨキ者トタカブリ役義ノ低キヲ不足シ、我ヨリ上役ヲ妬ミ佞奸ヲ巧ム。コノ心底ヨリ武士ノ心カクベキ芸術ハウトク、兎角座シキノ上ノ奉公ニ心ヲ尽シ、巧言令色ガヨキ（二オ）ト心へ追從輕薄ニシテ万事方端美シク心得テ、武士道ノキツカケヲ失ヒ、男ノ道ヲステテ出頭諸役人ニ賂ヒヲ尽シ、亦我下ヨリハ莫太ニ貪ポリ取り、義利モ法モ失ヒ、恥ヲ恥トモ思ハズ、表ムキハ正シク賢ニ見セテ、内心ハ法令ヲソムキ万事奢リツヨク、故ニ或ハ百石ノアテガヒハ半年ノ内ニ仕マヒ、分限相應ニ高知ノ輩モ皆コノゴトシ。コレ故ニ不足ガチ故ニ自然ト私欲出來テ、役義ツトムルハソノ役徳也ト押出シテ賂ヒヲ取ルト内心ハ禽獸ニ等シク、カ様ノ武士

自然ノ用道ニ何トシテ立ベ(2ウ)キヤ。カ様ノコトナレドモ武士ノ大道ハ広クシテソノ本心動カザル人モアルコト也。常ハ秀ルコトモコレ無様ナレドモ、国家乱レテ忠臣アリトノ古語ノゴトク何トゾ變アリ、家中騒動スルガ又合戦起リテソノ敗北ノ時方滅亡ノ期ニ至テ忠節貞信ノ人初メテ知ルルナリ。然レバ常々ハ口ニ忠言ヲ放チ誰ニ劣ラザル心トハ思ヘドモ、ソノ節ソノ時ニアタリテ大ニ騒動スルハコレ人間ノ常也。

爰二元禄十四^平曆三月浅野内匠頭長矩サシツマリタル遺恨アリ、殿中ニ於テ吉良上野介ト刃傷ニ及ビ、終ニソノ(3オ)日晚景ニ切腹アリ。誠ニ豪傑ノ大将滅亡アル、残念コレニ過ズ。然ル処内匠頭ニ家老大石内蔵介良雄並ニ家人四十九人諸侍名并ノ忠義ヲ顕シ、武士ノ忠義ト云コトヲ近年忘却ノ諸人ニコレヲ知ラセ、日本國中ノ諸大名ニ臣下ハヨキ物也。悪シクアテガヒ玉フナトノ礼義ヲ教ヘ天下ノ耳目ヲ驚カセリ。コノ始終一朝一夕ノコトニ非ズ。年ヲ越、月ヲ重ネ、日ヲ折、大石ガ心苦ノ体、謀略武勇古今ニマレナリ。前代ニナク後代ニ猶有マジ、武士ノ鏡也。往昔義経ノ良等モ零落ノ時ハ十六人山伏也。(3ウ)新田義貞臣モ十六騎ガ等也。頼光ノ四天王名ニ高キ面々ハマレ也。然ルニコレハ四十九人也。ヨクモ一列シタリ。誰カコレヲ替サランヤ。故ニコノ事ヲ書籍ニ書アラハシ、ソノ始終ライヘドモ

ソノ実ヲ知ラズ。只世上ニ評スル処ノ書ハ、赤穂記・赤城盟伝・介石記・新撰大石記・鐘秀記・本朝忠臣記・忠義太平記・良雄記、カ様ノ書籍コレアリトイヘドモ、実説ウスク紛ハシク、大切ノ武士ノ家名大ニアヤマルヲ悔テ、太守ノ指ゾニテ詮義ヲ加ヘコノ書ヲ^{本文}撰ンデ忠臣規矩順從祿ト号ス。コノ書ノ中ニ始終微(4オ)細ニアリ。秘蔵シテ外見スベカラズ。

忠臣規矩順從祿序^終(4ウ)

忠臣規矩順從祿惣目錄

田丸常山源具房述作

一 序

一 天奏御馳走役之事

一 浅野内匠頭長矩由緒之事

一 大石内蔵介良雄由緒之事

一 天奏下り之事

一 吉良家由緒^上上野介佞奸之事

一 勅使・院使江戸着之事

一 加藤遠江守殿浅野殿^江密談之事

一 増上寺宿坊聞合之事(5オ)

卷之二

一 勅使饗応御能之事

一 浅野内匠頭・吉良上野介口論刃傷之事

一 浅野・吉良形付之事

卷之五

一 田村殿之事並庄田下総守役義召放ルル事

一 赤穂城中人撰之事

一 内匠頭屋敷落着之事

一 奥野将監離散之事

卷之三

一 城中義士盟約神文連中相究事

一 赤穂城請取仰付ラル並梶川増知之事

一 矢頭右衛門七忠誠之事

一 千坂兵部諫言、吉良上野介隠居之事

一 大野九郎兵衛赤穂帰参、流浪大坂出事

一 赤穂沙汰、大石内蔵介作略之事(5ウ)

卷之六(6ウ)

一 大石主税元服之事

一 荻原長介・同義左衛門沙汰之事

一 赤穂家中諸士登城之事

一 主税老母勇氣異見之事

一 城中ニ於テ諸侍評定之事

一 三好源太夫出走並老母之事

卷之四

一 岡野・大岡・井関・忠義之事

一 赤穂之願江戸表評定之事

一 安芸守殿・大学頭殿墨付判形下着之事

一 浅野大学頭江御内意御請難決之事

一 城中大石下知作略之事

一 諸方加勢御下知之事

卷之七

一 江戸詰之諸侍之内、強弱之事

一 赤穂城開渡之事

一 主税母義働貞実之事

一 内蔵介私宿会合之事

一 江戸両使赤穂ニ帰城之事(6オ)

一 榊原采女殿・荒木十左衛門殿対談之事(7オ)

一 城中評定大野等奸曲之事

一 脇坂殿ヨリ大石方招請之事

一 大野九郎兵衛離散同意之面々騒動之事

一 内蔵介赤穂引払之事

一 城中用意之事

一 赤穂町中村方餞別ニ中村ニ来事

— 武林只七愁悲之事

卷之八

— 大石内蔵介大坂出事

— 江戸出人別之事

— 千坂兵部吉良・上杉へ諫言之事

— 江戸住居義士共之事

— 大石内蔵介山科之住居事（7ウ）

— 母義内室内蔵介ニ諫言申サル事

— 武林只七諸処ニ連判ヲ戻ス事

— 岡野金石衛門屈死之事

卷之九

— 義士江戸表徘徊之事

— 上杉殿ヨリ問者上京大石反簡之事

— 大石内蔵介上杉殿之間者出合之事

— 大石之母義内室異見之事

— 内蔵介内室離別母義旅出之事

卷之十（8才）

— 芦野三平義死之事

— 池田玄蕃内蔵介ト対談之事

— 吉良上野介油断安堵之事

— 早水藤左衛門娘吉良殿ニ問者ニ入事

— 天野屋理兵衛事

— 不破数右衛門事

— 浅野大学頭方へ御内意之事

卷之十一

— 浅野大学頭広嶋ニ流刑御預之事

— 諸侍江戸下向評定之事（8ウ）

— 諸士發足大石主税出立之事

— 冨森助右衛門始終之事

— 橋本平左衛門最期之事

— 主税江戸出^並小野寺十内詠哥之事

卷之十二

— 服部宇内事

— 内蔵介京都出立之用意之事

— 内蔵介道中離義江戸着之事

— 上杉殿・吉良殿両屋敷評定之事

— 大野九郎兵衛最期之事（9才）

卷之十三

— 大石内蔵助御後室瑞泉院殿へ暇乞申事

— 内蔵介泉岳寺ニ集會之事

一 密談評定一決法令之事

卷之十四

一 内蔵介出立之事

一 堀部鯉鈍屋認用意之事

一 内蔵介吉良屋敷ニ押込次第之事

一 夜討働之事

卷之十五(9ウ)

一 大石主税働之事

一 内蔵介^並義士上野介ヲ搜シ求ル事

一 吉良殿隣家騒動之事

一 内蔵介一党残ラズ廻向院門前休息之事

卷之十六

一 大石内蔵介無縁寺前ニ休息使節往来之事

一 松平陸奥守殿辻番作略之事

一 泉岳寺墓所焼香手向之事

一 内蔵介方丈ニ入休息之事

卷之十七(10オ)

一 泉岳寺ヨリ寺社奉行ニ訴之事

一 片岡・磯谷両使仙石殿作略之事

一 吉良左衛門方ヨリ柏屋平馬ヲ以註進之事

一 諸処註進ノ事

一 吉良左兵衛屋敷檢使糺明之事

一 近隣屋敷申条之事

一 屋敷内落道具改之事

一 内蔵介書置披見之事

一 町内糺明吉良親類驅着之事

卷之十八(10ウ)

一 仙石伯耆守殿宿処ニテ両使御尋之事

一 大石内蔵介^並四十七人諸大名中へ御預リノ事

一 大石内蔵介一党諸家御預之事

一 四ヶ処へ引取人別之事

卷之十九

一 岡林木工之助生害之事

一 小山田十兵衛生害之事

一 上杉家評定之事

一 上杉国家老長尾権四郎申条之事

卷之二十(11オ)

一 吉良上野介菩提所牛込盤松院使僧往来事

一 上野介殿之内室首申乞ルル事

一 内匠殿後室^并矢頭・寺西事

卷之二十一

一 松平隠岐守殿主税二御直談之事

一 松平隠岐守殿内々御願之事

一 大石内蔵介二御尋^並御返答之事

一 松平隠岐守殿御願^並上杉家老中願之事

卷之二十二

一 大石内蔵介行状之事 (11ウ)

一 細川越中守殿鶴之御料理下サル事

一 御評定之事

一 吉良左兵衛御仕置之事

一 大石内蔵介^江上使之事

卷之二十三

一 上使御請之事

一 大石内蔵介^並十六人切腹次第之事

卷之二十四

一 大石主税切腹子細之事

一 内蔵介下僕元介忠誠之事 (12オ)

一 四十七人子共落着仰出サル事

一 泉岳寺落着之事

一 内蔵介辞世之事

一 浅野家因縁報仇之事

一 泉岳寺四十七人墓所之細図

以上

忠臣規矩順從祿惣目錄終 (12ウ)

忠臣規矩順從祿卷之一

浅野内匠頭長矩由緒之事

一 播州赤穂城主^{五万三千石} 浅野内匠頭長矩ハ先祖長重元和六年初テ新

知ヲ玉ハリ、新夕ニ城築セリ。元祖浅野彈正忠長政、壮年ノ節

ハ弥兵衛ト云、美濃国岐阜ノ在辺山中ヨリ出テ、野武士ノ棟梁

シテ初メテ木下藤吉郎秀吉ニ奉仕シテ、竜ガ鼻ニ来リ家臣トナ

リ、段々立身家ヲ起シテ紀州和歌山 (13オ)ノ城主ナリ。嫡子

浅野左京太夫幸長從四位下侍從紀伊守ハ朝鮮陣ノ時、武勇大ニ

秀、又慶長五年九月関ヶ原陣ノ節、瑞竜山ノ一時ノリ武勇ヲ振

フ。ソノ嫡男浅野但馬守長晟從四位ノ侍從、東照宮ノ躰也。コ

ノ但馬守ノ舍弟浅野采女正長重從四位侍從、大坂御陣ノ時、夏

冬兩度ノ軍功、兄但馬ト別段ニ相働ク、コノ賞ニヨツテ元和六

年二但馬守長晟ハ安芸ノ国ヲ賜ハル。^{福崎左衛門政則ノアト領ナリ}ソノ節加増トシ

テ采女正長重、播州赤穂五万三千石ヲ玉ハル。初メノ領下也初メテ城築セリ。舎兄但馬(13ウ)守ノ愛弟ニテ城普請或ハ武器諸道具等悉ク合力アリ。入部ノ年知行一年分、但馬守合力シテ物成ハ用金ニシテ安芸ヨリノ見ツギ、コノ故ニ代々勝手ヨク福貴ノ家也。ソノ嫡子内匠頭長直從五位下、ソノ子采女正長員從五位下、ソノ子当内匠頭長矩從五位下也。又長晟ノ妹采女正長重ノ姉ハ尾州義直公ノ御内室也。又姉ハ越前中納言忠昌一伯公ノ内室也。

大石内蔵介良雄由緒之事

一大石内蔵介良雄代々家老職也。千五百石領ス。四(14才)十五歳也。最期ノ年先祖ハ近江ノ国石山ノ奥山中大石村ノ地侍也。元祖大石瀬太夫ト云者、武勇逞シキ者ニテ浅野左京太夫幸長ノ家人ニテ武功アリ。立身シテ物頭トナル朝鮮ニテハタラキアリ、ソノ嫡大石頼母武謀ノ逞シキ人ニシテ、浅野采女ノ家老職ニ付ラレテ初メテ赤穂二行、城築立、武士屋敷町屋繩張仕置等微細ニ成就、貞実ノ人ニシテ采女長重ノ寵臣ニシテ千五百石ヲ玉ヒ、家老一人ニシテ相勤。赤穂塩浜新田ヲ開發シテ国ノ富貴ヲ取立ル。采女正長重カキ下戚ノ娘ヲ妻ニ嫁シテ入魂他(14ウ)ニ異ナリ、頼母ガ嫡ハ采女ガ孫也。内匠頭長直ノ甥也。采女寵愛ニテ將軍家ニ御願申上、采女国腹ノ子ト申立テテ赤穂ノ新田三千石ヲ配

分シテ御旗本寄合ニナリテ浅野隼人正ト云。コレ頼母ガ子也。大石内蔵介ガ為ニハ兄也。コノ隼人別家ニナリ跡ニ子ナキ故ニ先ノ采女正長員縁類タルニ依、松平伊予守殿ノ家長池田玄蕃ガ第三歳ノ時、養子トシテ頼母ノ家督ヲ相続セリ。コレ大石内蔵介良雄也。右ノ子細ナレバ、内蔵介ハ内匠頭ノ為ハ血筋ハナケレドモ從弟也。又内蔵介ガ妻ハ京極甲斐(15才)守殿ノ家老石東源五兵衛ガ娘也。コノ内蔵介ハ常々サワヤカナル生レニテ、第一貞信実義ニシテ殊ノ外信ノ厚キ人ニシテ、家中ノ尊敬モ大形ナラズ。然レドモ常々内蔵介ハ丁寧ニシテ家中ノ諸士中ニ礼義正シク勵マシ、内匠守殿ヲ尊敬ス。又主君相氣ニシテ常々入魂、偏ニ兄弟ノ様ニ致サレ、殊外ニ家中ニ威ノ重キ人也。一乱以後、内匠守殿ノ志シヲツギソノ恥ヲススギ万代不朽ノ武士、凡人臣ノ鏡トスベキ也。

天奏下リ之事(15ウ)

一天奏下リノコトハ、古來曾テコレ無コト也。勿論鎌倉北条義時ノ節二位ノ尼ノ古例コレアリトイエドモ、極メテ勅使毎歳下向ノコトハ天下静謐ノ以後、台徳院殿ノ時ヨリ定式トナレリ。新年ノ拜賀ハ毎歳関東ヨリ高家ノ面々ノ内、御名代ニ上洛、扨ハ京都ノ所司代相勤ムル故ニ三月ニ至リ勅諭アリ。天下静謐太平ノ賀ヲ称美トシテ公家中下向ノコト也。殊ニコノ度ハ別テ母公

二一位ノ官ヲ進メラル。居ナガラ一位ノ官ヲ譜クル最初ナリ。勿論当代ニモアリトイヘドモ、最初手始めアリツル跡ナレ（16オ）ハ、先規ノ例ニマカスルソノ節ハ始めメテノコトナレバ、コレ如何アラシヤ。往昔頼朝ノ御台政子ハ天下ノ政ヲ掌ニ握リ玉フトイヘドモ、二位ノ尼也。又平相国清盛ノ節、安德帝ノ国母タレドモ、二位ノ尼也。古今一位ノ尼ハ聞ズ。況ヤ居ナガラ官位ニ進マルル、コレ天道ノ恐レモコレ有コトナリ。果シテ浅野内匠・吉良上野介不思議ノ闊諍騒動セリ。

天奏御馳走役之事

一元禄十四^{辛巳}曆二月三日御奏書ヲ以テ浅野内匠頭・伊達左京亮兩人ヲ召サレ、上意ノ赴、年寄中（16ウ）列座ニテ今度ノ天奏下向御馳走ノコト、別テ大切ニ思召サルルノ条、勅使柳原大納言資廉卿・高野中納言保春卿コノ御両使ノ御饗応ハ、浅野内匠頭相勤ベキ也。又院使清閑寺中納言照定卿ノ御馳走ハ伊達左京亮相勤ベキノ由ナリ。時ニ浅野内匠頭謹ンデ御請申サルルハ、上意畏リ奉候。併、拙者義堂上方ノ義、且テ不案内又家来ハ田舎者ノコト卒忽ニ候ヘバ御請申上候モ恐レ奉リ候ト申サルル時、御老中御月番土屋相模守殿申サルルハ、毎々吉良上野介相ツトメラレ功者ニ候条、吉良上野介（17オ）ニ聞合サレ然ベク候。幸ヒコノ度伝奏取次挨拶人ニ上野介・品川豊前守兩人別テ仰付

ラレ候条、左様ニ相心得ラレ候様ニ念比ニ申サレ、是非ニ及バズ内匠頭・左京亮御請申サレケリ。

吉良家由緒^並上野介佞奸之事

高家衆ノ役義ハ公家堂上方ノ取次、或ハ神社仏閣ノ御代參、又常々ハ將軍家御名代ノ上使亦御規式ノ節、公方家ノ拜膳祝言ノ酌子土器ノ通ヒ一切カ様ノコトヲ相ツトメラレ、諸大名中ニ度々立マジワル。コノ内ニ吉良上野介ハ老体ニテ役目（17ウ）ノコト功者ニテ毎歳ノ天奏衆ニ御馳走役ニナレ、又出頭モ他ニ異也。亦世ノヨセモ大ニ権勢アリ。嫡子ハ上杉家ノ家督トシテ、今ノ上杉彈正忠ナリ。亦コノ上杉ハ紀州大納言ノ聲也。カヤウノ手筋歴々ナリ。先祖ハ八幡太郎義家ノ三男式部太輔義国五代ノ孫足利左馬介義氏ノ三男吉良上総介源長氏^{從五位下}コレ吉良ノ元祖ナリ。コノ時ヨリ吉良家十一代相統シテ、三河国吉良西条持広ハ徳川家康公ノ祖父清康公ノ智ナリ。持広ノ嫡義安逆心家康公追放アリ。窄人シテ三好ニタヨリ、摂津（18オ）国芥川ニテ討死断滅シケリ。吉良東条持広ノ腹ニ男子アリ。蟄居シテ家康公ニ嘆キ奉リ、召出サレテ初メテ二百石玉ハリ、以後御取立、三州吉良ニテ、四千五百石ヲ玉ヒ、吉良家ヲ立ラレ、吉良上野介義定ト名ノリ從四位上左少将ニ補任シテ高家ニ立ル。然レバ家筋由緒正シキ人也。六十二歳ニシテ卒シ、長松院殿ト号ス。コノ

人ヨリ三代ノ後胤ナリ。母ハ酒井紀伊守忠吉ノ娘也。カ様ノ筋目ナレドモ天性生レ大佞人ニテ常々奢リ強ク上杉殿ノ実父ナレバ、官位ト云諸人ニ緩怠ヲハタラキ常(18ウ)(々)諸大名ヨリ賂ヲトリ、非法ノ奢ラ極メ諸人ノ惡ミ者也。亦音信モセズ念比セザル大名中ニハ殿中ニテ何ゾ御名代カカリノ時ニハ大キニ指當万事ニ付、不首尾ノ様ニアテラルル。コノ故ニ諸大名中ヨリ定式ノ賂ヲスルコト也。随意惡口キ人也。藤堂和泉守高久ノ館ニ常ニ来リ、無類不屈ノ仕方定式ノ賂賂ヲトル目論不思議ノ奸謀ナリ。藤堂ハ高三十二万石余ノ大名、ソノ上ニ高久ハ義勇手厚キ人ニテ、中々理不尽ニ他家ニ追従スル人ニ非ズ。官位ハ四役目ナレバ、吉良殿ヘモコノ縁ニヨリ參ラルル。上野介ハ老体ナリ。知行モ(五)千石御当家ニモ御縁ノ筋目アリ。吉良ノ正統ナリ。上杉殿ノ実父也。カレコレ以テ藤堂家ニ參ラルル時ハ尋常ニアシラヒ玉ヘリ。然レドモ不斷定リタル御音物ハナシ。コノ故ニ心底ニフスタンデ折々来リ御断リ以後ニ、和泉守殿ハ大名也。御嫡子御能ヲ不時ニ所望シ、御家来ドモノ仕ルハ憚リアリ。四座ノ猿樂ドモヲ召サレテ仰付見物ヲ願ヒ候ト度々所望シ、大勢相客ヲ催シ、イヤトハ云ハレズ、一(19ウ)客ニ二百兩三百兩ノ失却、大ニコマリ果タル吉良殿也。ソレノミナラズ

或トキ願ヒ申サルルハ、狩野探信繪ハ細カニ能彩色仕ル。私ドモノ分際ニテ書申サズ。日比所望ニ存ジ奉リ候御願ヒ申スト願マル。何トモ氣ノ毒ナレドモ御好ミ次第ニ申付ベシト挨拶ノ時、一幅二百羽ノ鶴ヲ望マルル。コレニ依テ探信ニ申付ラルル大ソウナルコト、百日二百羽ノ鶴ヲ書ク大幅物、絹地ハ別ニ織立、吉良殿ノ指図、右ノ絵出来迄ノ内ニ探信ニ五十人扶持彩色絵具代銀二百枚皆吉良殿ノ指図ニテコノゴトシ。常々カヤ(20オ)ウノコトニ役人ドモコマリテ、須知孫左衛門ト云用人利登ニシテ兎角吉良殿ハ出入分トシテ定式ニ馬一匹ヲツナギ進ス。馬取二人仲間二人鞍皆具勘定皆入レ立ニシテ扱折々馬モ替ユル。扱五節句ニ時服巻物毎冬白銀百枚參動交代ニ土産百枚相定テ音信ニ究マル。コノ以後ニ吉良上野介殿藤堂殿ニ来リテハ家老トモ役人ニ丁寧ニ挨拶、殿中ニテ太守或ハ泉州公ト敬マヒ、屋敷ニ来リテモ造作ヲイトヒ、万端勝手方ノヨキ様ニ致サルル。扱モ不屈ノ仕方、諸人爪ハジキラスルトイヘドモ、ソシラス体、(20ウ)憎サ憎サ大佞奸也。

一コノ度内匠頭役義相ツトメラル。元来一筋ナル古風ノ人体ニテ、世上並ノ追従賂賂スル人ニ且テ非ズ。諸人短氣ノ様ニ評判スルトイヘドモ左様ニモ非ズ。段々扱ナキ首尾ニ成究マリタリ。先最始馳走役付ラルルト即時ニ、伊達左京亮殿ヨリハ万端頼入

候トテ、吉良殿へ着時服ヲ送り又外ニ志歩判ノ金二百百兩音信アル。コノ旨留守居役ノ面々聞合セテ内匠殿ニ申、コノ方ヨリモ指越レ然ルベキヤト相伺フ。内匠殿申サルルハ、何条(21オ)武門ノ上ニ左様ノ作法ハ有ベカラズ。定メテ雜説成ベキト用ヒラレス。何ノ音信モコレ無、上野介殿ニ見マヒテ対面ノ時半時計内匠殿申サルルハ、拙者義今度御チソウ役仰付ラレ、勤方ノ義万端不案内ニ候条御指図頼入候ト申サレ、次ニ御手前ノ用人ドモニ私家来ノ留主居役堀部安兵衛諸事相伺申ベク条々、宜ク頼ミ奉ルト申サル時ニ大佞奸ノ賄賂取悪念ノ上野介ソシラス体ニテ、堂上方ノコトハ拙者トテモ不案内ノ義ハ御同前ニ候。御サシヅモ成難キノ由返答也。内匠殿(21ウ)申サルルハ、御老中方御列座ニテ仰渡サレ候時、貴方ニ申承ベキノ旨仰ヲ蒙リ候。兎角然ルベキ様ニ御指図ヲ頼入候ト申サル時ニ、上野介ハ只アラマシニサラサラト申シ談ゼラレ、ソノ上ニテ勅使ノ逗留中ハ毎日一度ツツ見苦シクコレ無様ニシテ御音信然ルベク候。拙拙者義ハ苦シカラズ候。御役目ニ付申サレタルコトナレバ、品川豊前守ナド方ハ八朝夕ニ御音物モ越サレ、御取成ヲ頼ミ入ト仰セ談ゼラレ然ルベク候。併ラ度々目立御遠慮ニモ候ハバ御家中ニ仰付ラレ、一時ニ(22オ)金子ニテサシ越シ然ルベク候。惣テ公家方ノ御馳走モ公義筋ハ簡略バカリニテハ不首尾ナル物ナ

レバ、ソノ御心得第一ニ候ト申ケル。扱モ貪欲不道ナル大佞奸ノ悪人ナリ。内匠殿ハ正直ナル人故ニコノ義何トモ心得難ク、先勅使・院使へ毎日音信ノコト定メテ子細コレ有義ヤト、直ニ御月番ノ土屋相模守殿へ參ラレ右ノ段々ヲ申サレ、如何仕ベキヤ御指図次第ト申サル。相模守殿申サルハ、タトエ上野介指図ニテモ心得難シ。勅使御逗留中ニ二三度程ノ進物然ルベキトコト也。内匠(22ウ)殿ソノ通りニ致サルル。扱惣テ高家衆ノ掛リカ様ノ節上野介ニアテラルルライヤガリテ、諸大名中皆々常ニ音信スルコト也。上野介ハ奢リ甚シキ人ニシテコレヲ取ザル時ハ奢侈成難ク、勿論上杉殿合力アレバ不自由ナルコトモ有マジキナレドモ、天然佞奸ニシテ人ノ僻也。是非ニ及バズ。内匠殿家来ドモコノ由ヲ聞テ、先年采女正ノ時コノ役御勤ノ節モ、吉良上野介ニ音信コレ有、兎角ニ金銀ヲ送ラレ然ルベシト申ス。内匠殿申サルルハ、我家ハ諸大名中内福ノコト諸人知処也。何ニ手ツカエスルニ(23オ)非ズ。又惜ムニ非ズ。吉良上野介ハ吉良ノ正統、高家ノ歴々、五千石領セラル。何ゾ未練ノ沙汰アルベキニアラス。夫レニハ及アマジキノ条、随分諸事念入諸入用ニカマワズ相ツトムベキ也ト定日ヲ待レケル。

勅使・院使江戸着之事

一元禄十四年三月十一日勅使・院使江戸着也。然ル処ニ上野介殿

ヨリ内匠頭殿へ内証申シ来ルハ、髓ニハ承ズ候方、兩使トモニ
当日ハ堂上方ニ付キ、重キ精進ト承ハリ候。料理体万端精進仕
立ニ成（23ウ）サレ然ルベク候トノ内意申来ル故ニ、皆万端精
進ノ用意ニスル。然ル処ニ留守居役新幕大武勇ノ者 忠義
大行ノ相談人堀部安兵衛心
得難キコトドモ也。公家方ニモセヨ、堂上方ニモセヨ、タトヘ
精進日ナリトテモ江戸着ノ日ハ精進ハ遠慮タルベキコト也。又
是非ニ扱ナキコトアラバ、日ハ違ヘラルベキニ不思議ノコトト
思ヒテ、兩様ニ用意仕ルベキヤト相伺フ。内匠殿申渡サルルハ、
兼テ申付ルゴトク、物入造作ハ少シモカマフベカラズ。上下ト
モニ料理ハ二色ニ諸事用意相トトノヘ、伊達殿ニ間合セラルル
（24才）処ニ何ノ沙汰モコレ無。扱ハ心得ズ不首尾ヲコシラユル
ト見ヘタリ。油断スベカラズト昼夜心ヲ配リケリ。

加藤遠江守殿浅野殿江密談之事

一爰ニ加藤遠江守泰実五方石同席ノ大名ニシテ、内匠殿トハ入魂也。
加藤殿ハ学才コレ有人ニテ常ニ慈愛深ク仁徳ノ人也。自然ト相
口ニテ、浅野殿ト度々ノ出合コレ有。コノ度御馳走役相勤ラル
ルノ見廻リトシテ内匠殿ニ来リ玉ヒ、何かト物語リ密カニ申サ
ルルハ、今度毎度吉良上野介ト御参会有ベキ（24ウ）也。去年
拙者日光ニ於テ上野介ト度々御用ニ付、御出合コレ有ベク候。
拙者手合仕リ能ク存知候以外、邪曲佞奸ニシテ奢リ強ク慮外ノ

仕方ソノ上ニ利欲ノ人ニシテ義理ヲ知ラズ。少ニテモ音信延引
ノ時ハ大ニアテ散々ノ体ニ候ヘドモ、御用大切ユヘニ万端憤リ
ヲ止メ候ヒキ。コノ度モ定メテ左様ノ仕方コレ有ベキナレバ、
必々御心持專要ニ候。御家名大事ニ候ヘバ万端御穩便然ルベク
候。拙者義ハ前々ヨリ御入魂ニ候故ニ是非ヲ顯ズ御内意申入候
ト念ゴロニ申サル。浅野殿ノ返答ニ近比御厚（25才）志忝キ次
第、存ジアタリ申義モコレ有。時宜ニヨリ定メテ難波ノコトコ
レ有ベキヤト存候。御心底ノ段御札申難キト申サル。後ニ思ヒ
当ルコトトナレリ。

増上寺宿坊間合之事

一勅使・院使定マツテ増上寺參詣ノコトアリ。毎歳ノ格式ニテ御
馳走人ヨリ宿坊ニテ饗応コレ有依テ内匠頭殿ヨリ宿坊ノ疊ノ表
カヘ小作事仕ルベキ也ト、吉良殿ニ内意尋ラル。吉良殿ノ返答
ニハ、呑モキラズ囁モキラズソノ段御勝手次第ノコトト申越ル
ル故ニ、伊達左京亮殿ニコノ義相尋ラルル（25ウ）ノ処ニ、吉
良殿ノ指ツニテ宿坊ノ疊表カヘハリ付仕リカヘ或ハ手水場用所
場悉ク致シカヘ悉ク相改メ候条、貴辺ニモノノ心得然ルベキノ
旨ヲ申越ル。コレニ依俄ニ宿坊ノ疊ノ表カヘ小作事等相調ヘ、
内匠殿吉良殿ヘ參ラレ、先日御内伺申談ジ候宿坊造作ノ義申付
相トトノヒ候由申談ラル。上野介申サルルハ、一段ノコトニ候。

トカクニ金銀ダニツカヒ候ヘバ何コトモヨク候。貴刃ニハ御代々福者ノ由ニ候。世話ニ申通り長者富ニアカズトヤ。万端御シマツニ候ヘバ御物入ノコトハ指図(26才)申難ク候。又伊達殿ハ随分不勝手ノ家ニテ金銀不如意ノ人ニ候ヘドモ、御用ノ方大事ニ致サレ物入イトヒ玉ハズ。コノ故ニ拙者モ遠慮ナクサシヅ仕候ト申サル。内匠殿内心ニ大キニ憤リ、扱モ野鄙ナルコトヲ云物カナト思ヘドモ、当前ノ恥辱赤面シテ挨拶ニ及ザルノ体也。カ様ノコトモ内匠殿鬱憤ノ一也。胸ヲサスリ帰宿致サルル。ヒタト相重ル遺恨モ一朝一タノコトニ非ズ。近比笑止千万ノコトドモナリ。

忠臣規矩順從祿卷之一終(26ウ)

忠臣規矩順從祿卷之二

一 凡劍ニ殺人刀活人刀アリ。夫劍ハヨク国家ヲ治メ身ヲ守ノ宝也。又国家ヲ乱リ身ヲ害ノ失アリ。常ニヨク慎ベシ。劍ヲ帶スル故ニ人ヲ害フノ氣ザシアリ。只身ヲ守ルノ主也。守ハ活人刀也。人ヲ殺セバ身ヲ亡ス。拔離セバサヤヲハナレテ殺人刀。コノ時ハ劍術達者ノハタラキ第一也。往昔ノ良將皆達人ナリ。守身ノ要用也。タトヒ大名高家ニテモ劍術ハ常ニ相嗜ムベキノコト、内匠殿心底ハ勇功(27才)ノ人ナレドモ劍術不手練上野介ヲ打モラス。コノ

故ニ家人トモ仇ヲ報ズ。乱騒ノ根元也。

一 明鏡ハ形ヲ照ス所以也。往事ハ今ヲ知ル所以也。誠ニ鏡ハソノウツル形ヲ照ス。向フモノ毎ノ姿ニカワル。悪ヲ以テ見ルトキハソノ形惡也。善又同前也。何ニテモ向フ物ヲ移ス故ニ神道ノ御正体ニモ鏡ヲ立ルコレ也。正直ノ誠也。古哥ニ我心鏡ニウツル物ナラバサソ姿ノ見ニカカルラン。然レバ鏡ホド正シキ者ハナシ。諸芸ヲ奥意ニモ心鏡ノ位ヲ要(27ウ)トスル。向フ敵皆我心ニウツル。又大ニ云ヘバ日天則明鏡ナリ。コレニ対スルハ常ノ人ノ行跡也。往昔ハ今ノ鏡惡人ノ罰セラレ、或ハ逆謀ノ人ノ亡ブル。ソノ押方ヒトヘニ鏡ニ向フゴトク前車ノ覆ル後車ノ戒也。必人トシテ古ノ道ヲ学ビテ善道ニ趣ンコソ第一ナレ。ソノ内ニモ佞讒ノ人ハ一度ハヨキ様ナレドモ是非ニ天命アリ。頼朝ノ梶原、後醍醐ノ坊門ノ清忠、ソレヨリ世ヲ過テ高時カ今川カ三浦カ、武田ノ長坂、秀頼ノ大野、皆コレラ至極ノ邪欲(28才)奸曲ノ大佞人也。又佞人ハ必ズ心猛々シクカマビスシク常々人ノ難義ヲ悦、善事ヲ妬ミ、我方手前ノ為ニヨキ人ハ入魂ニシテ、サモナキ人ハ外ノ様ニ悪ク云立テ、面ニアテ詞バヲ賤シメ人間ノ大毒トナル。コレ吉良上野介也。コノ人ノ奸曲ハ今

ニ始ザルノコト、誠ニ危ヒカナ危ヒカナ。

勅使饗応御能之事

一元祿十四三月十三日勅使・院使饗応トシテ殿中御能アリ、種々ノ珍物数多ノ献酌用意夥シク老（28ウ）中ヲ始メ諸役人御譜代衣冠ニテ登城ナリ。ソノ行粧ゲン重也。勿論御馳走番淺野内匠頭・伊達左京亮並ニ高家衆吉良上野介・品川豊前守・大友近江守登城ナリ。十二日ノ夜前方ニ装束ノコト内匠殿ヨリ上野介殿ノ方ヘ開合也。吉良返答ニハ、明朝ハ定メテ長上下、明後日勅答ノ節ニ衣冠カト覚ヘ候トノ返答ニ長袴ニテ登城ナレドモカネテ大紋モ用意アリケリ。殿中ノ模様シラスル人アリ。留守居役ノ人開合テ俄ニ衣装仕替ラル。近比以テ卒忽ノ至リ也。扨殿中ニハ吉良上野介ニ対面（29オ）、昨夜御尋申ス処長袴ト仰聞ラレ候。左様ニ非ズ候故ニ致シカヘ候。扨勅使登城ノ節御玄関式台石段マデ御迎ニ出申スベキヤト相尋ラルル時ニ吉良殿ノ返答扨モノクキ口上、衣冠ノコト勿論我々体ノ出合ニモ麻上下ヲ着用仕ル。況ヤ堂上方殊ニ勅使饗応ノコト袴トコロニテ有ヘカラズ。少御心ノ付キ申様ニ貴辺ノコト御ヒイキニ存ジ候テ申進候。扨御迎ヒニ出ラルルコトハ御馳走番ノコトナレバ御迎ヒニ出ラレ然ルベク候ト立別レテ御白書院ノ方ニ行ルルニ坊主トモニ向ツテ（29ウ）内匠殿ハ十方ナシ也。何トシテアノ分際ニテ御馳走

役首尾ヨクツトマルベキヤ。空虚ノ人ナリト声高ニ申サレケル。側ノ面々モ笑止千万、内匠殿聞レザルゴトクニカレコレト云ヒ紛ラス。シカレドモ内匠殿モ聞トドケラレ残念ナルコトナレドモ、ソノ日モ役義大切ナレバ胸ヲサスリテ帰宿アル。明レバ十四日扨口ナキ首尾故ニ刃傷ニ及ベリ。

淺野内匠頭・吉良上野介口論刃傷之事

一内匠頭殿ハ十三日御玄関ニテ上野介ガ悪口佻奸ノ口上胸中ニ充滿テコレ迄トハ思ハレケレ（30オ）ドモ、勅使・院使登城御チソウノ役トシテ勿体ナシト心ヲシツメ、赤面シテ聞ヌ風俗ニテ居玉ヘリ。側アタリノ人モ内匠殿年若ナレバ聞捨ニハシ玉ハジト、面々眉ニシワヲヨスルト云ヘドモ、内匠殿ソノ日モヲトナシクカンニンシテ帰宿。上野介比興ノ心底ト大ニ嘆息シテ残念ニ思ハレケリ。

一明レバ元祿十四三月十四日勅使・院使登城將軍勅答仰上ラルベキトテ御白書院ヲ御対座ニ相カマヘ御三家・御譜代中・老中・諸役人皆衣冠ニテ列座也。勿論公家衆御馳走役淺野伊達高家衆列座（30ウ）也。コノ節五ノ丸ヨリ^{三ツ丸}今度勅答仰上ラルルノ御使梶川与惣兵衛登城シテ、松ノ間ノ廊下ニ伺公スル。コノ処ニ吉良上野介来テ勅答ヲ仰上ラルル次第ヲ何カト梶川ニ讒セラルル。然ル処ニ御老中連名ノ奉書、勅使・院使勅答相スンデ江

戸發輿ノ節、御用ノコトドモ也。吉良上野介・品川豊前守・大友近江守・浅野内匠頭・伊達左京亮連名ニテ今度御馳走ノ筆頭役故ニ右ノ奉書吉良上野介ニ相ワタス。則松ノ廊下ニテ吉良殿ヨビ玉イテ伊達殿モ拝見ナリ。高家衆モ皆拝見アルニ内匠殿ハ(31オ)コノコトシラズ。品川殿コノ節内匠殿ニシラセ申サルルハ、御奉書連名ニテ上野介殿持タル松ノ廊下ニ居申サル、急ギ御ラン候ヘトノコト故ニ内匠殿モ相心ヘコノ処ニマイラレ、上野介ニ向ヒテ、御奉書出候由、拙者モ頂戴仕ベキト手ヲ指出シ玉ヘリ。コノ節上野介ハ左リノ手ニ持タルヲ右ニトリ直シテ、コレハ貴方ノ見ラルル物ニテハコレ無候ト懷中ニ入ラルル。内匠殿押カヘシテ、連名ニテ拙者ノ名モコレ有由、是非拝見仕ベシトサシ出シタル手ハ引玉ハズ。上野介立ナガラ申サルルハ、是非(31ウ)ニトハ色立タル詞カナ。是非ニ貴殿ノ御ランアル物ニ非ズトズツト立テ行ントシ玉フ。ゲニヤ内匠殿年若ナリ。何ト堪忍ナルベキヤ。段々意恨重ナリタルアトナレバ今ハコレ迄ト声ヲカケ、イカニヤ上野介未練千万ノ心底、今度ノ義ニ付打重ナリタル鬱憤、ニゲ玉フナトヌキ打ニ丁ト切付玉フニ、冠ノコジニアタリテ勿論切ハナレタレドモ左ノ小ピン小耳ノ上迄上皮ヲカスリ切レタリ。上野介アワテテソノ場ヲ立サラント逃玉フ。佝人ノクセトシテ大臆病是非ニ及ズ。逃サマニ御(32オ)

殿中狼ゼキ者ト一声呼ハルアトヨリ、内匠頭殿太刀フリカサシテ、コノ比興者ト首筋ノ処ニ切付ル。コレモ冠ニサハリ後ロノ髪ノ結目ノ処ヨリ三四寸切下ゲタリ。倒ルル処ヲ亦切付ル。装束ニサワリ浅キズ也。ソノ内ニ近辺ニ居合タル梶川与惣兵衛走り来リ後ロサマニ両手ヲ抱テシカト組ンダリ。コノトキニ内匠殿声高二、ハナサレ候ヘトモギハナサントシ玉フ。梶川ハ四十有余ノ古兵、又タクマシキ男ニテ中々ハナサズ。内匠殿ハ無念トノミ申サレタリ。坊主衆関久和走り来リ短刀ヲ(32ウ)モギトリタリ。品川豊前守・大友近江守兩人来リ上野介ヲカカエ退レタリ。上野介当分タヘ入タリ。然レドモ浅疵故追付正氣モ付キタリ。吉良臆病言語道断武士ノ恥辱コノ上ナシ。又浅野殿モ三刀切付ラルル内ニナドハ突込レザルヤ残念。勿論ソノ期ニナリテハ違フ物ナレドモ常ニ手練致サレザル故ニコノゴトシ。大将タル人モ心掛クベキ第一也。往昔ノ良将義経義貞ヲ始メ皆々劍術上手也。コノ節上野介ヲ仕トメザルハ近比残念ノコトナリ。カ様ノ次第ナレバ内匠頭殿短氣トモ申サレザ(33オ)ルコトナリ。コノ節ニ上野介ヲ仕フセザルハ近比残念ノ至リ也。カクテ兩人ハ一間ニ押コメタリ。殿中俄ニ震動シテ何かハシラズ喧嘩ヨト、諸大名中マデ立サワギ、御書院番中御小姓組或ハ大番新番諸役処御小姓組或ハ大番新番諸役処御近習御台所スジマ

テ何ノ訳モシラズ立サワグ。ソノ節ニ御詰衆菊ノ間伺公ノ面々ノ内、松平原次郎若年十五歳ノ時ナガラ座ヲ動ズ申サルルハ、御譜代御ツメニ伺公ノ役目ハカ様ノ時節也。各暫時御シツマリ候ヘ大目付中ヘ相尋ネテ御老中(33ウ)ノ指ツヲ相待然ベキヤト申サル。皆々年バ(ヒ)ノ面々大ニ恥入、感心シテ本座ニ付レケル。皆々大ニ替テ、誠ニ若輩ノ心ニテ近比才発ナル生レ付、成長ノ以後察セラルルト諸人コレヲ称美ス。脇坂中務少輔挨拶、只今浅野内匠頭意趣アリ、吉良上野介ヲ討レタルトノコトナリ。別条コレ有マジトノコトニシテ皆静マレリ。コノ事後々沙汰アリ。土屋相模守殿聞及バレ、松平原次郎殿ハ乞婢ニ致サルル、松平左近将監ノコト也。去ホドニ御近習騒動ヲヒタダシク、將軍家ハ御行水御清メノ最中也。御近習奥(34オ)衆騒動シテ、只今浅野内匠吉良上野介ヲ討ノ旨申上ベシト騒グ時ニ、御側衆役ノ柳沢出羽守御次詰ニテ皆諸人サワグヲ押止メテ、カ様ノコト御行水ノ処迄アワテ言上然ルベカラズト押ヘテ御行水相スミ御髪上ゲ玉ヒ御装束ニ御カカリノ時、柳沢殿御前ニ出ラレ、只今松ノ間ノ廊下ニテ浅野内匠頭・吉良上野介刃傷ニ及ビ上野手輕ク存命ニマカリ有。内匠・上野介モヲシコメ指ヲキ候。只今サシアタリ御馳走役浅野内匠頭替リ仰付ラルベキヤ。又松ノ間ノ血ケガレニ候ヘバ疊(34ウ)ノ取カヘ障子ノ張カヘ又張付

等急ニ消メ仕リ候ト申セドモ勅答ノ義如何、天奏中ニ御尋、只今コトノ急コトハコノ二色ニ候ト申上ラレケリ。將軍大ニ御機ケンニ相叶ヒ、出羽守ガゴトクニ皆々相心得候時ハヨキコト也ト殊外ノ御ホメ也。後々ハ諸人ノ嘲リ人ナレドモ出頭致サルル程アリ。随分発明ノ人也。コノ節御老中ヲ召サレ、内匠頭カワリニ勅使御馳走役八戸田能登守ニ俄ニ仰付ラレ立処ニ御馳走役入カワル。スデニシテ勅使・院使登城アル。コノ節先御尋ネコレアルハ、浅野内匠・吉良上野義(35オ)刃傷ニ及ビ殿中血ケガレ候条、勅答御延引コレ有ベキト御尋ナリ。高野中納言保春卿ノ御返答ニ御座敷カワリ棟別ニナリ候ヘバ、クルシカラズトノコト故ニ、俄ニ黒書院ニ御カザリ悉ク相カワリ恙ナク勅答相スミ公家衆帰洛ノ御暇相スミケリ。

浅野・吉良形付之事

一吉良上野介ハ高家衆ノヘヤニ押コメヲキ手疵重ク相ミユル。老中ノサシツニテ栗崎道有ニ療治申付ラレ、血止リ正氣ニナル時、御目付中ノ御(35ウ)尋ネニナリ、佞人ノ口上ハ格別ナリ。亦イヘバ云ルル物也。上野介申サルルハ、浅野内匠頭ニ何ノ遺恨モ候ハズ。察スル処乱心ト相ミヘ候。拙者義モ刃向ヒ立合勝負討トムベキモ安ク候ヘドモ、殿中ノ御法令喧嘩ハ利非トモニ御停止也。ソノ上今日ハ勅答ノ御祝義カタガタ以テ時節アシク候

故二場処ヲ退ゾキ申ベキト仕候故二後口疵ニナリ、又年ヨリ故
ニ手足軋動タラレ申候也トノ口上、尤千万神妙也トノコト、扱
モ佞人トハ知レドモ時ニアタツテ尤千万ト聞ユル。コレニ依上
杉家ノ屋（36オ）敷ニ引トリ養生仕ベシトテ、御城ハ下ラルル
也。扱内匠頭ハ御目付衆入カワリ入カワリ子細ヲ相尋ルトイヘ
ドモ、是非ノコト一言モ申サレズ。即時ニ御奉書ヲ以テ田村右
京大夫殿ニ御預ケ、則引トラレケリ。コノ以後ニ勅答御祝義モ
相スミ未ノ半時落着シケリ。

内匠殿切腹之事

一角テ殿中御老中ヲ御前ニ召出サレ、内匠頭義今日ノ仕方不届千
万也。カネテノ法令殿中ニテ口論利非トモニ停止ニ申渡シコレ
有。又殊ニ勅答ノ（36ウ）日限也。然レドモ外ノ人ニモ非ズ、
ソノ勅使ノ馳走トシテ私ノ宿意ヲ以テ殿中ヲサワガス不届千万
コレニ過ズ。切腹申付ベシ。檢使ニハ大目付庄田下総守・目付
中多門伝八郎・大久保権左衛門歩行目付二人ソレゾレニサシ超
ベキト御直ニ仰付ラルルノトキ、誰一人一言モ申サズ諫言申ス
人モナカリケリ。コノ時ニ稲葉丹後守正通申上ラルルハ、恐ナ
ガラ内匠頭義時節ヲワキマヘズ殿中ニ於テ理不尽ノ仕方、ヒト
ヘニ乱心ノ体ニ相ミヘ候。切腹ノ義ハ暫ク御見ツクロヒ然ルベ
キヤト恐レナガラ（37オ）存奉ル旨謹ンデ申上ラル。コノ節大

ニ御キゲン損ジテ一言モ仰ラレズ、フト御立アリ。丹後守遠慮
ニ及ズトノ上意ニテ入御也。追付月番土屋相模守ヲ召、先ホド
仰出サレノゴトク、内匠事田村右京大夫方ニテ切腹申付ベシ。
檢使大目付庄田下総守並ニ目付中多門伝八郎・大久保権左衛門
歩行目付磯野武夫御書付出ル。相模守是非ニ及バズ御前ヲ退
ゾキ又出テ伺ヒ申サルルハ、内匠頭死骸ノ義ハ弟大学頭方ニ引
トリ申ベキヤト御伺ヒ、苦シカラズ大学方ニ引トラセ申ベシト
也。去程ニ（37ウ）俄ニ相模守ノサシヅニテ庄田下総守御目付
中兩人田村右京殿ヘマイラルルハ申ノ半時ナリ。扱庄田下総守・
多門伝八郎・大久保権左衛門列座田村右京殿内匠殿同道ニテ出
申サル。上意ノ赴ハ浅野内匠頭義吉良上野介ニ遺恨コレ有由ニ
不届至極ニ付切腹仰付ラルルノ旨申渡サル。畏リ奉り候トノ御
請ニテ行水以後麻上下田村殿心ツキ白裕ニ（38オ）ツ着セラル
ル。庄田殿ノサシヅニテ小書院ノ庭上ニ疊三疊シキテ白布ヲ敷
タリ。座敷ニ大目付庄田下総守縁側ニ御目付兩人浅野殿座ニ出
ラルル時、大ニ心ニノラザル様子ニテ最期ニ望ンデ場処ヲカレ
コレ申スハ未練ニ及ビ候条、相心ヘ候ト庭上ニ下リラルルノ時、
檢使庄田下総守ヘ向テ、吉良上野介コトハ相ハテ候ヤト尋ラル
ルノ節、庄田殿挨拶出カネタリ。田村殿ニモ暫クタマラルル。

コノ節田村殿ノ家老伊達織部主君右京ノ側ニ来リササヤクコレハ内匠殿
最期ニ現念ナキ様ニ
トコト内意ヲ云也(38ウ)ソノ時田村殿申サルルハ上野介コト老人、

深手故ニ先刻死去致サレタル由略承ハリタル由ヲ申サル。内匠

殿殊ノ外ニ心ヨゲニ、扱ハ存残スコトコレ無ト申サル。扱拙者

男子コレ無故ニ弟大学頭兼テ心当養子二年老中迄願置申候。然

ルニ大学私存念ニ相叶申ズ当春義絶仕候。コノ旨老中迄申達ベ

キト存候。カ様ノ仕合私名跡ニ相立申ス覚悟コレ有ト申サル。

コノ義ハ父子トアラバ自然崇リモコレ有ベキヤトノ心底故ト相

聞ヘケリ。

一介錯ノ太刀ハ内匠殿自分ノ指領ノ刀ヲ望マル(39オ)ル故、望

ノゴトクニスル御歩行目付磯村武太夫介錯ニ出ル。内匠殿敷皮

ニ座ノ時、三方ニ短刀ヲ載テ出ル。小刀布ニテ巻ケリ。同三方

ニ土器ヲ一ツ載アリ。時ニ土器ヲトリ酒一ツ呑ンデ土器ヲ膝ニ

アテテヲシワリ三方トモニ小刀ヲイタダキテ、相手上野介相果

申ス上ハ何ニ存念モコレ無ト打笑ヒ、短刀ノ布ヲシマクリ兩

ハダヌギ片膝ヲ押立、小刀ノ切レアジ如何ト袴ノ上ヨリ右ノ股

一寸バカリウツプシニナルルヲ首ヲ上ニ搔上ゲテ実檢ス。速

ナル最期也。右ノ段見届ケテ庄(39ウ)田下総守・多門伝八郎・

大久保権左衛門ハ帰ラレケリ。

渡スベキ旨、コレニ依大学頭殿ヨリ家老老中来ル。内匠殿家来

用人ドモ並ニ堀部安兵衛来リ、死骸ヲウケトリ菩提寺芝泉岳寺

ニ葬リタリ。田村殿ヨリモ葬送二人ヲ添ララル。随分ヒソカニ

仕ベキ旨内意故ニ讒ナル葬送也。ゲニヤ惜ムベシ惜ムベシ。コ

ノ日イカナル日ゾヤ。浅野豪傑ノ門葉ニシテ一城主タリ。官位

俸禄モ身ニ随フ事ナク妻子(40オ)従類家人モ命ヲ同フセズ。

実ニヤ世ノ有サマ有為転変也。

田村殿之事並庄田下総守役義召放サルル事

一松平陸奥守綱村コノ度ノ始終聞トトケ大キニ立腹シテ田村右京

太夫ト義絶ニ及ブ。子ドモ衆ハ別条ナク一代切ノ不通ナリ。子

細ハ今ノ右京太夫父田村隱岐守宗良ハ古陸奥守綱宗ノ為ニハ舎

弟也。然レバ今ノ陸奥守殿トハ従弟也。然レドモ分地類葉ニテ

別テ也。浅野左京太夫幸長ト伊達正宗トハ朝鮮陣ノ節ヨリ大ニ

不和ニシテ今ニ至テ通路(40ウ)コレ無。コノ義ヲ寄ニ申出サ

レ先祖ヨリ不和ナレバ武門ノ義コノ節御コトワリ手前ニテ切腹

ハ有マジキ事、亦成サル迄モ一応ハ申ナダメテモ見タキ物也。

コノ方ニ相談モ仕ラルベキ筋也。ソノ上ニ大目付ノ指図ニテモ

一城主タル人、殊ニ一家一門コレ有、亦武士道ニソムキタル人
ニ非ズ。タトヒ逆謀ノ人ナリトモ白洲ノ庭上ニ下ロシテ切腹、
古今有ベキコトニ非ズ。陸奥守分レノ家従ニハ大ニ不足也。子

共ハ出入家門タルベシ。右京太夫一代ハ対面ニ及バズト申サル。以後色々ワビ言申サルル(41オ)ト云ヘドモ終ニ承引セズ不通致サレケリ。

内匠頭屋敷落着之事

一 庄田下総守コノ度ノ檢使以後次第一々糺明ノ上、内匠頭白洲ニテ切腹有マジキ法也ト公方ノ御心ニ相叶ワズ。下総守役義不相応、内匠切腹ノ時サシジ宜シカラズ。コレニ依大目付役召放サレ当分逼塞也。

一 大目付溝口祺津守ヲ以テ淺野大学頭ニ仰渡サルルハ、同姓内匠頭義不屈ノ仕方ニ付、切腹仰付ラルル。大学義閉門仰付ラレ、亦仙石伯耆守ヲ以テ吉良(41ウ)上野介ニ仰渡サルルハ、上野介事御作法相ソムキタルコトモナク御構ヒコレ無。手疵養生仕リコレ迄ノ通りニ相ツトメ申ベシトノコト也。

一元禄十四年三月十四日御奉書ヲ以テ戸田采女正殿ニ仰付ラレ、鉄炮洲ノ内匠頭屋敷騒動仕ザル様ニ警固仕ル様ニトノコト故ニ、俄ニ人数五百人屋敷廻リ辻固メノゴトクニ出タリ。コレハ吉良上野介存命ナレバ内匠家来ドモモシ狼藉仕ベキヤトノ遠慮ナリ。同日奉書ヲ以テ松平安芸守殿へ御下知、内匠頭家来ドモ早々退散仕ルベキ旨申渡シ、(42オ)片付ケ屋敷ハ御目付中ニ相渡スベシトノ上意也。コレニ依安芸守殿ヨリ家老豊嶋安左衛門・寺尾

庄左衛門並ニ物頭三人目付兩人給人三十人雜兵三百人サシ越、家財雜具ヲトリハラヒ家中諸士是非ヲ論ゼス引払フベシトノ事也。ソノ騒動以ノ外上ヲ下ヘト混乱セリ。

一 内匠頭殿江戸家老安井彦右衛門十五藤川武左衛門七百石兩人ノ中ニ安井彦右衛門ハ古今希有ノ臆病者ニテ兎角ノコトモナク公義ノ首尾大事也。早速開キ渡シ御用金配当然ルベシトコノ作(42ウ)略ヲ第一トス。コノ内ニ武林只七郎コレハ内匠殿乳母ノ子ナリ乱心ノゴトク大ニ怒リ、家老中又侍トモニ如何心得玉フヤ。主人ハ切腹相手上野介ハ御免ニテソノ俣ニ居ベキヤウヤアル。是非家中打立テ天岳迄モ吉良殿ヲ打留ント云。堀部安兵衛・松村三太夫・同喜兵衛・奥田孫太夫・神崎与五郎カレコレ十四五輩是非ニ打立ント云時ニ、家中ノ安井彦右衛門・藤川武左衛門且テ同心セズ。イヤイヤ主君ノ御生害イマダ実説聞ヘズ。暫ク見合セ玉ヘ、何時ニテモナルコト也。先御下知次第ニ致サレヨト無理ニサシ(43オ)トメ同道引退キケリ。

一 内匠頭殿御内室ハ淺野式部少輔殿ノ妹ナリ。女中ナレドモ甲斐甲斐シク屋敷ヲ引ハラワルル時ニ諸士役人ドモニ対面家中ノ者定メテ残念ニ存ベキ也。女ノ身ニシテ同前也。男子一人ニテモコレ有バ屋敷ハ払フマジ。相トモニ死ベキニ是非ナキコト重ネテ諸士中ノ願スジモ有ベキコトト屋敷ヲ引ハラハレケリ。

一江戸諸侍トモハ用金ヲ沢山ニ分ケトリ、一味同心思ヒヨラス。面々ノ身ジマイノ内ニ堀部安兵衛(43ウ)棟梁シテ十人バカリハ配当金ヲトラス、右分散ノ金ノ内一万両ヲ御後室ノ方ニサシアゲ式部少輔殿ノ屋敷ニ送リケリ。

一内匠頭殿家中常々大石内蔵介法令堅キ故ニ、コノ節サマデ騒動モナク役人トモハタラキ、俄ニ小旗ニテ一二三ノ番付シテ舟ニツミ、武器雜具安芸ノ屋敷ニ引トリ家中ノ雜具皆舟ニツミ出スニ、一人モ盜賊ナク亂雜ナク引ハラフハ勿論、安芸守殿家老トモノ下知ヨク屋敷モヨクシマリタル故也。夜中ノコト人目モ苦シカラズ家中足弱マデモ(44オ)舟ニテ退口、皆親類中屋敷ノ手寄ニ引ハラフ。近比神妙ナリ。翌朝ニ至リ屋敷ノ掃除マデカタ付、戸田采女正殿ニ相ワタセリ。同十九日諸処ノ屋敷トモ上ラレ、本庄ノ屋敷バカリ大学頭ニ下サレケリ。

忠臣規矩順從祿卷之二終(44ウ)

忠臣規矩順從祿卷之三

兵書ニ云、前ニ大海ノ潮逆マクト云ヘドモ動ズ。後ニ大

山崩ルト云ヘドモ動ズ。コレ丈夫也。和漢トモニ往昔

ヨリ忠臣ノ世ニ称美スル人多シト云ヘドモ今タトエヲト

ルニ前代ニコレ無義信、アア忠臣大石内蔵助良雄古今無

双ノ勇、前ニ雷電ノ落カカルニモ眼マジロカズ、コノ上

ナキ大海ノ潮逆マク上リ打返スニモ且テ心ヲ動サザル大石也。面々口上ニハ剛強ライヘドモ、少ノコトニ心ヲ転ズ。戸板ノ鳴(45オ)ルヲ聞テモ火事ノ太鼓ト胸中サワギ臆ス。コレ全ク生死ノ沙汰ニ及ズ。火難ハカロキ人並ノコトニサヘコノゴトク悪事ライム人ノ心ニハ必鳥鳴ノ

ワルキモ氣ガカリニ動ズル心ニ誤ルコトナケレバ何ホドノコトアリテモ騒ズ。後ヘノスサマジキコトハ大山ノ崩ルルニモ少モ騒ザルノ心コソ丈夫ナレ。然ルニ我々ハ夜中間カリニ野路ノ後ロヨリ風ノ吹ニモゾツトスル。スサマジキ咄ヲ聞テハ後口髪ノ引ルル。コレ皆同ジ心ナリ。コノ間ニ動ザル(45ウ)ヲ丈夫ト云フ。貴賤上下相トモニ丈夫心ニハ成ザルマデモ随分修行スベキ也。心丈夫ナレバ且テ辛勞スルコトモナク、定ツテ静也。静ナル処ニテ物ノ分別ヲ作略モ出ル也。然リトイヘドモ亦天然生レ付タル処モアリ。コノタシカナル人ハ大石内蔵介良雄父子也。

一元祿十四年三月十五日出仕ノ諸大名中へ大目付仙石伯耆守・溝

口撰津守殿ヲ以テ仰出サルルハ、浅野内匠頭義殿中ノ法令ヲ背

キ仕方宜カラザルニ付、切腹仰付ラル。吉良上野介ハ別テ御式

(46オ)法ニ相背カザルニ付、ソノママニ御免ノ条、各左様ニ相

心得申様ニ仰出サレ落着シケリ。然レドモ浅野一家ノ残念推量シアヘリ。

赤穂城請取仰付ラルル^並梶川増知之事

一 三月十五日梶川与惣兵衛御前ニ召出サレ、今度浅野内匠頭狼藉ニ及ブノ処ニサシトメ働キ神妙ニ候。加増五百石ヲ下シ玉ハル。初七百石都合千二百石也。誠ニ武門ノ規模也。コノ節ノ御法令ハ只物ゴト御器量厚ク功ニ代、時ヲ超ヘズ。コノ御褒美也。浅野殿ノ為ニハ悪シキ人ナレドモ、武士道ニ於(46ウ)テ殿中ニテノ狼藉早速ニ取リシヅムルハ手柄也。然レドモ又武門ニハ情アリ。カ様ノ節ハ手付タル相手仕トメサセテソノ跡ヲ仕伏スルヲ上トスルナレバ、組フセ倒レサマニ一太刀指サスル程ノコトハアリ度物ナリ。然レドモコノ節ニ押コンテ組トムルハ先大勇也。手柄ホムベキコト也。

一 既ニコトキワマリ浅野内匠頭切腹、屋敷コトゴトクニ召上ラレ御仕置相ス。以後ニ播州赤穂ノ城召放サル。城請取脇坂淡路守^{播州立野城主 木下肥後守 御中内府殿主 御目付荒木十左衛門・榊(47 五万石)}原采女正御代官石原新左衛門御勘定岡田庄太夫コノ面々仰付ラレ、勿論御定ノ軍役ヲ以テ人数召連ベキトノコト也。軍役ハ千石ヨリ定マリ十万石迄ツモリ御定書ニ通アリ。ソノ上ニ大身ハ皆ツモリ合セヲ以テ出スコト也。凡ニ万石ニハ武者十七騎

鉄炮三十挺弓二十張長柄二十本雜兵四百五十人余也。コノ格ヲ以テ脇坂殿二千五百人ノ着到ナリ。木下殿モ知行高分限相応ナリ。各三月二十八日江戸発足ニテ、面々ノ領地ニマカリ越、聞合ヲ以テ赤穂ニマカリ越ベキトノコトナリ。(47ウ)

千坂兵部諫言、吉良上野介隠居之事

一 上杉弾正忠綱憲ノ家老職千坂兵部主君上杉殿・吉良殿ニ諫言申スハ、コノ度ノ義浅野一家ノ思ワク又善ニモ惡ニモ上野介殿ノ手疵モ見苦シ。コノ上ニ二方ガ一浅野家ノ宿意ニヨツテ討果サルニ於テハ上杉殿ノ恥辱也。ソノ上ニ内匠頭殿ノ家臣トモ皆譜代相伝ノ義士アリ。舍弟大学頭小舅浅野式部少安芸守イカヤウノ謀略ヲ以テ不慮ノ最期アルマジキ物ニアラス。上野介殿トカク御隠居然ルベキナリ。ソノ上ニ二テ随分用心アリ然ルベ(48オ)シト達テ諫言ス。コノ故ニ上杉彈正殿ヨリ頓ヒヲ上ラルル。尤ノコトニナリ、上野介役目御免、追付隠居仰付ラレ子息吉良左兵衛家督相違ナク^{四百石}役目高家ニ仰付ラルル。扱幸福ナル人、アア誠ニ時メキタルコト、去ナガラ心アル人ハ如何思ハン。勿論吉良ハ源氏ノ正統ニシテ世々家名ヲ落サズ。暫ク零落スルトイヘドモ子細アリ。神君ノ召出サレ高家ノ一員ニ入、上野介ハ位四品ニ上リテ少将ニナリ、殊ニ老体ニシテ世ニモテハヤシ果報イミジ。然レドモ驕暴甚シク利欲倭奸ニシテ世ニ(48ウ)發

向ノ人ニハ追從シ、及バザル人ニハ大ニ落シアナヅリ、不義甚シキト云ヘドモ当代紀伊ノ太守ノ掣、上杉ハ我子ナリ。コノ故ニコノ度モ御隠居目出タキトテ諸方ノ賀義幸ヒアル哉。併不義ノ富ハ浮ベル雲ノゴトシ。後ノ禍ヒ如何アラント眉ニ皺ヲヨスル人モアリ。

赤穂ノ沙汰、大石内蔵介作略之事

一 小笠原佐渡守殿ヨリ松平安芸守殿へ御奉書、今度浅野内匠頭領地赤穂ノ城早々引渡諸士離散仕ル義、三十日限りト申付ベキノ旨上意。コレニ依安(49才)芸守殿ヨリ早追ヲ以テ赤穂ニ下知セラルル。又土屋相模守殿ヨリ戸田采女正へ仰付ラルル次第ハ、赤穂城(地)引渡シ候ヤウニ松平安芸守へ仰付ラレ候。家中ノ侍共作法混乱コレ無ヤウニ離散仕ルヤウニ念入申付ラルベシ。コノ段浅野一類衆ニ戸田采女正方ヨリ申入ルベキノ旨ナリ。コノ義三月二十三日ノ案内也。コレニ依采女正殿ノ家老戸田権左衛門・物頭杉村重太夫・里見孫太夫三人先立テ赤穂ニ発足ス。ソノ跡ヨリ用人物頭都築市左衛門各三月三十日ニ赤穂ニ着皆々町宿ニ逗留(49ウ)シケリ。

一 三月十四日殿中喧嘩ノ次第赤穂ニ早追ニテ早水藤左衛門・芦野三平兩人十四日発足、同日夕切腹ノコト申来ル。早追原惣右衛門・大石瀬左衛門兩人道中ニテ追付同月十八日ノ昏時ニ赤穂ニ

着。^{四五}早追到着スルト一時二家中ニ町中騒動家ナミニ挑灯ヲ出シテ万灯ノゴトク、諸人ノ乱雑ヒトヘニ津波ノ打来ルゴトクナリ。家中ノ諸侍八面々ノ知ル方ニ走リツドヒ何ノ方角モナキ有サマドモ尤ナリ。大石内蔵介ハ兼々勇兼兼備ノ(50才)人ニシテ夜中ノ騒動ニ少シモカマワズ、四人ノ使者ニ対面シテ江戸表ノ様子ヲ聞トドケ、是非ヲ云ハズ大キニ泣入り涙数行ニ及ンデ、口ヲシキ体顔色ニアラワレ暫ク絶入り玉フホド也。子息主税モ十六才ナレドモヲトナシク側ニ伺公シテ居ル内ニ奥方母義ニ告タリ。コノ母義ハ主君内匠頭殿ノ伯母ナリ。即時ニ表ニ出酒盃ヲ持出デテ大音ニテ内蔵介ヲ呼ビ大キニノシリテ、大石殿日比ノ心底ニハ似モセズ。以ノ外ノ有形ナリ。只今江戸ノ様子ヲ聞ヒテ家中町中騒動、只内蔵介(50ウ)一人ヲ月ニモ星ニモ思フ節也。然ル処ニ女童ベノゴトク今取乱シタル体、沙汰ノ限り先酒一ツノミ玉ヘト進ラルル。内蔵介居ナラリテ盃ヲイタダキ、全ク心臆スルニ候ハズ。当春ハ別テ御心掛リドモコレ有糸、四五日逗留仕ルヤウニマカリ下リ候ヘト御自筆ニテ御書度々下サレ候処ニ、当夏ニナリ御上リモ近シ。私道中大義ノコトハ少モコレ無。私下リ候トキハ家中ノ諸侍不思議ヲ立テ亦世間ニモ評判何ゴトゾ、子細アリヤト申スベシト御断リ申上候コトヲ後悔仕リ候。誠ニコレハ神ヤ引(51才)ケンカカル端ニ

ヤ、残念千万。私に江戸仕り候ハバコノ度ノ難儀ハ有マジキニ
扱モ不忠ノ私ト存知、且又主従ノ別レ旁忘却仕り候。又夜中ニ
取りアワテタルモ如何。明朝ヨリ事ハシラベ申ベク候。今ハ是
非ナキコトニ候。只残念ハ御子ドモコレ無、又御弔ヒノ程モ心
元ナシト盃ヲ取テ親子酌カワシ、扱早水・芦野・原・大石四人
ニ盃ヲシテコノ面々直ニ自分ノ屋敷ニ帰ル。コノ四人後々マデ
心底ヲ動かズ隨身セシハ忠義一ツ、勇武一ツ、実ハ大石ノ心底ノ
アワレニ切ナルヲ感ジ入りシ故也トコノ四人(51ウ)後々迄モ
申シハベリキ。扱コノ夜半比ニ郡奉行渡辺覚兵衛二百五大目付役
橋本平左衛門百五十石、兩人ヲ呼ヨセテ赤穂町ノ花岳寺菩提処ニ指
越、明朝ヨリ二夜三日ヲ仏事作善ヲモキ御法事、僧坊ヲ供養修
行アルベシ。内蔵介参詣仕ルベク候ヘドモ結局御奉公ニモ成ズ
候。明朝ヨリ侍中五人ツツ御法事番ニ参ラルベシ。内蔵介自分
ノ金子百兩米百俵ヲ指上ソレヨリ夜ノ明ルマデ何かト作略、誠
ニ大丈夫。前ニ大海ノ逆マキ後ヘニ大山ノクヅルルニ少シモ動
ズ。勇知タシカナル内(52オ)蔵介ナリ。

大石主税元服之事

一明レバ三月十九日早横雲ノ比、内蔵介ハ嫡子主税ヲ呼ンデ、ソ
ノ方只今同道シテ登城スル。既ニ十六歳ナリ。父ト同ク一命ヲ
ステテ別心ナク相勤ムベキヤ。主君ノ御恩ハ汝若年ト云ヘドモ

能ク思へ。常々ノ御志シ忘却スベカラズ。父子ノ間ニテモ心底
ヲ聞届クベキ也。若不義不忠ノ心底コレ有バ指殺シテスツベキ
ナリト云。主税畏ツテ、兎角ノコトヲ云ハズ、主君ノ御恩ハ父
子別々ニ蒙リ(52ウ)テ候上ハ、父上ノ若不忠ノ心底ニ候ハ
バ恐ナガラ指殺シ奉ラント云。コノ時内蔵介安堵シテ奥方へ入
リ母義内室ニ対面、追付登城仕り候。如何ナリユキ申スベキ世
ノ有形ハカリ難シ。畢竟御城内ニテ殉死ノ覚悟ニ候ヘバ、落着
マデハ下宿仕ルマジク候。今生ノ御暇乞ナリト親子夫婦ノ別レ
ノ盃アリ。内室ニ申シ渡サルルハ、武器兵具明朝アトヨリ御城
内ニ指コスベシ。母義ニ孝行仕レ。又幼年ノ子ドモハソノ方ニ
預ケ渡スベシ。下人ドモ残ラズ召連ルルノ条、跡屋敷見グルシ
カラザル(53オ)様ニスベシト申渡サル。内室聞トドケ玉ヒ、
委細相心得候。武士ノ妻習ハズトモ相応ニ仕ルベシト涙モ流サ
ズシテ、主税ニ申スベキコトアリト近クニ引オセテ、如何ニヤ
モハヤ十六才ニナリ玉フ。三歳ノ時ニ初メテ御目見ヘコノ小脇
指ヲ拝領セリ。母ガ大事ニ致シ置タリ。只今渡シマイラスル。
父上ノ心ヲクレテ主君ノ殉死ハザル時ハ貴殿一人ニテモ殉死
ス。外ヲ見合玉フナ。又内蔵介殿ハ殿中ヨリ下宿スマジキトナ
リ。若年ト云ヘドモ父ト一処ニ居玉ヘ。今生ニテ母ニ対面スマ
ジ(53ウ)ト思ヒ玉ヘ。又漸々ニセイモノビ玉フ。当年ハ角ヲ

モ入レント思ヒタルコト夫婦ノ間ニ兼テ物語セリ。時節到来也。自然トノコトモアラバ丸額ノ首ハ実檢ニ見苦シカラン。母ガ角ヲ立テマヒラセント立カカリ、前髪トツテ押分ケ剃刀ニテ角ヲ入レ小短カク押キツテ盃出ス内ニ夜モ明クル。内蔵介ハコノ家中ノ騒動町中ノサワギヲ静メテ、ソノ以後ノ作略ハ変ニ応ズベキ也トテ登城アル。男タルベキ者ハ皆供ニ出ル。夜ノ間ニ内室ノ用意ニテ内蔵介老職ナレバ主用ノ帳面反故ニ至(54才)ルマデ長持ニ打入レ、武器兵具悉クニ屋敷ヲ払ヒ夜中ニ相シラベ玄関前ニ持出シテ並べ立タリ。内蔵介ハアトヨリコレヲ持セ家老也組足輕ノ小頭寺西弥太夫ソノ外中小性若党九人雜人四十六人馬二匹鉄炮二十五挺長柄二十本弓尻箆立二十張旗竿一本大筒百
二挺取り持セテ、三月十九日ノ朝卯ノ時スギニ登城シケリ。誠ニ文武ノ大石世ニタノモシク相ミヘケリ。

赤穂家中諸士登城之事

一 大石内蔵介ハ先家中ノ騒動ヲシツメント家中(54ウ)ノ諸侍殘ラズ申シ談ズベキノ義コレ有條、登城コレ有ベキノ旨廻文組々ヲ分テ申シフルル。又町中ニハ面々少シモ騒グベカラズ。大学様ヲワシマスレバ家中ノ諸士一紙ニ願奉リ筋目モコレ有ナレバ、御アト式ハ相違アルベカラズ。又タトヘ何様ノコトアリトテモ御城代ニ大石内蔵介コレ有、常々ノ法令ヲソムキ尾籠ノ仕方コ

レ有ニ於テハ急度申付ベキトノコト、在々ニ又コノゴトク申付ラルル故ニ、町在ハ常々内蔵介ヲ憐ナル人ニ思フ故ニヨク下知ニ付テ静マリケリ。(55才)

一 諸士殘ラズ登城スル。惣テコノ家中ハ外々ノ五万石ヨリ人数多シ。領分モ福地ナリ。ソノ上先祖ヨリ勝手ヨキ故ニ諸士大勢アリ。国付大石内蔵介ヲ加判役、大野九郎兵衛千石番頭與野將監千石玉虫源四郎・伊藤五右衛門・外村源右衛門・吉田忠左衛門・佐々小左衛門・河村伝兵衛・近藤源四郎・佐藤伊右衛門・長沢六郎左衛門・稲川十左衛門・里村安左衛門・小野寺十内・片岡源五右衛門・磯貝十郎左衛門コノ面々ヲ初トシテ、組外ノ寄合十二人馬廻給人百十人諸役人三十一人中小性格ノ侍五十人(55ウ)小切米小役人等五十人、又歩行体ノ者五十人都合二百六十人赤穂ノ城中ニ集リ行義作法ヨク広間ニ集リケリ。

城中ニ於、諸侍評定之事

一 内蔵介ハ上段ノ間ニ御城ニ殘サレタル御具足並ニ陳刀ヲスベテ置、諸士中へ挨拶申スハ、各江戸ヨリ註進四人ノ口上、江戸家老安井・藤川ガ状ノ趣承届申サルベシト段々四人申シ述ルニ、目ニ星ノアル人ハ稀也。誰人ニテモ一言モ申ス人アラズ。ササヤキヒソヤキ額ヲ合セ耳ヲヨセ、定(56才)メテ頓テ城ウケトリニ來ルベキナレバ、妻子ノ片付ヲト思フ者計リ也。ソノ時ニ

大野九郎兵衛申スハ、誠ニ平生御短慮ニシテ今コノゴトクノ義是非ニ及バズ。御子トテモナケレバ御相続モナシ。ソノ上ニコノ度ノ首尾ナレバ御跡モ立マジ。城ウケトリノ役人中定メテ到着致サルベキ也。只ソノ節ニ都合ヨク相渡サルルノ御相談。コノ上ハ御用金ドモ過分コレ有コトナレバ、面々諸士知行高二応ジテ配当コレ有ヤウニ内蔵介殿御相談ルベキニテ候ト扱モ云タリ云タリ。コノ大野九郎兵衛ハ知行モ千石、親采(56ウ)女正殿ノ取立ニテ一家福分ニナリ内蔵介ノ加判役ニナリ万端結構ニナリ侍組ヲ預カリ大佞奸ニシテ常ニ悪業ト云ヘドモ、内蔵介賢人ニテ跡先ヲ異見シテ目ニモ立ズ。今国家ノ乱レテ忠臣アリトハコノ節ノコトナリ。大石ハ当分挨拶モナク、大野殿ノ仰尤拙者モ左様ニコソ存知候ヘド外ノ面々ノ口ブリヲ伺フ処ニ、玉虫七郎右衛門ススミ出テ、大野殿ノ御工夫神妙ニ覚ヘ候。ソノ期ニ当リテ物事サワガシキ物ナレバ前広ニカヤウノ御相談然ルベシト申。コノ節半バラ過テ色立チザザメ(57オ)キタル体何様人心浅マシク見ヘシ。然レドモ内蔵介ハ黙然トシテ有トモ無トモ云ハズ。時ニ大石主税イマダ十六才若年ナレドモ進ミ出テ大野九郎兵衛ニサシ向ヒテアテ付テ、コレ大野殿、常ハ御家老職トテ父内蔵介同前ニコレヲ敬フニ、只今ノ御心底近比以テラド口キ見苦シフ候。殿様ニハ相手ヲ討レタルト申セドモ上野介

生死ノアヤモ知ズ。又江戸表ノ様子モイマダ相知レザル内ニ城請取ニ来ラバ退カン。又御用金配当ノコトヲ申出サル、武士ノ心底ニハ近比アルマジキコトナリ。明(57ウ)日ニモアレ城請取ノ人数来ラバ登城ニタテ籠リ討死仕リ主人ノ殉死仕ランニ何ノ相談有ベキヤト高ラカニ云ヘリ。内蔵介内心ニハ悦ビ落涙ニ及ブトイヘドモ押カクシテ大音ニテ、イカニ主税、若年ノ分際トシテ親ヲサシコヘソノ上ニ大勢ノ諸士中イマダ決定ノ義モコレ無中ニ近比卒忽千万ノ口上不調法千万、立退ゾキ候ヘト伺ラレタリ。主税少シモヒルマズ、扱ハ父内蔵介殿ニモ大野殿ニ御同心候ヤ。常々ノコトニハ親子ノ礼義アリ。又若年ノソコツトモ申スベキ。コノ度ノコトニ(58オ)限り遠慮仕ルベキノ筋ニアラズ。父子ノ縁モコレマデナリ。御家人ハ皆同前ナリ。主税ニ御同意ノ旁コノ不義ノ諸士ト同座アルベカラズ。何時ニテモ殉死ノ覚悟ノ面々ハ主税ガ次ニ御立候ヘト、スツト立テ縁側障子ノ内ニ座ヲカマヘタリ。父内蔵介制スルト云ヘドモ承引セズ。コノ時ニ片岡源五右衛門・磯谷十郎左衛門・小野寺十内・狭間喜兵衛四人ノ面々立テ主税ノ次座ニ居ナラビテ、御若年ノ主税殿御一人ノ殉死ハ御徒然ナラン。亡君ノ御前ニ参リコノ段御披露ヲタノミ申ベキ也。(58ウ)時節到来ヲ待テ御同伴仕ルベシト相並ブ。亦江戸ヨリ使ニ来リタル速水藤左衛門・岩野三平・原

惣右衛門・大石瀨左衛門四人ハ昨夜内蔵介ノ貞実ノ心底ヲ見キ
ワメタレバ、コノ父子ノ間一処也ト相心ヘテ、我々モ忠死御同
前ノ心底ナリ。江戸ヨリハルバル使ニ来リ、又当城ヲ無下ニ出
ルハ残念ナリ。主税殿ノ御心底モ感シ入候ト相並ブ。コレヲ見、
諸士中二百五十人ノ内、別々ニ立分レントスル。家中ヲ二ツニ
割ルルモヤウ也。コノ節江戸ヨリ早追来リ吉良上野介殿御免許
サワリナク、大(59才)学頭殿閉門仰付ラレ屋敷屋敷ハ御トリ
上ゲ安井彦右衛門・藤川武左衛門兩人ノ家老モ藏屋敷ニマカリ
アリ。御公義ノ御下知承ルベシトノ義申シ来リタリ。コレヲ聞
家中ノ諸侍弥騒動ニ及バントス。亦追々城請取ノ人別仰渡サル
ルノ由註進來レリ。皆々アワテサワク体ナリ。内蔵介一々聞届
ケシバラク思慮アリ申シ出サルルハ、諸侍中各、内蔵介申ス義
ヲ能シツカニ心ヲ落付聞玉ヘ。世倅主税ヲ始メ儘ニ承ハリ心底
ノ有無ヲ申サルベシ。既ニ主君ハ切腹相手上野介ハ恙ナシ。コ
ノ(59ウ)上ハ何トゾ大学殿ヲワシマスコトナレバ、御目付中
迄願ヒ奉リ家中ノ諸侍トモ離散仕ラズ候様ニコレ有ベキ品ヲ第
一二候。コノ段各同心ニ候ハバ御願ヒヲ申シ上ベキ也ト申サル
時ニ元ヨリ忠義ノ者トモハ如何様トモ思メシ次第ト返答ス。ソ
ノ外臆病倭奸ノ輩大野ヲ始メ同音ニ、コレハ目出タキ御思案ニ
テ候。ハヤ事成就シタルヤウニ思ヒ悦ビ残ラズ一紙連判シテ大

石ニ相渡ス。コノ節ハ一人モ残ラズ同意シニケリ。各安堵シテ
帰宿セリ。コノ義ハ大石心底ニ事ノ成サルコトモ合点ナレ(60
才)トモ家中騒動シテハ何事モ成ラズ。マツシバラクハ事ヲ延
バシテシツカニ家中ヲ治ム。内蔵介心底智仁勇兼備シツカナル
心底ナリ。

忠臣規矩順從祿卷之三終(60ウ)

忠臣規矩順從祿卷之四

兵書ノ語ニ、凡人心ハ浮雲ノゴトク定ベカラズ。ソノ不
定ニ仍テ謀略ス。コレ奇策也。コノ語ノゴトクニ凡ソ人
ノ心ホド有為転変カワリヤスキコトハナシ。常ノコトニ
付朝夕扱モ定メ難キ世ノ中、朝夕ノ事タベニカワリ一花
心ニウツリユク古今往来皆ソノ形也。ソノ内ニ自然ニ常
氣ナル人モアリ。ソレハ上人ニテ貴賤上下ハナク左様ノ
人ハ聖人ニモ賢人ニモ又良將英士ノ上ニモ至ルベキナリ。
古哥ニ幾(61才)度カ思ヒサガメテカワラン頼ムマジ
キハ心ナリケリ。カ様ニ説ヲケリ。或ハ飛鳥川ノ淵瀨ノ
夜ノ間ニカワリ誠ニハカナキコト電光朝露ノゴトクナリ。
カ程ニカワリ安キ世ノ中、人事ノ大事ハ成就スベカラザ
ルノコトナレドモ、軍謀ノ高キコトノ道理ハ又コノ人心
ノ不定ニ仍テ謀略ヲ以テ妙術奇謀古今様々ナリ。古哥ニ

モ世ノ中ノ定メナキコソ頼ミナレ又ウキコトノカワリコ
ソスレトアリ。コノ心ヲ以テ見レバ只風ノナビキニ草ノ
サソ(61ウ)フゴトク彼方此方ニナビクソノ間ニ天然ニ
奇策アリ。然リトイヘドモ今度大野九郎兵衛・玉虫七郎
右衛門ノゴトキ比興ノ武士ハ各別論ニ及バズ。サレドモ
大石内蔵介ハソノ變ニ応ジテ不思議ノ謀計又コトヲヤブ
ラザル人ナリ。

赤穂之願江戸表評定之事

一 既ニ赤穂ノ城中ニテ大野九郎兵衛ガ申条ニテ、家中ニツニワレ
テ離散スベキノ処ニ大石内蔵介思慮フカク、先当分シヅカニ一
決スルノ謀略シテ、双方合体シテ城下静ニ治マリケリ。扱内蔵
介(62才)心底ハカ様ニ願ヒ奉ル時ハ先成ザルマデモ御跡式ノ
評判モ有ベシ。又左モナキ時モカ様ノ節アワテテ離散ノ早キハ、
騒動ノ上ニ人民ノ疲勞諸士ノ狼狽又勇氣ウスク義信モウスシコ
トヲ延ス。ソノ内ニ人心ノ転変或ハ雜人ノ片付財宝ノ取サバキ
モユルリトナル様ニノベ難キ処ヲ暫ク延ル。智謀手厚キ人ナリ。
願ヒノ赴ハ内匠頭跡式名跡大学頭ニ仰付ラレ家中離散仕ラザル
ヤウニトノ願ナリ。

一角テ内蔵介両使月岡次右衛門・多門九左衛門(内)人(62ウ)ノ者今度ノ江
戸使者ツトム。コノ兩人道中ヲ急ギ四月四日ニ江戸着シケリ。

マツ江戸家老安井彦右衛門・藤川武左衛門兩人ニ談ス。然ル処
ニ今度内蔵介書札ノアテ処願ヒ申上ルハ御目付中兩人荒木十左
衛門・榊原采女早江戸発足ノ跡ナリ。コノ義内蔵介兼テ申越レ
タルハ、モシ目付中江戸発足跡ノトキハ大目付中仙石伯耆守殿・
溝口撰津守殿兩処ニ相達スベキノ旨申コス。急ギ大目付中ニ達
シテ御老中へ申上ベキト兩人ノ使者持參申ベシト云。然ルトキ
安井彦右衛門・藤川武(63才)左衛門兩人ノ大佞人臆病始終
面々ノ落着身ガマへ、内匠殿ノ用金過分ニ取り、ハヤクコノ片
付ヲ究メテ安樂ニ一生ヲ昏スベキ心底ユヘニ、江戸詰ノ諸士中
へ下知モナク一日モ早ク落着ヲ究メント思フ。然ルニ今度内蔵
介願書家中ノ諸士中ノ連判公義ニ上リタル時ハ何カト評定アリ。
延引スベシト思フユヘ二月岡・多門ヲ深ク留メテ、勿体ナキコ
ト当代ニテ左様ノ沙汰石ヲ抱ヒテ淵ニ入ナリ。赤穂ハ江戸表遠
ク何ノワケモ知ラザル故ニカ様ノコト以ノ外持參無用ナリ。我々
次(63ウ)第二致サレヨト両使ヲ同道シテ藤川・安井相トモニ
戸田采女正殿へ持參ス。戸田殿ノ家老戸田甚五兵衛出テ挨拶、
コノ書札ヲウケトリマツ四人ノ面々ハ返シテ、内々ニテ早速戸
田殿ニ達ス。急ギ御老中ニ達セラル。コノ故ニ殿中御役人中御
評定ノ上上聞ニ達ス。コノ義ハ追テ思シ召モコレ有條、先赤穂
ノ諸士トモ上意ヲ承ハリ離散仕ルベキノ旨采女正方ヨリ内々ニ

テ宜シク申達スベシトノコトナリ。コノユヘニ翌五日赤穂ノ兩使・安井・藤川ヲ戸田采女正殿へ召ヨセラレ中川甚五兵衛並ニ(64才)近習物頭高岡代右衛門兩人ヲ以テ申出サルルハ、赤穂ノ諸士ドモ采女正存ジヨリヲ同心仕ルベキヤイナヤ、是非トモニ公儀ニ申シ達スベキヤ、コノアヤハキト尋ラル。コノ時ニ使者月岡・多門ハ兼テ大石ノ指ツナレバ是非ニ申シ達スベシト云ハントスル節ニ、中ヲ取テ家老安井彦右衛門申スハ、何トゾ願ヒノ筋目相立テ申様ノ次第二候ハバ御上へ申上ルニ及バザル義ト何分ニ采女様ノ御書拝見仕リ是非ノ御請、兩人ノ使者ニ申シサセ候ハント、殊ノ外ニ和ラカナル口ブリ当世(64ウ)風ノ男ナリ。コレニ依、中ニテ取サバクコトニナリ、采女殿御状ノ下書案紙出タリ。コレハ家中ノ諸士赤穂退散仕ルヤウニ御内存モコレ有由ノ下知状ナリ。安井・藤川拜見シテ畏リ奉リ候。急ギ兩使ハ赤穂ニ返し我々方ヨリモ得心仕候ヤウニ申送り候ベシトテ同伴シテ帰リケリ。近比以テ残念千万コレニ過ズ。安井・藤川ガ心底イカナルコトヲ兩人方ヨリ内藏助介方へ色々ノ断り申し、トカク赤穂ノ城ニテハ当地ノ訳御存コレ無故ナリ。大学頭様モ御座候。ソノ上ニ御同姓安芸守様・式部様ソノ外(65才)御親類中ノ御為ニ宜シカラズ。早々離散致シ然ルベキ段申シツカワス。又ソノ跡追ニ戸田采女殿ヨリ歩行使兩人ヲ以テ大石方へ書

通、トカクニ穩便ニ早速城地相渡サレ然ベキ由ヲ申シ通セラレ。コレニ依諸國一同ニ評判アリ。スワヤ大石内藏介城ヲ渡サザルコトニナリヌト騒動ニヤ及バント沙汰、江戸御上ノ評定ニモ念入り城請トリ脇坂・木下ソノ外、目付中へモ御下知アリ。猥リニ赤穂ニ立入ベカラズ。領堺ニ逗留シテ万端聞合セ、シメシ合セテ以後ニ入ベシトノコトナリ。去程(65ウ)ニ上意ニヨツテ赤穂近辺ヨリ加勢、上使ノ下知ニ從ヒ申スベシトノコトニテ、浅野土佐守殿ヨリ物頭徳永文左衛門・内田孫右衛門・小山孫太郎三人ニ足輕百人番頭太田七郎右衛門・有田市之丞・殊嶋十左衛門雜兵三百人、赤穂ノ領堺ニ相詰ル。松平安芸守ヨリ番頭井上團右衛門鉄炮頭丹羽源兵衛・西川文右衛門雜兵五百人、浅野甲斐守ヨリ内藤伝左衛門・海野金七郎、浅野伊織ヨリ八木助右衛門・長束平内、上田主水ヨリ安芸守殿ノ家来野村清右衛門・末田貞右衛門三百人広嶋ヨリ都合千八(66才)百余人。又戸田采女正ヨリ戸田権左衛門・植村七郎右衛門・戸田源五兵衛・杉村十太夫・星見孫太夫三百人馳向フ。コノユヘニ近国江戸ノ騒動夥シキコトナリ。

浅野大学頭へ御内意御請難決之事

一松平安キノ守殿へ本多佐渡守ヲ以テ御内意アリ。本庄ノ屋敷ニ閉門致サル浅野大学頭ニ上意ノ赴キハ、内匠頭子ドモコレ無思

シメシモコレ有ノ条、父ノ服忌ノゴトク今日ヨリ受申スベキト
ノコトナリ。又吉良上野介一家ニ意恨フクミ申スマジキトノ(66
ウ) 神文ヲ仕り候ハバ家督ヲモ御申付コレ有ベキ条、赤穂ノ諸
士トモヘ離散仕ルヤウニ申シ付ベキ旨ナリ。コノ上意実義ニテ
御請宜キ時ハ跡式ノサタニモ及ブベキヤ。大学頭殿壯年ノ義者
ニテ申サルルハ、勿論内匠跡目仰付ラルルハ本懐ノ至リナレド
モ、源義経モ断滅ノ期アリ。頼朝モ平家モ皆滅亡ノ期アリ節ア
リ恨ムベカラズ。武士ノ義信ハ捨ガタシ。イカナル人モカ様ノ
節ハ丈夫ニコラエ難キコト也。流石ノ内匠殿ノ弟ニテソノ節ノ
コト残念口惜ク思ハレケルニヤ、御請ノ次第定式(67オ)ノ服
忌請申義ハ畏リ奉候。ソノ段ハ内匠頭横死仕ル以後子ドモモコ
レ無コトニ候ヘバ兼テ服忌ハ受申義ニ候。内匠頭名跡相統仰付
ラルベキハ有難キ仕合ニ候ヘドモ、私立身致シ家名立候トテモ
兄弟ノ義ニ候ヘバ、上野介ヲ見合セ候ハバ一念ノ仇起リ申スベ
キモ計リ難ク、又御公義ヲハバカリ相ツツシミ候トモ内心ニ存
ズマジキトハ申シガタク候。神文仕ル義ハ御免下サルベシト両
度迄難洪ノ御請也。天晴義士ナリ。終ニ御請コレ無故ニ翌年七
月十八日松平安芸守ニ御アツケ、ツイニ(67ウ)断滅シケリ。

諸方加勢御下知之事

一 既ニ大石内蔵介存念コレ有体、諸方評定コレ有二付、近国ニ御

下知アリ、自然赤穂諸士籠城ニ及ブ節ハ押ツメ上使ノ下知ニ相
從フマジトテ、松平伊予守殿ヨリ^{岡山}領堺虫上ノ野マデ番頭津田
左源太人数六百人ニテ相ツムル。松平右衛門佐殿ヨリ^{鳥取}領堺
マデ番頭千余人出張、松平讃岐守殿ヨリ^{高松}大久保主膳兵船三十
艘海上ニ出張スル。松平阿波守殿ヨリ物頭二組兵船五十艘(68
オ)ニテ出船、姫路ノ本多中務少輔殿・明石松平左兵衛殿・丸
亀ノ京極縫殿殿皆人数ヲ出サレ夥シク騒動ナリ。赤穂ノ諸士中
兼テ覚悟ノ面々ハ少シモサワガズ臆病者ドモハ大ニ動転セリ。

江戸詰之諸侍之内、強弱之事

一 コノ節江戸詰ノ諸侍ドモ又志コレ無ニ非ズ。眼前ニ吉良上野介
御免ノ上ハ残念口ヲシク色々工夫作略スレドモ、安井彦右衛門
大佞人ノ利欲者藤川ト相談シテ大ニ制シテ当代中々左様ノ心入
然ルベカラズ。時節到来スルニ於テハ大学頭様御(68ウ)相統
ノホド知レ難キコトナレバ、兎角面々配当ノ金銀ヲ以テソレゾ
レニ片付然ルベキナリ。赤穂ノ大石ソノ外ノ諸士ハ皆田舎武士
ニテ公義ノアヤヲ知ザル故ナリト頭取スル家老カヤウニ進ムル
故、ゲニヤ人心変ジテ皆身ガマエシテ一カド働クベキ心底モナ
ク、皆江戸詰ノ者ドモハ金銀ヲ配当シテ安楽ニ住居ヲ求ムル。
コノ中ニ堀部安兵衛^{三百石留守 居 川人兼役}コノ者ハ先年長門馬場ニテ兄ノ仇
ヲ討、白昼ニハレナル働ラキ相手五人ヲ仕フセ首尾残ル方ナキ

二一度ノ音信普通タヘズト云コトナシ。又一度ノ返答モナシ。元ヨリ現世ニテハ対面スマジキト思ヒツメラレタル故ナリ。コノ便リコレ有トイヘドモ主税母義ノ方ヨリ終ニ一度ノ伝言モナシ。不思議ノ内室ナリ。赤穂中侍屋敷面々掃除止シキ訳モアリ。内蔵介屋敷ノ中ハ女義バカリ也。且テ男ハコレ無。然ルニ内義ハ下女・端女マデ召ツレテ夜ノ間ニ表長屋ノ外ニ出デテ草ヲ引、水ヲ打、箝目マデツケテ毎夕毎夕奇麗ニ掃除致サルコトコノ義家中ノ評(72才)判ニナリ皆々感シ入、タトヘイカナル愚ノ人ニデモ見ルヲ見マネニスル故ナリ。珍シキ女中也。人ノ鏡ニナルベシ。

江戸両使赤穂ニ帰城之事

一江戸へノ両使月岡治右衛門・多門九左衛門帰城スルマデハ、家中一等二臆病者モ佞人モモシヤ頼ミテ落付、佞人ノクセニハヤリ安ク又メリ安キ習ヒナレバ、大方大学様へ御アト目モ立ベキト思ヘリ。然ル処ニ両使帰城登城セリ。内蔵介家中ノ諸士ノコラズ登城コレ有ヤウニフレテ末々(72ウ)迄モ申渡ス時、最初ノゴトク二百八十一人モ残ラズ登城シケリ。ソノ節月岡・多門江戸ノ首尾ヲ委細ニ申シノブル。内蔵介聞トドケ、扱兩人ノ者ドモニ不審サセバコノ度ノ使者兼テ大事ユヘソノ節評定申ス処ニ、兩人ノ衆願ヒ申サレ一命ニカケ相ツトメ申サルベシト達テ

願ニ付同心申シタリ。戸田采女正殿へノ使者ニハ非ズ。コノ度ノ願ヒハ恐ナガラ御公義へノ御願ヒ申上ル筋ハヨクヨク申シフクメ、各モ同心ナリケルニ是非ニ及ザル心底、先達テ堀部安兵衛ノ物語委細ニ承ハリ、安井(73才)彦右衛門ノ拵へ近比残念千万ト申サル。月岡・多門面目ナキ仕合一座力ヲ落シ無言ニナリシメリカエリ散々不興千万コト也。コノ節ニ一筋ニ忠義ノ面々ハ少シモラドロカズ、最初ヨリノ一念城中ニテ切腹スル迄ナリト思ヒツメタル人モアリ。又大野九郎兵衛ヲ始メ佞奸ノ面々ハフルヒ恐ルル体ナリ。

城中評定大野等奸曲之事

一大石内蔵介ハ不思議ノ謀略ニテ兼テ思慮ヲ究メ、諸侍中江戸願ヒノ連判中残ラズ聞届ケ玉へ(73ウ)ト、常ハ隠便ノ人ナレドモコノ節ハ少シ声高ニ少シ忿レル顔色ニテ申シ出サルルハ、両使帰城既ニ愁訴ノ路タヘヌレバ、兼々各申シ談ズルゴトク当城ヲ枕トシテ討死ヲ遂グルヨリ外他事ナク候。然レドモ倍臣ノ分際トシテ天下ニ楯ヲツカンコトハ、誠ニ一掌ヲ以テ江河ヲ防ギ狐豚ノ勢ヒヲ以テ虎ヲカムノ笑ヒヲ後代ニ招ク。然リトイヘドモ主人一度傾キ臣下ノ身トシテ救フコトアタワヌハ人臣ノ罪死デモ骸ヲ埋ムルニ地ナカラシ。各如何思メス、心底ヲ残ラズ申シ玉ヘト申サルルトキ(74才)大野九郎兵衛大ニ動転色青ザメ、

コレハイカニ、拙者義ハカ様ノコト兼テ承ハラズ候。大学様ヲ御家督ノ御願ヒコソ仕レ。今時ハ籠城ノ相談、軍ノ御評定ハ且テ存ゼズ。左様ノ連判ハ仕ラズト申ス故ニ、大石主税年ハ若シ、クツトセキ上リテ脇指ノ鯉口クツロゲ大野ガ膝元ニ詰カケ、九郎兵衛殿ハ何ヲツブヤキ玉フヤ。慥カニ聞ヘズ候ヘバ今一応委細ニ承リタシト云。コノ時九郎兵衛ハ先サシアタル主税ニ大ニコマリサワギ俄ニ口替リ、サレバニテ候。カ様ノコトハ衆義判ノコトニ候ヘ(74ウ)バ各様ノ御相談次第手ノウウ返ス、近比以テ笑止千万、扱ニクキコトコノ上ナシ。コノ時ニ用人物頭片岡源五右衛門・郡代吉田忠左衛門口ヲソロエテ、内蔵介殿仰ラルル段然ルベク存候。今コノ時一命ヲ捨ズンバ何ノ時ヲカ待申サン。多年ノ主恩報ジ奉ルベシ。急ギ大石殿ノ下知ニ相從ヒ申ベシト云。コノ時心タシカニアリケルハ番頭奥野將監^{千石}進ミ出テ、主憂アル時ハ臣恥シメラル。主恥カシケラル時ハ臣下死スト云ヘリ。タトエ天下ニ対シテ弓ヲ引、滅亡ストモ義ニ於テ何ノ妨(75オ)ゲアラント申ス故ニ、先ハ一^等一決シテ籠城シテ死ヲ守ラント云。ソノ時ニ大野九郎兵衛逃支度、又御用金ノコトヲ申出ス。籠城ニ及ブ時ハ弥金銀入、又諸士中明日モ知ザル命ノ上ナレバトカク一日ノ安樂モアリ。コノ義第一ナレバ、急ギ御金蔵ノ金銀ヲ配当然ルベシト云。玉虫七郎右衛門・近藤

源四郎コノ面々ハ七百石ツツノ知行高ニシテ番頭也。大野九郎兵衛ト同腹中ニテ何ヤウニモ善悪ニ付第一ノコト也。又御用金ノコトハコノ内ニ誰一人ノ金主ト云コトモコレ無亡君ノ御物ナレバ、大(75ウ)石殿一人ノ御自由モイカナレバ先配当ノコトハ然ルベシト云。内蔵介心底ニハ彼ヲハトテモ離散ノ心ユヘニ金銀ヲ好ムト知りヌキタリ。不屈者トハ思ヘドモ主君ノ物ハ家中一同ノコトナリ。私曲ノ様ニ思ハルルモイカ也。タトヘ金銀ヲ配当シラリトモ丈夫ナル人ノ心ハタワムベカラズ。御城付ノ金銀先第一ニ御領分残ラズ近年羽書ツカヒニテ銀札トモ町在中ニアリ。残ラズ引カヘ相渡スベシト二万二千兩ノ金ヲ羽書引カヘニ出ス。町在中ノ悦ヒコレニ過ズ。ソノ次ニ御城付ノ(76オ)御用金コノ末イカ程ノ諸人用モハカリ難シト二万兩余ハ用意ニ引ノケ当分ノ諸人用金モ取サバキテ、跡相ノコル金八万兩諸士中二百八十人頭ワリニスベシ。又足輕小人仲間迄相應ニワリ付ベキ也トテ、即時ニ勘定頭役人高田郡右衛門・渡辺武兵衛ヲヨビ出シテ右ノ通、割カカル。大野九郎兵衛ハ千石ノ知行大身ナレ。コノ故ニ大野進ミ出テ、イヤイヤ面々次第モアリ知行高二割リテ配当然ルベシト云。内蔵介中々同心セズ、各我々トモニ死行身ナリ。何ニコノ金銀モ入ルベキヤ。又(76ウ)身カロキ面々ハ金銀ヲ以テ面々片ツキ妻子眷属モ養育仕ルベキ間、

兎角頭割ニスベシト一決ス。扱不屈ナル大野畜類ノ心ノゴトシ。コノ時云ハ、拙者子ドモ三人トモニ相ツトメ又髯甥ナド御目ミへ仕ル子ドモアリ。我ラ分ノ六人前ノ割付ヲ申付ベシト云フ。アキレ果タル大野ナレドモ、ヨシヤ今コノ節トカクノ評判入ザルコトト暫時ニ割付タリ。ソノ時大石申サルルハ、凡籠城シテ討死スベキニハ評定モアルコトナレバ、明後日早朝ニ各出仕コレ有ベキニ候。ソノ節申シ談スベシト諸士悉ク帰シケ(77オ)リ。内蔵介深ク謀略アリテノ事也。

大野九郎兵衛離散用意面々騒動之事

一大野九郎兵衛ハ私宿ニ帰リ一家一門我方様ノ人ヲアツメテ、大石ガ逆謀天下ニ対シテ一揆マデ逆心、徒党勿体ナキコトナリ。カ様ナル不屈者ト一処ニナリ死ベキ命ニ非ズ。我ハ近日当地ヲ引払フベキ也。面々右ノ覚悟致サレ然ルベキナリ。又爰ニ御一類並ミノ三好源太夫知行高六百石トル普代ノ番頭ノ座上ナリ。常ニ心底不足ウツケナリ。幸ヒニコノ三好ヲヨンデカ様カ様ノ次第ナ(77ウ)リ。ヤガテ当城ハミゼンナルベキナリ。ヨシナキ処ニ長居シテ滅亡セシヨリ急ギ退出然ルベキ也ト云。三好ハ心定サルノ人故ニ大ニヲドロキ同意スル。同ク同意ノ面々玉虫七郎右衛門・近藤源四郎コレヲ始トシテ宗徒ノ諸侍百余人ハ皆大野ニ一味同心シテ赤穂退散ノ評定、荷物ノ片付家財雜具ヲ仕

マヒススハキノゴトクサハギ立ツ。諸人イカガト相尋ヌル時ハ、籠城ノ覚悟故ニコノゴトシト只大キニ騒ギテ、大野ガ諸道具ハ町年寄ノ木屋作右衛門方ニ七十ヶ預クル。持罷スベテ夥(78オ)シキテ重テ変アラシヤ。今日ノ面々ハ一騎当千ナリト皆々広間ニ出席セリ。今日ハ御台処ニテ吸物酒ヲ申付テ、各酒宴シテアソビ玉ヘトシバラク時ヲ移シテ人ノ心ヲユルメタリ。内蔵介智謀深ケレ。内心ニ一ツコレ有ト云ヘドモソノ場処マデ届ザル内二人ヲエラミ、随分心永ニシテ終ニハ本意ヲ達セリ。

忠臣規矩順從録卷之四終(78ウ)

忠臣規矩準繩錄 五六七八 (外題)

忠臣規矩順從録卷之五

凡ソ兵ヲ練ルハ蚤ノ糸クルゴトシト云エリ。軍法ニ合戦ヲ致サバ治内兵ヲネルニ勝利アリ。一応ニテハ事成就シ難シ。勿論衆判拍子ニ仍テ一列スルト云ヘドモ、立掃リテ心ヲコラシテ案ジテハ、凡ソ人トシテ生ハ貴ヒ死ハ甚ダ人ノ悪ム処也。先コノ間生死ノ処ニ心ヲ究メ死ニ向フ練兵ノ本也。コレハ蚤ノ糸クルガゴトク、去リトテハ面倒ナレドモ細ヲモ太クモ終ニハ喰納メテ身ヲ隠ス。少シモセ(1オ)ハシキ心アリテハ成就セザル也。コノ語ハ

万端ニ通達ス。諸芸ノ稽古スルモ一応ニシテ事ヲ究メテハ必ズソノコトスムベカラズ。又仕官奉公ノ立身モ左ノゴトク也。諸細工人ノ業モ手細クトモ絶間ナク糸クルゴトクスレバ必ズ名人ニナル。商人ノ商ヒラスルモ同ジコトバカリ蚕ノ糸クルゴトク同ジコト計スル者ノネリニネリタル商人ハソノ分際長クツツク者也。ソノネル内諸事ニ付アキノクル物ナリ。大石内蔵介ハ義心鉄石ノゴトクナル兵ヲ撰（一ウ）ラントス。コノ大望ノ志シ中々一応ニテハ行末長キ大願ナレバ、深ク思慮ヲメグラス大石ハ随分工夫ノ手アツキ無双ノ良士ナリ。

赤穂城中人撰之事

一赤穂城中ニハ百十六人ノ諸士番頭奥野將監・吉田忠左衛門・片岡源五右衛門・河村伝兵衛・小山源五右衛門コノ人々ヲ始メトシテ並居ル。大石ノ指図ニシテ吸物肴酒宴ノ最中ニ主税ヲ同道シテ広間ニ出デテ諸士中ヘ対面、誠ニ今日ハ各我々マデ亡君ノ御酒頂戴心ヨク御酒ヲモ過ザルベキ也（2オ）ト数刻皆打クツロギ物語リシテ、扱座ヲカヘ皆小書院ニ同道シテ座定マリテ内蔵介申サルルハ、今日登城ノ面々ヲミルニ一昨日ノ人別ノ内大野・玉虫・近藤ヲ始メ百五六十人モ減少、然ル処ニ今日出座ノ諸士中忠誠感心仕リ候。マゾ以テ一昨日ノ人別残ラズ籠城仕ル

トモ天下ヲ引請テ戦ニ及ババ、一ヲ以テ万ニ当リ一日ノ防戦モ成難ラン。況ヤカヨウニ小勢ニナリ面々心ハヤタケニ思フトモ惣門一ヶ処モヲモ固メ難カラン。然レバ籠城ノ念ハ存ジ絶タリ。ナマナカニ叶ハザ（2ウ）ル義ニカカリ天下ノ譏リヲ受、雪ノ上ニ霜ヲソヘ恥ノ上ノ恥辱益不忠ト申スベシ。所詮上使ヲ引ウケ我々ノ存念ヲ申シ違シテ、城中ニ於テ各一等ニ切腹シテ亡君ニ追付奉ルベシ。右ノ覚悟ニ存知候。併各ノ異見ヲ承リ届ケ相談ノ上ニ宜キ方ニ仕ルベシ。今日ハ各心底ヲ残サズ明サルベキニテ候ト申サルル時ニ、片岡源五右衛門・堀部安兵衛兩人進ミ出テ、トモ角モ大石殿ノ仰ラルル段御尤ニ存候。貴辺ノ御下知ニ随ヒ殉死ヲトゲ申スベシ。各如何ト申時ニ磯谷十郎右衛門・（3オ）吉田忠左衛門兩人、我々モ内蔵介殿同意ニ亡君ノ御供仕ルベキニテ候。コノ外ニ又存ヨリモコレ無ト申ス。誠ニイサギヨク見エシ。コノ節ハ同心モ不同心モ皆一等ニ成ホドコノ義然ルベシト一味同心ス。ソノ時ニ小野寺十内申サルルハ、各神文明盟有ベシト云。大石ハコノ連中ノ内ニ志ニノラザル人々多シ。コノ故ニ、イヤイヤ何ニコレ、武門ニウタガヒ有マジ。皆々殉死スル上ハ神文ノ入ベキ様ナシ。各今日ハ焔宿、弥心底ヲ究メラレ重ネテ下宿アルマジキ覚悟ニテ来九日登城有ベシ。夫ヨリ城（3ウ）門ヲサシ堅メ上使ヲ相待申スベシ。各妻子ノ片付家

財雜具マデ仕マヒ申サレ候ヤウニ下宿致サルベシトテ各退出セリ。

奥野將監離散之事

一 奥野將監離散ノコト臆病不忠ニアラズ。元來先祖采女正殿ヨリ番頭役ニシテ千石領シテ武功ノ者ノ家筋ナリ。奥野婦宿シテツクツク思フハ、我レモ武門ノ家筋一分アリ。大石方下知ニ隨ヒ大死スベキヤウアラズ。亡君ノ忠義ヲ思フハ同前也。又上野介ニ仇ヲ報ズベキノ思案モ有ベキナリ（4才）ト離散異変ノ心ハ付タリ。コレニ依、番頭佐々小左衛門・小光源五右衛門・河村伝兵衛ナド日比入魂ニアリケレバ、コノ面々ヨリ合、別ニ存念ヲ立ベシト相談シテ、コノ殉死ノ連中ハ引退キ当地ハ離散スベキトソロリソロリト同意ノ人モ出来、旅用意スルコトトハナリタリ。然ル上ハ上使ヲマツニ及バズ、跡ノ作略ハ内藏介致サルベシトノキノキニ用意スル。ヒトヘニ火事場ノ雜具ヲ片付ルゴトク夥シク騒動セリ。

城中義士盟約神文連中相究事（4ウ）

一 既ニ兼日登城ノ日ニナリニケル。大石ハ城内ヲ掃除シテ酒銃子ヲ調ヘテ六十人前程ノ用意ヲ申付ラル。内藏介心底ニハ、兼テ人別モ合点トミヘタリ。誠ニ三度シラベテ三度カワラズ死ヲ究ムルノ義士、殉死ノ覚悟ナラネバ出仕セズ。コノ面々重テ異変

有マジキ人々也。最初ハ二百八十人ソノ後減ジテ百六十人又半分減ジテ今日登城ノ面々本懐ヲバ達スルマデニ異変コレ無面々ナリトカヤ。

四十五才

大石内藏助良雄

三十七歳

片岡源五右衛門高房 三百五十五石
用人物頭

原惣右衛門元辰 三百石
足輕大將

三十四歳

堀部安兵衛武康 三百石
御守

二十九歳

磯貝十郎左衛門正久 百五十五石
勇役

三十四歳

近松勘六 行重 二百五十五石
馬廻り

四十五歳

中村勘介 正辰 百石
格

三十四歳

不破数右衛門 正種 半人

四十六歳

木村岡右衛門 貞行 百石
馬廻り

五十四歳

貝賀弥左衛門 友信 切米行
職奉行

三十五歳

潮田亦之亟 高教 二百石
馬廻り

十七歳

大石主税良金（5才）

六十三歳

吉田忠左衛門兼亮 三百石
配代

六十三歳

間瀬久太夫正明 三百石
大目付

七十一歳

小野寺十内秀知 二百石
京御守

七十七歳

堀部弥兵衛金丸 百石
格

三十四歳

富森助右衛門正固 二百石
馬廻り

四十四歳

菅谷半之亟 政則 百五十五石
馬廻り

五十一歳

千馬三郎兵衛 光忠 百石
馬廻り

三十四歳

岡野金石右衛門 包秀 郡屋住

四十歳

早水藤左衛門 満堯 百五十五石
馬廻り

三十五歳

赤垣源蔵 重賢 二百石
馬廻り（5ウ）

二一七歳
大石瀨左衛門 信清 百石 馬廻り

六十三歳
村松喜兵衛 隆円 入道 百石 馬廻り

三十八歳
神崎与五郎 則守 徒目付

二十七歳
横川勘平 宗則 発行組頭

二十三歳
間瀬孫九郎 正辰 部屋住

六十歳
矢瀬長介 数直 二百石 勘定頭

二十六歳
奥田貞右衛門 行高 部屋住

三十六歳
岡嶋弥十右衛門 兼定 百石 勘定頭

三十二歳
武林唯七 隆重 馬廻り金 二十両五人フチ

二十四歳
間 新六 光風 部屋住

二十八歳
杉野重平次 次房 十四三人扶持

四十歳
前原猪介 宗房 二十石五人フチ 金巻行

七十一歳前死
岡野金左衛門 包遠 隠居

(五十七歳)
奥田孫太夫 豊盛 百五十石 馬廻り

六十歳
矢田五郎右衛門 武行 徒目付

三十七歳
三村次郎右衛門 包常 白旗頭

三十七歳
芦野和介 常成 知行方 目付

二十七歳
村松三太夫 高直 部屋住

十七歳
矢頭右衛門七教兼 部ヤ住

二十六歳
間重次郎 光興 部屋住

二十九歳
吉田沢右衛門常時 無役 二十人フチ

二十四歳
倉橋伝介 武幸 馬廻り 二十両五人フチ

二十四歳
勝田新左衛門武堯 百石 馬廻り (6才)

二十四歳
小野寺幸右衛門 秀富 ハヤ住

六十歳前死
橋本平左衛門 和生 ハヤ住

六十歳
寺西弥太夫 勝広 大石足輕 組頭百石

三十九歳前死
芦野三平 武晴 百石 替り

高田郡右衛門 猪子源兵衛 豊田八太夫 久下織右衛門

五拾一人 内蔵介家某四人

寺坂吉右衛門 大石組足輕

コノ連中ノ外内蔵介家来 以後三旗方四時ノ他方始往 以後三旗方四時ノ他方始往 以後三旗方四時ノ他方始往

一大石内蔵介サシツ申サルルハ、今日登城ノ諸士中皆御居間ニ座セシメ、皆相トモニ亡君ノ御在世(6ウ)ノ時ノゴトク也。相互ヒニ盃組合ニシテ面々クミ替シテ、扱内蔵介申サルルハ、弥兼テ申談ズルゴトク殉死有ベキヤト云フ。座中同音ニ口ヲソコヘテ何カ扱面々覚悟ヲ究メ妻子老母足弱ハ片付申シ、心ニ掛ルコトナク出申候。何ンゾ今コノ時ニ主君ノ旧恩ヲ忘却仕ルベキヤト云。コノ節片岡源五右衛門・磯貝十郎左衛門云フハ、今日出仕ノ面々ハ皆一同ニ生害仕ルベク候。扱モ扱モ残念ハ上野介ヲ討ズソノママニ指ラクコソ口惜シケレ。然レドモコノ節思フベカラズ、宿仇ノ因縁ナラメ。只今殉(7才)死各ノ御先仕ベシト最期ノ座ヲモウク。コレヨリ各相互ヒニ介錯ヲタノミ合、哀レナリケル座敷也。今ハ早必定皆生害ヲ究メテ肌ヌギカケル時ニ内蔵介、各シバラク待玉ヘトマン中ニ出デテ、我ヲノ申スコトヲヨク聞玉ヘ。コノ度ノ根元ハ御公義ニ兼テ仰出サレタル御法令也。殿中ニテ口論ノコトハ堅ク御停止、理非トモニ落ト

ノコトコノ御条目ニソムキ玉ヒ殿中ニテノ仕方、当日ノ御祝義殊ニ御馳走役亡君ノ御不調法ニナリ御切腹ノ上ハ、公義ニ対シテ別テ宿意ヲサシハサムベキノ義（7ウ）毛頭コレ無。各只今ノゴトク思ヒツメ殉死ヲトゲラルベキ命ナレバ、爰ハ一命ヲ暫クノ間ハ内蔵介預リ申相談申スベキ子細アリ。先今度城請取ノ御上使目付中木下殿・脇坂殿御越ノ節、一応使節往来ノ節、大學頭様ノ御判物ヲ以テソレヲ手討ニシテ美シクコトヲ微細ニシテ早速城ヲ引渡シテ一旦命ナガラヘ恥ヲウケ、タトエ年月ヲ重ネ歳霜フルトモ心ヲ一ニシテ吉良殿ヲ討取、亡君ノ憤リヲハラシ、ソノ上ニテ今日ノ殉死ヲ仕ラバ尊靈モ御満足ナルベシ。勿論コノ段ハ最初ヨリ（8オ）存ジツメ候ヘドモ家中諸士ノ心底ハカリ難ク、先当城ニテ切腹ト申シ合テ候。コレハ人心ハカリ難キ故ニ候。案ノゴトク今日マデ段々異変ノ叢多キ処ニ各一座ノ始終相カワラス今日参会ノ上ニ密談ニ及ビ候。コノ義ニ於テハ密謀奇策始終ノ次第ハ某シ深慮ヲ究メタリ。コノ以後年月ハスグルトモ心底ニ謀略アリ。必心ヲ落シ玉フナ。又コノ義ハ親子兄弟ノ間ニモ堅ク一言モ云フベカラズ。然ラバ殉死一連ノ今日コソ有ベキ時也ト上ハ洪天、下ハ大海地神マデ申シ下シ奉リ、イカナルコト（8ウ）アリトテモ内心ニ思フノミ他言スマジトノ神文ヲ相認ムル。コノ節大石申サルルハ、父子相トモニ

セント思ハルル人モ有ベシ。ソレハ自分ニ御奉公モ申サレタル面々ハ各別也。若年前髮立ノ人、或ハ相続コレ無人ハ少シモ臆病ニ非ズ。コノ処ヲ去リ亡君ノ御菩提ヲモ弔ヒ玉ヘト誠ヲツクシテ申サル時ニ堀部安兵衛申サルルハ、誠ニ内蔵介殿ノ御心底近比道理千万。兼テ心底ニ一物アリト感察モ仕リキ。コノ座ノ面々誰カ違背申ベキト一座残ラズ同意ノ時ニ小野寺十内申サルルハ、（9オ）只今仰聞ラレ候コトハ大義ニシテ末ノ遠キコトナリ。ソノ期ヲ待内ニ我ラハ七十一才也。又若キ人モ生死ハ知レ難シ。万一コノ義相調ザル内ニ死セバ弥口惜キコトナリ。先ホド仰聞ラレシコト御尤ニ候ヘドモ、最初ノ御定メノゴトク上使ヲ引ウケ切腹仕ルニシクハナシト申ス。ソノ時ニ矢頭長介（六オ）我ラ病身ニシテ老クレ命ノホドモハカリガタシ。ソノ上ニコノ地離散ニ於テハ人心替ルコトモヤ。兎角小野寺殿ノ申サルルゴトク切腹仕ルベキ也ト云ヘリ。片岡・磯谷ナドモ同意ノヤウニ相ミユル。大石（9ウ）申サルルハ、成ホド仰ノゴトク命ハ知レザル物也。我ラ相果候トモカ様ニ申合候一義ハ何トテ捨玉フベキヤ。若各ノ内不幸ニテ五人七人病死アリトテモ相残ル人々ト終ニ本意ハトゲテラクベキヤ。今諸侍中多キ内ニ主君ノ忠ヲ思ヒ死ヲ一凶ニスル人々ハ、天道ノ冥加ニモ相叶ヒ鬼神モナンゾ忠義ノ至情ヲ見ステ玉ハンヤ。終ニハ本望達スベシ。何ノ疑

ノ候ベキ。コノ度城ヲ枕ニシテ討死セザル、云ヒ甲斐ナキ臆病
腰ヌケト諸人ノ誹謗ヲウケテ、ワカキ人々ハ当分ハ難義成ベ(10
オ)キナレドモソノ段アナガチニ心ニ掛ラルベキニ非ズ。只何
トゾ早速二本望ヲトゲ切腹シテ末世末代武臣ノ鑑ト云ハレ、家
名ヲ千歳ニツタヘ我々ガ本意ヲ達シ玉ヘト各一統ニ信伏シテ、
兎角大石殿ノ秘計ニ身ヲマカスベキニテ候。コノ上ハタトエ勢
ヒ果、力究マリ身ハ番ニナル迄モ上野介ヲ我々ガホコ先ニサシ
ツラヌキ亡君ノ教養ニ相ソナヘント、人々進ンデ一連ノ血判ヲ
押シテコノ時ヨリ城中ヲ相マツ。ゲニヤ近來珍シキ義士聞クモ
涼シク又勢ヒモタクマシク、コレ皆内蔵介(10ウ)一人ノ智謀
ナリ。

矢頭右衛門七忠誠之事

一矢頭長介ガ一子右衛門七十六才父子トモニコノ座ニアリ。母一
人ハ宿ニ残レリ。コノ右衛門七ハ才智発明ニシテ諸人コレヲ愛。
若年ニシテ父モ殉死ニヲモムク。コノ一人ナキトモ左マデノ
コトモ有マジ。不便千万ノコトト大石ノ指図ニテ若年ノ一子ハ
血判ハ無用ト申サレタリ。誠ヤ虎ノ子ハ生レテ三日ニシテ怒氣
アリト云。若年ナレドモ先程ノ詞ヲ耳ニハサンデ漸シバラク落
涙シテ、キツ(11オ)ト思ヒツメタル顔色ニテ大石主税ガ前ニ
来リ座シテ申スハ、御家老ノ御子ユヘニ御ウラヤマシク候。若

年ノ前髪立ハ血判無用トノコトナレドモ、家老ノ子ナレバ別条
ナク一連ノ中ナリ。コレハ依怙最頂トヤ申サン。近比御自由ノ
至リ、カ様ノ不順ニテコノ度ノ大事成就スベキヤ。常ハ御家老
也。今コノ節遠慮ハコレ無。又拙者義死ヲ究メ殊ニ又老母手ツ
カラ経帷子ヲ仕立テテ玉ハリ、一子不便ナレドモ思ヒ切り死出
ノ盃仕り出タリ。然ル処ニコノ連中ニハツレテ帰宿仕り老母ニ
モ面目ヲ(11ウ)失ナヒ、忠節ハステ万年ノ齡ヲタモツトモ恥
ヲ諸人ニ晒サンヨリ覚悟ハ究メタリ。主税殿ニモ殉死ノ覚悟ナ
ルベシ。サシチガフベシトテ血眼ニナツテ云フ。内蔵介見玉ヒ
弥不便ニナリ、イヤトヨ右衛門七コノ列ニノガレ玉ヒテモ不義
ノ待ニアラズ。イカニモ存命(シテ)亡君ノ菩提ヲモ弔ヒ玉ヘ
トノ心入故ニ申タリ。天晴ケナゲナリ。コノ上ハイカ様トモ一
連ノ中ニ入タリ。面々若年ノ人ノ心底ヲ感じテ弥金鉄ノゴトク
犇トタテツキコモリ出入セズ。コノゴトキノ上ハ戸田采女正殿
ノ家来戸(12オ)田権左衛門モ人数ヲ召具シ、町家ヲハラヒコ
ノ旨註進ニ及ビ、コノ節ノサタハ大学頭殿ノ墨付判形コレ無時
ハ相渡スマジキトノ取サタハ城内ヨリ流布サスルト見ヘタリ。
戸田権左衛門方ヨリ註進ハ、安芸守殿・大学頭殿下知判形来ラ
ザル内ハ相渡スマジキノ由早速ニテ申上ル。城内人別五十一人
雑兵百二十余人籠城セリ。

大野九郎兵衛赤穂掃參、流浪大坂出事

一大野九郎兵衛ハ臆病ノハタラキ諸朋輩マデモソノカシ、妻子ヲツレテ赤穂ヲ立去リ大概ニ(12ウ)片付、扱赤穂ノ町年寄木屋作左衛門方ニ預ケタル諸財宝七十ヶ金銀モコノツツラ長持ニアリ。漸々ニ赤穂モシヅマリ四月十一日ニ赤穂ニ来リヒソカニ一宿シテ彼諸道具ヲ舟ニツマント用意スル。町中大ニクミ又宿ノ作左衛門モ人畜生ノ大野ト町中一処ニ申シ合セテ城内ニ相伺フハ、九郎兵衛来リ候。イカガ仕ルベキヤ。諸道具指トメ其身モ指トムベキヤト相伺フ。内蔵介下知申サルルハ、大野九郎兵衛ニカギラズ諸士中当城出走ノ輩ハ流人也。内蔵介裁判ニ及バズ。去(13オ)ナガラ亡君在世ノ節朋輩ナリ。殊ニ九郎兵衛ハ家老ノ加判モシタル人、見苦シキコトハコレ無様ニ存ルマデナリ。諸道具金銀ハ大野ガ物ナリ。コノ方ノ下知ニ及バズ。面々ノ作略イカ様ニモ致サルベシトノ指ツ也。町人ドモコレヲ聞、内蔵介殿ノ下知ヲハバカルユヘニ遠慮ハアリ。日頃大野父子ガ体大倭奸曲ノ悪人メ今コノ時思ヒ知ラスベキト町中若キ者ドモ大勢打ヨリ打殺スベキヤト立サハグ。ソノ夜九郎兵衛父子ハコノ町中ノサワギヲ我身ノ上ト知り、イヤイヤ財宝モ命ニハカヘ難シ。(13ウ)葛籠ノ中ニ入置タル金子ヲヤウヤウト夜更ケテ切破リ三百両ヌスミ出シテ父子トモニ出来リ、浦方ヘ走リヌケン

ト心掛ケ出タリ。我物ヲ我レト盗ムヤウノ仕方淺マシ心底ナリ。町中ノ若キ者ドモ番ヲ付コレヲ知り、スワヤ盗人逃スナト追カケ父子トモニトラヘテ丸裸ニムクリ、大名ノ御家老已倭讒ノムクヒト追放ス。大野父子手足ヲスリテ刀脇指ト一重ノ着物金一両ヲモラヒテ便船シテ父子赤穂ハ出払ヒケリ。コノアトニテ諸道具ハ残ラズ町中配府仕ルヤウニ内蔵介下知也。(14オ)

一大野九郎兵衛ハ奸謀深キ男ニテ大坂ニ来リ、トヤ角身ゴシラヘシテ内匠殿ノ近年藏屋敷セマク諸士往来休息場ニ町屋ヲヒロク買調ノヘ置玉ヘリ。ソノ屋敷預リノ方ニ参リ江戸御後室ヨリ御用金ニコノ屋敷ハ売ハラヘトノ御指ツ也ト俄ニ町中ノ入札ヲトル。皆赤穂ノ首尾ハ知ラズ。家老ノスルコトナリ。カレコレ大勢入札ニシテ百貫ニ落札、屋敷売ワタシテ金子千六百両ウケトリ、ソノ外蔵普請家作等皆ウリハラヒ二千五百両ノ金銀ヲアツメ、又京都ニ出テ内匠殿御金ノアリケ(14ウ)ルヲ集メテ直ニ江戸ニ出足セリ。誠ニ奸謀ノ大悪人ナレドモ当分ハ金銀ノ自由ニシテ江戸ニアリ付、幸ヨク安楽ニ隠レ居レリ。人畜生トハ大野九郎兵衛コトナリ。如何有ベキヤ。又天命ト云コトアレバ運命ノメグル時節モ有ベキナリ。

忠臣規矩順從祿卷之五終(15オ)

忠臣規矩順從祿卷之六

兵書ニ云、凡人心ノ信義ヲ奪フ者ハ財宝也。然リトイヘド
モ金銀財宝ナクンバ立ベカラズ。是非ヲ考ヘ程ヨク有タキ
物也。爰ニ内匠頭殿譜代ノ家来荻原長介兄弟大福長者金銀
充満、コノ故ニ万端義理ヲ取失ヒ金銀ニ心ヲ奪ハレ武士道
ノ信義ヲ忘却ス。古往今来多キコト也。然レバ欲ハ程ヨク
スベキコト肝要也。我身一代ノ覚悟ノ為ハ各別ナレドモ入
ザルコトニ骨ヲ折、イヤガ上ニ取集メタガル人倫(16オ)
ノ習ヒトハ云ヘドモ慎ミ守リテ信ヲ失ハザル様ニスベキ也。
欲ニ目ノミヘザルト云フ世話語偏ヘニ的中セリ。荻原兄弟
金銀ニ目ノクレテ不思議ノ働ラキヲスル。往昔甲州武田信
玄ノ家来譜代相伝岩間大内蔵左衛門大身ノ武士也。武田家
弓矢盛ンニシテ五ヶ国ノ兵士武勇手柄アリトイヘドモ出陣
毎ニ終ニ手ガラコレ無。譜代故ニ信玄氣ノ毒ニ思ヒ玉ヒテ
具足ヲ玉ハリ、或時ハ太刀、或時ハ馬、色々ノ武具度々ニ
玉ハリ何トゾ一度(16ウ)武勇手柄働セヨト宣フ。度々ニ
感涙ヲ流シテ是非ニコノ度ハ手柄仕ラン。左モナクバ討死
スベシト度々ニ御請シテ妻子眷属ニ盃シテ最期ヲ究メ出陣
シテ、鉄炮ノ音ヲキクト即時ニニケ帰ル。コノ故ニ是非ニ
及バズ信玄召ヨセ玉ヒ、今ハ早切腹シテコレ迄ノ臆病ヲス
スゲト宣フ。コノ節岩間大内蔵涙ヲ流シテ、拙者心底元来

且テ臆病ニアラズ。數代知行高禄ヲ玉ハル故ニ宿処ニ金銀
過分ニ持テ候。コノ故ニ心底ニ世ヲ遁レ退ゾキコノ金銀ニ
(17オ)テ安樂ニスベキトノ心底故ニ逃カヘリ候。然ル上ハ
コノ金銀ハ思ヒ切テ淵川ニステテ残念ナク働クベシト云ヘ
リ。奇特ニ思召テ則金銀ハ残ラズトリ上ゲ蔵ニ入、ソノ後
ノ体ヲ見玉ヘバ相応ノハタラキアリ。臆病ニ非ズ、誠ニ恥
ガマシキコト也。コレ金銀ニ心ノ引ルル故ナリ。岩間大内
蔵ハコノ後ハ分国中ノ目付役ヲ申シ付ラレタリ。人ノヨキ
手本ナリ。荻原長介モ金銀故ニ恥ヲサラセリ。

荻原長介同義左衛門沙汰之事(17ウ)

一内匠頭殿普代ノ侍荻原長介親ハ勘定奉行在刃代官職兼役シテ二
百石ノ知行ヲトリ夥シキ手前福者ニナリ、金銀充満シテ死去跡
目百五十石長介五十石義左衛門ニ玉ハリ、家財金銀田畑等皆兄
弟相続セリ。今度騒動ノ節臆病中ケ間ノ頭取シテ配当ノ金銀ヲ
トリ、屋敷ヲ立ノキ自分ノカカヘ下屋敷ニ引コミコノ処ニ田畑
モカヒツケラク。普請モアリ赤穂ノ町端レ左村ニテ安樂ニクラ
ス。コノ上ニ欲ニ目ノ見ヘザレバ不屈千万、親祖父代鉄炮ノ家
ニテ百目玉ノ筒ニ挺二百目玉(18オ)ノ筒一挺持テリ。コノ筒
今ハ無用ノ物ナリトテ領堺マデ出テ脇坂淡路殿ニサシアゲ、城
内ノ案内仕ベキ旨ヲ申ス。脇坂殿コノ節ハ籠城ノサタコレ有二

付、大ニ悦ビ自然ノ節ハ案内頼ミ入。又大筒ドモ指上ル段満足申ストテ白銀百枚時服ヲ玉ハリケリ。去トテハ侍畜生人非人トハ長介兄弟ノ者ドモナリ。コノコト町中ノトリザタトナリ城内ヘモ聞ツタヘテ評判シキリ也。内蔵介ハ重々シキ人ニテ聞又顔シテ居玉ヘドモ、大石主税・武林只七・奥田孫太夫・松村三太夫・間十次郎究竟ノ若殿原打(18ウ)ソロイテ主税ヲソソノカシ、永々ノ籠城殊ノ外氣詰リ也。イデヤ物慰ミセントヒソカニ城中ヲ忍ビ出テ夜ノ明方ニ屋敷ノ前ヲ打スギテ町屋ニ出デテ、夫ヨリ深津村ノ長介ガ屋敷ニ寝コミニ押コンダリ。長介・義左衛門兄弟イマダ朝ネシテ何ニ心ノ苦勞モナク^{酒宴}ノ酒宴ニウツケテ居ル処ヘ大石主税マツ先ニヲドリ入、五人ノ若殿原皆一時ニ鬼神ノゴトクヲシコンテ騒動ス。長介兄弟大ニヲドロキ盜賊押コミ来レリト呼ワリ逃ントスル処ヲ、丸裸ナル男ヲ武林只七追ツメ(19オ)テ賊ヲシテシメ上グル。御免ト云ヘドモ聞入レズ。武林只七ハ無類ノ剛力ニテ長ハ五尺八寸アリ。不思議ノ兵ナリ。内匠殿乳母局ノ子ナリ。内匠殿ノ乳兄弟也。小身ナレドモ入魂ニ致サルル、一スジニ忠節ノ男ナリ。何カコノ大力ノ荒者ニ出合ヌルコソ因果ナレ。四寸繩ニククリ上ル動カレバコソ。四寸繩五寸繩ト云ハ百ニカカタル繩ノユヒヨリ耐テツクワケ上ケタル繩トノ間ヲ云ナリ兄弟トモニ丸裸ニテシバリ上ケ五人ノ面々ノ中ヘ引スヘテ、侍畜生ノ汝ガ先祖御普代ノ者ナリ。

然ルニ大野ガ等ノ倭人ニクミシテ(19ウ)早引退ク。サハアルニアマツサヘ脇坂殿ヘ武器ヲ売、金銀ヲムサボリ、ソノ上ニ城攻ノ時案内仕ルベシト申入タル由不届千万。ニクキヤツメ限りナシ、コレニ依只今首ヲ打ツ。モシヤ又命助カリタクバコノ方ノ望有。好ミノゴトク仕ルベキヤト云トキ、長介兄弟何ヤウノ仰ニテモ相ソムキ申マジク候ト云。先コノ急ノ繩目ヲ少シユルメ玉ヘト歎ク。主税ヲハジメ只七・三太夫ナドモ今首討タバ内蔵介ノ咎メモアルベキヤト遠慮モアリ。然ル上ハ繩ハユルスベキ条、丸ハダカニテ亡君ノ御菩(20オ)提処花岳寺ニ參詣シテ御位牌ニ焼香仕ルベシト云フ。長介兄弟扱モ命ノヲシカリケリ。畏リ奉ルトテ五人ノ面々ノ先ニ立テ丸裸ニテ御寺ニ參リ仏間ニ上リテ焼香スル。寺内ノ小僧トモソノ外大勢見物シテ、恥シラズメト大キニ笑ヲ聞テ長介小声ニツブヤキ、命ニカユル物アラズ。タトヘイカナル賈ニアフトモ少シノ間ナラン。頓テ内蔵介殿ヨリ止メ来ルベキ物ヲト云。只七聞テ、益ニクキヤツメ、スベキ様アリト紙ヲツキ立テ幟リニシテ竹ニサシ急度コレヲ持テト云フ。ソノノ(20ウ)ボリノ中ニ大文字ニ書付タルハ、荻原長介・同義左衛門士法ヲ忘却主君ノ仇ヲ思ハズ臆病ヲ働キ、ソノ上ニ武器ヲウリテ城内ヘノ案内スベキト願フ。コレニ依死刑ニスベキ処恥ヲサラシテモ一命ヲタヌカリ度トノ願ユヘニ、コ

ノゴトク町中二面縛セシムル者ナリト大筆ニ書テ持上ル。兄弟丸裸ニテ赤穂ノ町中ヲ通ル、アトヨリ主税・只七・三太夫・十次郎・孫太夫立カカル故ニ恐ロシク中々脇目モフラス通ル。町中ノ子ドモ童ベ悦ンデアト先ヨリハヤシ立ツル。又町中ニハ兼々大石ノ実徳ニ(21オ)ヨク從ヒナルル。久々籠城ノ上、主税ヲ見タレバ氣慰ミニトテ若者出テ行列ヲ立テテ通ラセ、下馬先ニテハ四ツバヒニハワセヨト大道ヲハワセテ町ハゾレヘ引出シテ、ニクサニクサ討テ捨ント云フ時二兄弟ガ母乱レガミニテ走り來リ兩手ヲアワセ、アノ様ナル士畜生ニテ候ヘドモ子ニテ候ヘバ不便ニ候。私ノ実子ニモ候ハバ各様ノ御手ニカケ申スマジク候。繼母ニテ常々不孝養育モ仕ラズ。私ハ別宅町屋デ他仕ゴトシテ朝夕昏シ候ヘドモ、実子ナラバ定メテ命ヲ託ン。ママ母故(21ウ)ニ打ステタリトノ評判有ベキモ迷惑、殊ニ彼ラガ親長右衛門草葉ノ陰ニテ恨ミ申サルベキモ恥カシク候。只ヒタスラニ助ケ玉ヘト歎クニゾ哀ニモアリ、奇特ニモアリ。感心シテ然ラバ助クルゾト追放ス。一札云テ老母トツレテ立去ケリ。コノ騒動ニ屋敷田畑諸道具ハ百姓ドモトリ上ゲテヨセ付ズ。ワヅカノ金銀ヲ拵ヘテ何方ヘカ忍ビケリ。最期ノハテモ思ヒヤラレケリ。

主税母勇氣異見之事

一大石主税ハ皆々ツレ立テ帰城ノ節、屋敷ノ前ヲ(22オ)通ラル

ルニサスガニナレタル屋敷老母ニ一目対面モ願ワシク四五人トモニ門前ニ立ヤスラヒ玉ヒ、老母ハ夜中ニ主税門前ヲ通ラレタルコトハ早シリ玉ヒ、長介方へ參ラレタリトノコトヲ聞テ帰リ來ルヲ待玉フガ、コノ節今ナギナタノサヤヲハヅシテ門ヲ開キ出玉ヒ、主税主税ト呼カケテ、汝ハ不屈千万、コノ度大事ノ籠城主君ノ追腹仕ルトテ父内藏介殿ト一処ニ籠城シテ上使ヲ相マチ行義作法正シカルベキノ処ニ夜中ニ出張、殊ニ町方ニ出テ何ノカマヒニモ成ザル若殿原ヲバ(22ウ)サイナムコト近比放埒千万、武士ノアルマジキコトソノ心底ニテハ内藏介殿ノ大キナル妨ケ也。我が手ニカケテ打テステント長刀ヲ以テフリカクル。主税大ニラドロキ皆々袖ヲ引合跡ヲモ見ズシテ城中ニ逃入タリ。誠ニ賢徳ノ老母也。主税ニ勇氣ヲススメ母ヲナツカシム心ヲ止ル替ベキコト也。老母内ニ入大ニ涕泣シテ不便ニ思、和ラカナル挨拶モシタキ物ナレドモ万一心ニ懦弱ニナリテハ如何、万一未練ノ心起リテ母ヲナツカシク最期ヲ送ルベキヤト思フ故ニ、コノゴトクノ首尾(23オ)イトヲシキ子ヲ追立タリト愁傷ノ体、誠ニミルモキクモ感心セリ。コノ故ニ主税・只七ソノ外ノ若殿原青息ヲツイテ城内ニ入、ヒシトサタナシニ致サルル。内藏介モ聞トドケ玉ヘドモシラザル体ニテ居玉ヘリ。

三好源太夫出走^並老母之事

一三好源大夫ト云人知行六百石トリ無役ニテ番頭ノ座上也。コレハ内匠頭殿大伯母ノ子也。コノ老女八十歳ニアマリ堅固ナリ。源大夫ハ六十二アマリ心愚カナルユヘニ隠居同前也。然リトイヘドモ(23ウ)内匠頭殿親類ユヘニ家中ニテハ威ノ重キ人也。大野九郎兵衛ハコノ三好ヲ同類ニセシト呼ヨセテヒソカニ申シ談スル、既ニ大石ハ天下ニ対シ逆心一揆スル。コノ度ノ騒動ニノリ当城ヲ奪ヒテハ諸士ヲ殺ベキトノ工ミ也。イソギ我ラト一処ニ退キ玉ヘ。又老母ハ愚チナラン。合点モ有マジキ条、コノ度上野介殿ヲネラヒ討ベキタメ、江戸ニ下ル也。大石逆心ナレバ当地ハ騒動スベシ。諸道具ヲカタツケ何方ヘモ忍ビ玉ヘ。重ネテ音ツレ申スベシト申シ玉ヘト教ユレバ、三好源大夫ハウ(24オ)ツケニテ佞人ニタマサレ金銀ナリ次第懐中シ普代ノ侍一兩人召ツレ、コノ者ドモニモ金銀ヲ懐中サセテ旅用意シテ老母ノ前ニ出テ、扱モ大石内蔵介ハ逆心任リ当城ニタテコモリ候。コレニ依亡君ノ仇吉良上野介ヲ討ベキ人ニアラズ。主君ノ仇ナレバ拙者一人ニテモ江戸ニ下リ、ネラヒ申スベキ条、ソノ内ハ何方ニモ忍ビ玉ヘト云。老母コレヲ聞大ニ悦ビ、ヨクコソ申サレタリ。日比ハ心愚ニシテ思フニ甲斐ナカリツルニ扱モ見上タリ。一段一段早ク江戸ニ下リテ本懐ヲ達シ玉ヘト併(24ウ)貴殿一人ニテハ心元ナシト云フニ三好コタヘテ、大野九郎兵衛・玉虫

七郎右衛門・近藤源四郎・小光源五右衛門ナド同心ニテ同伴申スト云。老母ヨロコソデ前途ノ祝言シテ目出タク門送りシテ別レケリ。コノアトニテ老母乱心トナリ、扱モ扱モ不屈千万ナル大石カナ。彼レハ亡君ノ御筋目アリ。常ニ御入魂第一ノ家老ナリ。イカナレバ左様ニハアリツ。一太刀打テ恨ミヲハラサント白髪ノ上ニ鉢マキシテ長刀ヲ持、ヨロボヒヨロボヒ御城ノ下馬先ノ門キワニ至リ大石出ヨ。畜生メ。我子ハ(25オ)主君ノ仇ヲ討ニ江戸出シタリ、大石ハ逆心一揆シタリトカヤ。主君ノ大恩ヲ忘却シテ己レガ悪逆無道、老人女ナガラ一太刀ノ内ゾ、出テ勝負セヨト匍ル。大石コレヲ聞、扱イタワシキ乱心也。コレ主君ノ従弟也。老女ナレバ三好源大夫ニソソノカサレテ出走トミヘタリ。スカシテ養育スベシト主税ノ母ノ方ヘ申通ズル故ニ、大石ノ屋敷ニ引トリ色々ニナグサメテ、後ハ心モナラリ子細ドモ聞トドケ大石ガ内義ノ苦勞ト也。以後ニ大石本意ヲ達シタルヲ聞テ自殺シテ終レリ。カ様ノ老(25ウ)女ノ子ニ臆病ノ佞人、色々様々ノ世ノ有形ナリ。

岡野・大岡・井関忠義之事

一赤穂籠城ニ及ブノ沙汰近国他国評判シキリ也。然ルニ家中恩顧ノ者ドモモ皆コノ節ニ望ンテ臆病ヲカマヘ退散スル中ニ、先年イササカノコトアリ大野ガ讒佞ニテ、御暇玉ハリ牢人シタル岡

野治太夫・大岡九郎右衛門・井関徳兵衛三人ハコノ度ノコトヲ
キキ、皆三人トモニ泉州堺ノ津ニ住居シケルガ、ソノ身相応ニ
片付妻子モ安楽ニ昏シタリ。凡人トシテ貧困ニシテ今日ノ渡世
モ叶ハザルトキ(26才)ハ、ケ様ノ節ヲ幸ヒ二名ヲ上ゲテ死ヲ致
ス覚悟モ出ル物也。ソノ身相応ニ安楽ナル身ノ上ニハ近比出ニ
タキ物ナリ。皆各子細アルコト也。コノ三人ハミナ勘定方相ツ
トメ居タル処ニ大野ガ佞讒ニ仍テ既ニ落度ニ成ルベキ処、内蔵
介カレコレトリモチ内匠殿慈悲ニテ譜代ノ者ナリト別条ナク御
暇ヲ玉ハリ、主君ニ恨モナク大野ガ佞讒ト知りタリ。コノ度赤
穂騒動シテ大野ハ出走、大石内蔵介籠城ニ及ブト聞ヒテ三人申
合セテ、皆面々具足箱ヲ荷ヒ鎗ヲ杖ニシテ赤穂ノ城下馬先ニ来
リ、岡野(26ウ)治太夫・大岡九郎右衛門・井関徳兵衛三人也。
コノ度籠城ノ人数ニ入、忠節ヲ尽シ相ハタラクベシト云。内蔵
介コレヲ聞、コノ面々ハ忠義ノ心底感心スベキコト、城内ニ取
リコメンヤト思ヘドモシバラク工夫シテ叶ハザル義アリ。我ヲ
直談ニ申シ述ベシト下馬ノ橋ニ出デテ、各三人ノ心底感シ入り
候。一処ニ籠城スベキニ候ヘドモコノ度ノ義逆心一揆ニアラス。
城内ニ有合セタル面々義死申スナリ。外ヨリノ人数加ハリタル
時ハ一揆ノ人数ヲ催スニナル。然ル上ハ何ホド旧恩ノ人ニテモ
究メテ成(27才)難キコト也。各スグニ御菩提寺ニ參ラレ焼香

帰国アラレヨ。未来ニテ亡君ヘ宜キニ申上ベキ断リ段々、三人
モキキトドケテ帰リケリ。扱追付アトヨリ家中ノ諸士配当ノ金
子ヲ百両ゾツ待セ遣シ、定メテコレハ請ガタク思ハルベキコト
ナレドモ亡君ノ御形見ナレバ受納致サレト、タトヘ籠城ハ致
サレズトモ忠義ハ始終心底ニコレ有義ニ候ト申ラクル。大方ノ
人ハ受マジキコトナルニ心入レヤアリケン、三人トモニ家中配
当ノ金ニ候ハバ請取申スベシトテ取納メテ帰リケリ。城内ニテ
若殿(27ウ)原ノ云ハ、コノ金ハ納メマジキコト也。武士ノ死
出立ニ来リ金トルハ心底未練也ト笑フ。内蔵介聞玉ヒテ涙ヲ流
シテ、三人トモニ痛マシキコト也。コノ金子ヲ返シタル時ハソ
レキリニテ落着スル。請タル時ハ城内ト生死ヲ相トモニスル忠
節ノ志三人トモニ近比ナラヌ処也ト申サレケルガ、内蔵介詞ノ
末鏡ニ向フゴトク也。コノ面々ノ心底近比恥カシキ貞実ノ人也。
既ニ大石本意ヲ達シ切腹ノ由聞届ケテ、今無事ノ時ハ前方籠城
スベシト赤穂マデ行タルハ虚言ニナリ本意ニアラスト、京都ニ
来(28才)リ大徳寺ニ法事ヲ上ゲ伏見ノ浅野稻荷ノ寺ニ来リ弔
ヒ金墓ノ料モ書ノコシテ右ノ次第トモニ遺言ノ一封ヲノコシ
テ、三人一処ニ切腹シテ死ケリ。誠ニ義死近比替ムベキノ人也。
三人ノ石塔今ニコレリ。

安芸守殿・大学頭殿墨付判形下着之事

一赤穂ノ次第戸田権左衛門方ヨリ江戸ニ註進、又上使城請取ノ衆モシバラクサシヒカヘ玉フ。江戸ニテ御評定アリ、安芸守・大學頭兩人ヨリ連判ニテ大石内蔵介方ヘ下知状サシ越ベシトノ上(28ウ)意也。大學頭殿御請ニハ、赤穂ノ諸士ドモ内匠家来ドモニテ私ノ家来ニアラス。城相ワタスベシトノ下知ハ仕り難シト申サル。コノ故ニ安芸守殿ヨリ拙者モ左ノ通りニ候ヘドモ上意ニマカセ下知判形ツカワスベシ。天下ノ騷動ヲシヅムルコトハ黙止ガタシト達テ申サル故ニ、則判形相スンデ目付中ニ相渡サル。コノ度面々上使中ニ城ヲ渡シテ諸士離散仕ルベシトノコト也。則宿次青竹挟ミニシテ早追目付中榊原采女・荒木十左衛門方ヘ相トドキ脇坂・木下モ出立、押込用意シキリ、偏ヘ(29オ)二軍ノ覚悟ニテ夥シキ騷動片ツヲノムコトナリ。

城中大石下知作略之事

一御目付中ヨリ戸田権左衛門方ヘ下知アリ。城内大石内蔵介方ヘコノ旨申シ入ラレケル。安芸守殿・大學守殿ヨリ下知状墨付判形到来申ス条、開城有ベシト也。内蔵介返答申スハ、安芸守・大學頭判形到来ノ上ハ申シ分コレ無相心ヘ候トノ事ニシテ、既ニ赤穂城下二人数入来ル。悉ク内蔵介下知、東ノ方鷹取峠ハ脇坂淡路守入り口西ノ方猪池越ハ木下肥後守入口、両路トモ二坂ノ石ヲ除キ切(29ウ)平ゲ百姓ドモ人歩ニ出ス。百姓ドモハコ

ノ度内蔵介ヨリ頼ミ入トノコト也。百姓ドモハ羽沓ヲ引カヘ金子ヲ請取ヲ雨山忝シト大ニ悦ブユヘ、我一ニト出テ石ヲ去り道ヲ開キ塵芥ヲ取り石段ニ土ヲ入、難義ニアラザル体平陸ノゴトク也。又亀甲川トテコレハ播州ニテノ大河也。常ニ船多クコノ処ニハ舟ヲ集メ中村川ニ舟橋ヲカケコノ川ニ筋ナリ。鷹取峠ノ下ニ阿智川ヨリ野中村ニ別レテ二川トナレリ。一ツハ亀甲川、一ツハ中村川ト云。両方トモニ在々村々ニフレタリ。上使ノ馳走ニト内匠頭(30オ)殿在世ノ時ノゴトク用意随分厳カ也。家遠キ処ニハ茶店ヲシツライ、足輕一人ツツ村々ノ名主百姓ドモニ出テ、内蔵介申付置候御用等滞リモ候ハバ承ルベシト申ス。去トテハ端々マデ微細ニモヨク相調ヘリ。領分ニ入ルト随分静ニシテ在々村々ヨク法令ヲ守リ、百姓ドモ出向フトイヘドモ其サテ嚴重ニシテ喧嘩口論モナク、町屋ハモリ砂ヲ打、箒キ目ヲツケ勿論家中マデ掃除等モ奇麗ナリ。

一既ニ四月二十七日領分ヲ過ギ町屋ノ近辺ニ先人(30ウ)数ドモ来リ上使ハ越賀村ニ止宿也。内蔵介ハ間喜兵衛ヲ以テ使者トシ又高田郡右衛門ヲソヘ使者トシテ申入ルルハ、明二十八日午ノ時ニ御城引渡シ申ベク候。尤内蔵介御迎ニ出申ベク候ヘドモコノ節御免ヲカウフルベシ。安芸守・大學頭判形下知状到来ノ上ハ何ノ存念モコレ無候。相残ル諸士ドモ異変且テアルマジク候。

諸士ドモ大概ハ下馬先ニ出城仕ラセテ乱雜コレ無ヤウニ申ツケ候。又城内番処番処ハ段々御人数次第ニ引ワタシ申スベキ条、別条ナク御入城コレ有ベシト念比ニ申シ(31オ)送ル。上使並ニ城請取ノ衆背息ヲツイテ安堵スレドモ、然レドモアママリ心ヨク氣ツカイナレドモ、先ハ悦ビ念ノ入候条々相心へ候ト使者ハ帰リ、明二十八日引渡シニ相究マリケリ。

忠臣規矩順從祿卷之六終(31ウ)

忠臣規矩順從祿卷之七

兵書ニ、胡婁子鯨尾ヲ押スガゴトシ、人間十事九ツハコノ類、コノ語ハ人間ノ定メナキコトニタトヘタリ。胡婁子ハ禪ノ祖師也。鯨ノ尾ヲ飄筆ニテ押ユルトノコトハ古語ナリ。禪語ニ^{胡婁子}惣テ人情十ノ物九ツハ万端ナルトハ思ヘドモヒタトハツルルコトナリ。コノ心ヲ徒然草ニハ、待ツ人ハ来ズ待ヌ人ハ来ル。兼好法師ノ言ヲ花ハ盛月ハ限ナキヲ見ル物カハ。花ハチリテノ跡ノ青葉交リ、月ハ兩ノ(32オ)月ヲ楽シムト皆コレソノナラヌ処ヲ慕ヒ心ヲ遊バスル。コノ心ニテ万事鯨ノ尾ヲ押ユル心ナレバ、深ク人ヲ頼ムコトモ入ラズ又恨ムベキ人モナク定難ク世ノ中ノ浮沈モクユベカラズ。定ナキ世ノ姿平人ノ富栄又

零落貧乏皆コレ不定、世ノ姿且テ残念ニアラズ。扱浅野内匠頭殿四代以前采女正殿当地ノ開基ニテ新城ヲキゾキ町屋モ段々建ツツケ、年々下行月々繁昌シテ千五百軒富家多クシテ寺社建立アリ。四方堅固ニ軒ヲナラベ仕(32ウ)置法令ニハ倭人コレ有ト云ヘドモ、大石内藏介賢徳ノ人ユヘニ領地安体ニ治マリ、土民百姓マデ從ヒ伏シテ平均ニ千代万歳ヲ唱フ。天地ハ覆ヘルトモコノ家ナンドノ滅亡スベキトキハ有ルベキコトニ非ズ。イカナル天ノ禍ニヤ、元祿十四年四月二十八日城ヲ開キ渡ス。浮雲ノ世ノ姿ナリ。

赤穂城開渡之事

一四月二十八日鷹取峠ヨリ脇坂淡路守二千五百人五段二備ヘテ諸士騎馬ハ陳羽織押羽織ヲ着シ、(33オ)鉄炮百五十挺切火繩長柄百本弓五十張備ヲ立テテ東口ヨリ町屋ニ入来ル。諸見物一人モコレ無。行義正シ。猪池越ヨリ木下肥前守諸侍騎馬押羽織鉄炮百挺切火繩長柄五十本弓三十張都合千人、又上使ハ中村口ヨリ入、惣人数町屋西東ヨリ大手口ニ入、万端上使ノサシツニテ二三ノ丸ノ間ニ三千五百人並居タリ。ソノハレガマシキコト祭祀ノワタルガゴトク也。上使下馬先ニ入ルル時二片側ニハ松原アリ片側ハ堀ナリ。兵糧蔵武具蔵ナドアリ。空地ノ広キ処ニ諸士

アリ。皆押羽織具(33ウ)足箱鎗弓ヲ跡ニ持タセ吉田忠左衛門・片岡源五右衛門・原宗右衛門・間瀬久太夫・間喜兵衛・岡野金右衛門・磯谷十郎左衛門・早水藤左衛門・間十次郎・小野寺幸右衛門・菅谷半之丞・勝田新左衛門・富森助右衛門・中村勘介・萱野和介・三村次郎右衛門・矢田五郎右衛門・間瀬孫九郎・吉田沢右衛門・赤垣源藏・間新六都合二十一人ソノ内吉田忠左衛門・片岡源五右衛門上使中へ出迎へテ、城中ニ内蔵介ヲ初メ三十人バカリ残り候。コレハ御迎ニモ出申ズ候ハ城相渡候節ノ役目ニ残り、ソノ外ノ侍百七十八人(34オ)早先比ヨリ悉クニ離散仕り当城ニハ居申サズ候。コノ処ヨリ御案内ノタメ千馬三郎兵衛・高田郡右衛門下馬橋ニマカシアリ候。御召ツレコレ有ベク候ト申シ断ル。上使衆脇坂・木下城中ニ入ル。上使榊原采女・荒木十左衛門下馬先ニテ下乗アリ。兩人衆石原新左衛門・岡田庄太夫^{勘定}代官五人同道ナリ。脇坂殿・木下殿城中へ召連ラルル。侍二十五人ツツ雑人百人ツツ外役者百人右ノ定メニテ只今入来ル。下馬橋爪二千馬三郎兵衛・高田郡右衛門麻上下ニテ迎ヒニ出アテ案内先ニ立。(34ウ)コノ内ハ追手桜ノ門トテ大門アリ。コノ門番ハ大石ガ家人寺西弥太夫棟梁ニテ足輕十人鉄炮二十挺火繩玉等皆一ツニシテ前ニ出シヲキタリ。弓二十挺韃付皆弦ヲハツシタリ。コノ処ニテ脇坂ノ足輕門ヲ請トルト寺西ハ城外ニ

出タリ。コノ次ハ鉄門ナリ。コレハ輕キ番人也。コノ次ハ御殿先ノ門ナリ。コノ入口ハ小野寺十内・近松勘六兩人アリ。御礼申シ玄闕先ノ前二至ル。コノ前ニ大石主税ト堀部安兵衛・奥田孫太夫アリ。上使挨拶アリ、脇坂・木下台式アリ。ソレヨリ玄闕マデ薄ベリヲシキ(35オ)主税・堀部上使ノ先ニ立ツ。式台下ニ間瀬久太夫・橋本平左衛門・貝賀弥左衛門・矢頭長介アリ。ソノ下御座ウスベリノ上ニ武林只七・松村喜兵衛・同三太夫・大高源五皆麻上下ナリ。大石内蔵介鬘斗目麻上下ニテ御礼申ス。内蔵介アトノ方ニ神崎与五郎・芦野三平・横川勘平・矢頭右衛門七相並ベリ。玄闕床ノ前ニ数長柄二十本アリ。岡嶋弥三右衛門・前原猪介アリ。遠侍ヒニ足輕一人^{寺坂吉右衛門}内蔵介サシツニテ上使通ラルルト残ラズ上ニアガリタリ。大石内蔵介父子上使ノ先ニ立テ広間(35ウ)ニ通ラルル。広間ニ大石瀬左衛門・奥田定右衛門・倉橋伝介・間瀬孫九郎アリ。扱大書院上段ノ間ニ上使御目付中脇坂殿・木下殿座シ玉フ時、追付三方ニ昆布^{ソシ}トク^長ヲ載テ潮田又之丞持出ル。コノ節上使御下知状ヲ読ルル。内蔵介・主税・安兵衛・小野寺十内マカリ出ル。上意ノ赴

浅野内匠頭義去三月勅使御馳走仰付ラルル処、殿中於吉良上野介ト口論刃傷ニ及ビ不屈之至リ、役目ヲ失ヒ法令ヲ背クコレニ依、切腹城地召上ラレ候。家中ノ諸士悉ク

離散夕(36才)ルベキ者ナリ

月日

老中判形

安芸守・大学頭下知状判形コレ有

コノ旨内蔵介謹テ畏リ奉リ候。家中諸士離散相残ル者トモ前方御目付中マテ御願申上候ヘドモ上聞ニ違セズ。内匠頭先祖東照宮御取立ノ家筋ニ候。名跡少シニテモ相立申様ニコレヲ願ヒ奉リ候。当分上意違背仕リ難キ義ニ付、諸士トモ離散仕リ只今城明渡シ退キ申スベシ候ト、即時ニ大石主税黒漆ノ箱三方ニノセテ采女正ヨリ四代ノ御朱印指上ケ奉ル。ソノ次堀部安兵衛帳面箱入領内(36ウ)納辻六十八ヶ村ノ在々水帳人別帳町屋人別家数神社ノ書付滞リナクサシ上、番処番処引ワタシ候条、内蔵介自分ノ宿本ニ引取申ベク候。諸士トモ心々ニ退散仕ラセ申スベキノ条申上ラル。榊原采女・荒木十左衛門申サルルハ、段々残ル処ナキ致シ方、又願ヒノ口上則只今宿次ヲ以テ江戸表へ披露申スベシ。内蔵介宿処ニ帰ラレ休息三十日ヲ限り、勝手次第ニ静カニ当地ハ引払ヒ申サルベシ。晩來マタ申シ談ズベシトノ挨拶ナリ。内蔵介申スハ、不甲斐ナキ者ト思シメサルベク候(37才)ヘドモ公義ニ対シ何ノ存念モ御座ナシト、座ヲ立テ諸士中ヲアツメ雜人ヲ点検シテ私宿ニ帰ラレケリ。下馬先ヨリ行列スコヤカニ作法嚴重也。

内蔵介私宿会合之事

一竹ニ上下ノ節アリ。松ニ古今ノ色アリ。義ニ節アリ。信ハ不易也。コレ兵法ノ勘弁也。ツラツラヲモンミルニ、竹ニ節アルソノホドヨキコト配リ加減ヨク天然末ヲクレンソノ強ミヲ持。コレ

自然ノ道理ナリ。義ハソノ節ヲ守ル第一ナリ。何レノ道カ義ナカラン。義ヲ見テモ偏屈性ニスベカラズ。ソノ義ニホドヨキ(37ウ)図ヲヌカサズ相守ル信人ニナクンバ何ヲ以テ人ノ詞ヲ便リトセン。何ホド信ヲ云テモ時ニフレ折ニフレ善悪日々ニカワリ定メ難キハ偏ヘニ一花心ナリ。松ハ常盤ノカワラザルゴトク百年モキツト信ノ根元クツロガザル人間第一ノ慎ナリ。

一大石内蔵介ハ赤穂ノ城ヲ引渡ス前代未聞ノ仕方、礼ト云ヒ義信ト云ヒ微細ナルコト諸帳面ノ仕方、諸人ノ感ズル処ナリ。二十一日午ノ時御城ヲ引渡シテ行列武備正シク我家ニ帰り五人ノ諸(38才)士内蔵介ノ奥内証ニ同伴ス。内蔵介ノ母義内室銚子盃ヲ持出テテ各対面ニ及ビヒトヘニ父子ノ親ミノゴトクナリ。扱当地引ハラヒノ義ハ三十日限リトノ下知ナレドモ、今ハ何ニ花香ノ残ル身ニモ非ズ。近來ソノ用意次第早々引払フベシ。又各面々住居ノ処ハ京大坂堺伏見大津コノ辺然ルベシ。心々ニ任セテ公義役人中ノ手判ヲ申ウケ相渡スベキナリ。追々通路内談申スベシ。面々私宿ニ帰り、兼テ退去ノ用意調ヒツラン。然レドモ又ソノ上ニ少シ休息モ致サレヨカシト申サル。コノ節内(38

ウ)室聡明ノ人ニシテ、当地離別ノ名残ノ会ナリトテ輕口キ精進料理、今日バカリハ禁酒ニモ及ブベカラズト午ノ半時ヨリ申ノ時迄酒宴シテ興ヲモヨホシコノ程ノ憂ヲハラス。ソレヨリ表書院ニ座ヲカヘ人ヲハラヒ密談、上野介ヲ討ベキノ謀略根元ヲ大石ニ相尋ヌ。内蔵介申サルルハ、第一大學頭様へ御アト目相續ハカリ難シ。コノ義暫見合スベシ。第二ハ今コノ時節我々面々ノ心底計リ難シ。定メテ上野介用心堅固ニシテ上杉殿ノ宿処ニ居玉ハン。我々面々タトヘ四天王ノ勢ヒ(39オ)ヲアラワシ神變不思議ヲナストモ、討スコトハアルマジキナリ。先暫時月日ヲ延バシテ諸国ニコノ方ノ噂サモ止ミ、又我々ハ放埒ニ身ヲ持ナシ面々チリハテテ、少モ仇ヲムクヒント思フ心モ絶果タル時節ナラデハ中々叶フベカラズ。若殿原必ズサワガシク思ハレテハ石ライダキ測ニ入ナルベシ。ソノ段始終内蔵ニマカセ玉ヘ。第三ニハ各五十一人ノ命ヲ預リ申ス内蔵介、何トシテ一寸モ油断ハナク寢食ヲ安ンスルコト有マジク候。相カマヘテ内蔵介下知ヲ守リ玉ヘト申サル。諸(39ウ)人一等ニ相心ヘ申スト返答シテカレコレ往事ノ物語リシテ立別ルル時、内蔵介水戸黄門ノ事ヲ申出シテコノ御隠居ノトキ御詠歌サリトテハ御尤也。中納言ニ御昇進ノトキニ位ヒ山昇リテ、ツラキ老ノ坂ノ麓トノ里ハ住ヨカリケリトノコト、高官ニナリ身モ苦勞也。退ベキトノ心

勿論感スベキナリ。古哥二世ノ中ヲ賤シト住ハ身ハ安シ賤シカラジト住ハムツカシト云。左ノゴトク也。高位高官或ハ立身出世スレバ中々ソノ身ハ苦シ。内蔵介モ平侍ナラバ即時ニ殉死シテ一人ノ忠義ハ(40オ)立。ナマナカ家老ノ身諸士ノ目当ニナル、コレ辛勞ト云ヘドモ亡君ノ跡ヲタバネソノ節義ヲ守ル。コノ故胸中ニ人シラズ骨ヲ折、コノ行スヘイカナル辛勞アルベキヤ。然レドモ思ヒツメタル一念ナドカハ片時モ忘ルベキト、落涙シテ常ニモスギテ歌ヲ詠メリ。コノ度モ、我君ノ道シルベクン身ノ露ノ残ル草葉ニ物思ヘトハト詠ズル心底哀レナリ。涙ノ内ニ片岡源五右衛門用入役三磯谷十郎右衛門五百五十五兩人ヲ近付、貴殿兩人ハ年来江戸勝手スグレテ功者ナリ。ソノ上親類中モ江戸ニアリ。(40ウ)早々下向然ルベシ。外ニ用意ノ金子相ワタシテ縁ヲ求メ諸方ヲ聞合セテ、コノ方へ通路アルベキナリ。京都與服処ニ三文字屋亡君ノ御用ヲ達セリ。コノ方ニビンギ通路アルベキナリ。扱書通ノ義ハ相文字アリ。他人ノヒロイテヨメザルヤウニ埒ノミヘザル様ニ申フクム。兩人相心へ随分諸方聞合セ内通申スベシ。大事ノ役目ナリ。一刻モ油断スベキニ非ズ。明朝兩人モ発足シテ江戸出シタリ。兩人落付ハ芝ノ泉岳寺ニ二宿、ソレヨリ聞ツクロヒ町屋ニ出タリ。(41オ)

榊原采女殿・荒木十左衛門殿対談之事

一 四月二十八日夜ニ入り榊原・荒木兩人ヨリ大石方へ申シ来リ、四人トモニ少シ申シ談ズル義コレ有ノ条、我々旅宿ニ御越シア

ルベシト申シ来レバ則チ内匠殿休息処丸ノ内ニ花畑屋敷アリ。

ソノ地ニ居玉ヘリ。勿論本丸ノ御番並ニ二三ノ丸トモニ番人ハ脇坂淡路守殿・木下肥後守ヨリ相守レリ、脇坂・木下ヨリモ使

者サシ越シ、今日ハ丁寧ノ仕方諸事残ル処ナキ義ト感称ノ使ナリ。コノ節大石供人小勢カロク召ツレテ伺公スル。各申サルル

ハ、今(41ウ)日城引渡ノ次第諸帳面馳走掃除道橋マデ念入丁寧誠ニ比類ナキコトトモ感ジ入、江戸ヘモ註進ニ及ビ候。次ニ

貴殿並ニ相残ル諸士中願ヒノ赴キ承トドケ神妙ニ候条、別段ニ飛脚ヲ以テ委細ニ註進申シ候。又諸侍中江戸出申サレ度面々ハ

女手形指出シ申スベク候。又当地ニ住居有ベキ面々ハソノ旨申付ベク候。或ハ諸国ノ内望次第ニ先々ニ証文サシ出シ申スベキ

由ナリ。内蔵介返答申スハ、残ル方ナキ御心入過分千万ニ存ジ奉リ候。拙者義近日当地ハ弘ヒ申スベク候。又諸士トモ(42オ)

住居一枚目録ニテ尋申スベキモ夥シ。五十一人ノ家名書付進上申ベク候。京都大坂奈良伏見大津ノ内、公領在々村々マデ赤穂

退散ノ浪人ドモ少シモ御カマヒコレ無条、望次第住居滞リナキ様ニ仰フレラレ下サルベシト申ス。相心へ候トノコト故、則五

十一人ノ家名ヲ書付進上、則チ諸処ニ申フレラレ五十一人何ノ

サシカマヒコレ無住居致サセ候ヘトノ下知ヲ出サレケリ。内蔵介一通り相スンデ帰宿致サレケリ。

脇坂殿ヨリ大石方招請之事(42ウ)

一 四月二十九日脇坂淡路守殿ヨリ大石方へ念比ニ申コサレケルハ、コノ度ノ始終残ル方ナク候。コノ節極メテ何方へノ御志モ有マ

ジ。上方ニテ居住モ相究マリ候ハバ御合力ニ百人ブチ扶持進スベシ。安楽ニ住玉ヘカシ。拙者道中上下ニ参会モ入ラザルコト

自然ノ節相談相手ニ頼ミ申度迄、扱ハコノ度ノ次デ感心ノアマリニ候トノ使者也。大石返答ニ、誠ニ御厚志申スベキヤウモナ

シ。私主人ノ忌服ニ罷アリ。殊ニ病身ニ候ハバ兎角ノ御請申シ難シ。若出勤ノ心底モ候ハバ最初ニ御入魂(43オ)ニ候ハバ御

家ニコソト存奉候トウツクシク挨拶申ス。コレニカギラズ内蔵介大坂ニ出タルト聞テ、松平肥前守殿・細川越中守殿・有馬殿・

山内殿ヨリ相応ヨリ過分ノ知行ニテ招カル。殊ニ松平伊予守殿ヨリハ内蔵介兄池田玄蕃ノ縁ヲ以テ色々ニ召ヨセ玉ヘドモ、病

身ニ候間保養仕リ候覚悟、中々人前ニマカリ出候体ニ非ズ、長ク隠居仕ル覚悟ニ候トバカリ申上ゲケリ。

内蔵介赤穂引弘之事

一 凡軍法ニハ、一言ヲ以テ他ノ心ヲ屈伏スル、人(43ウ)トシテ詞ホド大事ノ物ハナシ。一言ヲ以テ喧嘩口論トナリ、一言ヲ以

テ和順ニナル。皆詞ノアヤ也。口ハコレ禍ノ門ナリ。舌頭骨ナクシテ能人ヲ切ル。慎ムベキコト也。サレバトテ無口ニナリ物語モスマジキニ非ズ。キツトタメラヒタル時ノ詞ノアヤナリ。大石ハ只謀略深クシカモ仁徳アリ。ヨク言葉ヲ以テ人ヲ屈伏ス。コレ始終武林只七ガ身ノ上ニアリ。角テ内蔵介ハ旅行ノ用意相調ヒ、五十一人ノ諸士己ガサマザマ京伏見大津ノ辺ヲ心掛発足ス。五月二日ニ内蔵介モ赤穂出立ニ究マル。(44才)先達テ舟ニ家財ヲソンデ内匠殿蔵屋敷少キ屋敷ナリ 貝塚メタル近キ比ナリ。コノ処迄サシ越寺西弥太夫ヲ相ソヘラル。足輕ノ扱老母内室幼年ノ子達兩人千馬三郎兵衛ヲ付ケテ出立。内蔵介遠扱内蔵介コノコロ工夫、爰ニ若者トモ剛強ノ面々手ハナシテ事カナフベカラズ。殊ニ武林只七八至極剛ノ者ニシテ荒氣ナリ。大体ニテハ行ベカラスト発足ノ前ニ呼ンデシミジミト申サルルハ、貴殿ノ母義ハ亡君ニ乳ヲ奉リタル御ナジミアリ。去ル比御上屋敷引ハラヒノ節生害シ玉ヘリ。御身ハ亡君ニ放レ(44ウ)母ニ別レ孤独ノ身ナリ。近比笑止ニ痛マシシ。カレコレ今日ヨリ我ヲ子分ニ約束申シテ親子ノ盃シテ未來マデ同道申スベシト盃ヲサス。父子ノ約ヲナス。又奥田孫太夫・松村三太夫兩人ヲ兄弟分トシテ盃ヲ取カワシ弟分トス。コレハ後々異見モシヨク又身ニ付若者コレ無デハ事ノ難義モ有ベキトノ工夫ナラン。既ニ出立ノ定日モ来リ内蔵介ハ当国他処マデノ

外見、又亡君ノ御跡忘却ナキノ為ニ行壮モ美麗ナリ。子息大石主税ハ先達テ騎馬ニテ上下十三人堀部安兵衛同道シテ前日(45才)ニ出立シテ中村ニ止宿スル。コレハ赤穂ヨリ五里ノ道ナリ。コノ処ニテ待合スル。内蔵介ハ城内ノ御役人中ニ付トドケ五月二日出立ナリ。コノ節脇坂殿ヨリ酒肴ヲ送ラルル。二日辰ノ時、供廻リ内匠殿在世ノ時上リ下リノゴトク挾箱ニッ鎗ニ筋弓尻籠立三張刀筒歩行五人中小性四人牽馬乗物駄荷乗掛上下三十五人、小野寺十内ヲ同道シテ先善提処ノ花岳寺ニ參詣シテ住持ニ対面兼兼テ三代以前ヨリノ仏具料田畑百石アリ。コレハ年貢地ナレバ領主カワリテモ別条ナシ。数代ノ(45ウ)領主主君御善提後代迄ノ為ニ内蔵介並ニ五十一人ノ諸士ドモヨリ二百両金子ヲサシ上候。然ルベキ様ニト既ニ帰ラルル時ニ住持老僧ナリシガ落涙シテ、内匠頭殿家中ノ諸士大勢コレアリト云ヘドモ誰一人御跡弔フ人アラス。然ル処ニ大石殿心底感ズ入タリ。タトヘ田畑モ乱騒ノ時ハ取放タルベシ。当寺ノ後口ニ続キタル在村ノ百姓ニ永代借シニ判形仕ラセ、金子渡シ預ケテ利米ヲ毎歲納所仏供料トスベシ。住持ハカワリ物百姓ハ永代疎略ナキ様ニスベシト堅ク約シテ(46才)別レ玉ヘリ。

赤穂町中村方饒別ニ中村ニ來事

一赤穂領町在トモニ近年羽書ヲ用、潮方諸運莫大ニコレ有コト故

ナリ。羽書ハ小判一両ヲ六十四匁ニ定メテ銀札ハ二文目五分三分二分ト相定メ二万四千兩ホド出タリ。最初江戸乱申來ル時、領内ニフレテ羽書残ラズ引上ゲ、金銀ヲ相渡シテ出入ナク相スマシケリ。コノ義町在トモニ大キニ過分千萬ニ思ヒ入、イカナル人モコノ節ハ取上ゲマジキコトヲ、サリトテハ正道ノ大石殿

ト皆々感ジ、(46ウ)元來常々内蔵介ニナツキ居タル上ハコノ度ハ父子ノ別レノゴトク、町中名主五人組頭村々ノ庄屋、或ハ地侍ノ福者トモ先達テ中村マテ見送りニ出ル。コノ中村ニハ先君内匠殿ノ御殿普請アリ。内蔵介コノ処ニ着、勿論兼テ精進ヲ知ル故ニ魚類ハ且テアラス。提重ニ酒ヲソヘテ菓子等善美ヲツクシテ運ビ來ル。内蔵介常々ハ音信賄賂且テウケザル人ニテ有ケレドモ、コノ身ハ大ニ悦ンデ各信義過分ノ至リニ候。町在トモニ亡君ノ御ナジミ既ニ五十年ニ及ビ、前後開基コノ方九十余年ノ領主(47オ)也。我ラ常ニ音信ヲ受ザルハ末ノ役人ノ戒メ也。今ハ早掛ハナレタル浪人、イカホドウケテモ返報スベキニ非ズ。各ノ心底ナレバ亡君ノ菩提モタノモシク候。タトヘ我ラ死ウセ或ハ面々忘却スルトモ、各ニハ結句御弔ヒヲモ仕玉フベシ。相カマヘテ各御菩提寺ヘモ參詣シ玉ヘ。酒宴シテ心安ク名ゴリモヲシムベシ。今晚ハコノ処ニ止宿申スベシト念比ニ申サル。大勢サシツドイ誠ニ他念ナキ有様不思議ノ内蔵介ナリ。コノ故ニ

内匠殿旧領ノ村々六十八ヶ村、寺々ニ百姓トモ位牌ヲ(47ウ)立テテ御菩提ヲ弔フ、全ク内蔵介ノ心底ニヨル。又内蔵介切腹ノ以後ニハ町在寺々トモニ位牌ヲ立テテ菩提ヲ弔フ。ヒトヘニ心底ノ節義ニヨルナリ。

武林只七慈悲之事

一今晚酒宴ノ最中ニ内蔵介申サルルハ、子トモ出テ酒タバヨト申サルル。主税出ラレタリ。勿論兼テ安兵衛・十内一座ナリ。コノ上ニ内蔵介ハ子トモ残ラズ出テ酒タバヨト申サルル。コノ故ニ赤穂ノ町人ノ内宿老トモ在村ノ大庄屋トモ寺方ノ和尚一両(48オ)輩赤穂ノ町医師カレコレ十四五五人並ビ居テ主税様ハコノ座ニ居玉フ。外ニ御子息様ノ有義ナシ。御幼年ノ若公タチハ昨日ハヤ当地ハスギ玉ヘリ。イカニト尋申ス。内蔵介申サルルハ、サレバトヨ我不慮ノコトニテ武林只七父子ノ約ノ盃ヲ仕タリ、又奥村・松村兩人ハ舍弟ノ約束盃申シタリ。コノ面々出アテ酒ノミ玉ヘト也。コノ故ニ各々出座酒宴數刻ニ及ブ。ソノ夜休息ニ及ブ。武林只七大キニ嘆キテ、我亡君ノ仇胸ニセマリ、母ノ自害ヲクヤミ心狂乱トシテ只最期ヲ急ゲ。然ルニ今晚内蔵介(48ウ)殿ノ言ハ実義ノ人ナレバ心底モ詞モ同様ナラン。我又内蔵介殿ヘ身ヲステテ孝心スベシ。扱々過分ノ詞ナリト三人相トモニ涙ヲ流シテ、一命ハ勿論亡君ノ為ニステ身ハ内蔵介殿ノ安否

田・貝賀・富森・奥村・松村九人ハ大津ニ住家宛マリ、京都ニ十人跡ハ大坂伏見ノ間ニ住居シテ、ソレヨリ内蔵介ハ石山ノ奥山中元祖ノ出処大石村ニ尋ネテ、コノ村ノ名主左五右衛門方ニ二三日逗留、左五兵衛急ニ走り廻リテ縁者コレ有宇治ノ(52オ)

田原ノ里ニ落付キテ、カリニ古家ヲ買シツライテ大坂ヨリ妻子ヲヨビヨセ、主税・只七・千馬三郎兵衛三人ハ一所ニ住居、寺西弥太夫・前原猪助若堂四人高田郡右衛門諸賂ヒシテ、雑人五人都合十六人大キナル浪人ノ体也。スワヤ内蔵介浪人コノ度ノ次第大ニスグレタル故、諸大名家ヨリ召カカエント知行高禄ニテ招カルト云ヘドモ、更々同心ナク、病身ニテ中々勤仕成ガタシト残ラズ御断リ申サレケリ。

江戸出人別之事(52ウ)

一内蔵介兼テ申シフクメラル片岡源五右衛門・磯谷十郎右衛門兩人江戸ニ出テ諸方聞合セ、前原猪助ハ才覚ナル人ユヘニ仕立テテ本庄ノ相生町ニ店カリシテ住居、木綿ノ切レ売リ吉良上野介殿ノ屋敷長屋ニ立入り聞合ス。神崎与五郎ハ撫付ケニナリテ針立ノ医師トヤラ、又常ニ好デスル故ニ誹諸師ノ様ニナリ上野介殿屋敷ニ入、聞合スル。コレヲ皆金銀ヲ渡シテ自由スル。又書通ノコトハ京都三文字屋マデ飛脚便リニ通シ、大事ノコトニナリテハ奥田孫太夫・松村三太夫・横川(53オ)勘平・間十次郎・

貝賀弥左衛門五人ノ者ドモ替リ替リ往来シテ伊予守殿ノ飛脚ノ内ニ入コレハ田田玄蕃ノ轡ヲヨルナリ土佐守殿・式部少輔隼人殿伊勢ノ奉行コノ内ニマギレテ往来ス。諸人且テ知ザリケリ。

千坂兵部吉良・上杉江諫言之事

一上杉殿ニハ吉良上野介隠居シテ居玉フ。家督左兵衛尉ハ本庄ノ屋敷ニ居住ナリ。然ルニ赤穂ノ城ヲワタシテ諸士ノ離散、大石願ヒモ上リタル由キコヘ、コノ比ハ何方モコノサタウスラギ、吉良殿モ上杉殿ニモ安堵ノヤウニミエテ、油断日々長(53ウ)ズベキノ処ニ、上杉殿ノ家老千坂兵部思慮工夫フカキ人ナリ。誠ニ四季ノ花ノゴトク皆一風アリ。ソノ身モ二千五百石ノ知行ヲトリ上杉殿家前方相統ノ騷動ノ節、親千坂兵部案者ニテ半知ニテ相統、コノ家ニテハ随分ノ忠臣也。コノ比ノ体ヲ見テ上杉殿・吉良殿ヘ達テ諫言申スハ、抑今度ノコトハ大ニ他ニ仇ヲ請ラルルコトナリ。順義ヲ申サバ御生害アリテシカルベキ程ニ存ジ奉ルニ、首尾宜クカ様ニ御隠居アリ繁榮ニ候。コノ上ニハ御命全ク他ニヲソワレザルヲ第一ニスル処ナリ。万一(54オ)ノコトアラバ上杉家ノ恥辱ナリ。子細ハ上使下向ノ節赤穂ノサタヲ承ハルニ最初ニ二百五十人徒党連判、中比ニ減少百二十三人ニナリ、ソノ以後ニ殉死スベキトノ義士五十四人コレ有ヨシ、コノ大石内蔵介ガ仕方兼々ノコル方ナク忠誠ノ義士ナリ。コノ

方ヨリ目付ヲサシコシ委細ニ承リ届ケテ候処ニ、兎角不思議ノ大石忠臣アツパレ不思議ノ者ニ候。城内ニテ殉死仕ラズ何ゴトナク開城仕候段、心ヲ付テ見ルベキ処ナリ。鉄石ノゴトキ義士五十人一味セバ、御ユダンニ於テハ疑モナ(54ウ)ク討返シニアヒ玉フベキ也。御用心然ルベキ也。勿論大石内蔵介ニハコノ方ヨリ目付忍ビヲ付置キテ、始終見届申スベキニ候ト段々諫言ヲ申シテ、究竟ノ武士ヲ兩人姿ヲカヘテ上京サセ、内蔵介宿ノ近辺宇治ノ田原ノ里ニ宿カリテ相伺フ。近比恐ルベキ千坂ガ工夫也。又本庄ノ屋敷ニモ歩行中小姓モ新参者ハ召カカヘズ。小者中間モ渡リ者ハ皆出シテ知行ノ百姓ヲ召ヨセ、屋敷ノ門ハ札ニシテ相改メ出入不自由ナリ。扱上杉殿ノ上屋敷ニ居間ノツツキニ御殿ヲ造作、台所モ(55オ)別ニシテ出入ノ人ヲ改メ、番頭一人侍五人足輕二十人ツツ晝夜相守リテ家中ノ者モ相伺ワズ。用心キビシク守ル。張良・孔明ガ知慮ニモ及ブマジキ程也。千坂兵部内意申達スル故ニ紀州大納言殿ヨリ上杉殿へ申来リ、念入ラレ用心然ルベキ由也。智ナルユヘ也。上杉殿ニモ大事大事ニナリ弥堅ク相守ラルル。然ルニ上野介殿ハ遊興好ニテ大ニ難義ノ体ナリ。然レドモ随分安楽ナリ。

江戸住居義士之事

一片岡源五右衛門・磯谷十郎右衛門兩人ハ思ヒヨ(55ウ)ラズ江

戸外三谷杉戸村ニ居住シテ人口ヲサケテ、片岡ハ葎葉トナリ江戸中ヲ徘徊シテ人口ヲ聞ク。磯谷ハ藪医者ニナリ諸人ニ出アヒテ評判ヲ伺フ。前原猪助ハ本庄ノ相生町ニ店ヲカリ、木綿切レヲウリテ吉良左衛門ノ屋敷ニ立入り伺フ。門番改メツヨキ故ニ金銀ヲツカイ色々ニ入魂シテ出入自由ナリ。彼千坂ガモヤウヲ聞出シテ、足達者ナル奥田孫太夫無刀ニナリ伊勢参宮ノ人ニ交リテ、俄ニ宇治ノ田原ニ上リテ大石ニコノ段ヲ談ジケリ。(56オ)

一大石内蔵介江戸ノ様子ヲ聞トドケ兼テ左様アルベキハ覚悟ノ前ナリ。扱ハ我方へ忍ビノ間者ヲ入レテ相伺フトミヘタリ。然ル上ハコノ忍ビノ間者ヲスグニ敵ノ方ニカヘス反簡ノ謀トナリ、左様ニギンミスル、珍重ナリ。我便利トスベシト内蔵介晝夜枕ヲワラレ工夫シテ反簡ノ謀略ヲスル。宇治ニテ謀略叶フベカラズ。山科ハ禁裏ノ御領ニテ制外ナリ。コノ処ニ居住スベシトテ、石田村ノ左五右衛門ヲヨンデ、山科ハ万代不易安楽ナル処也、世上ノ遊人コノ地ニアツマル。我心入有。(56ウ)貴殿随分セワ致サレヨ。京都ノ小野寺十内ハ堂上方ヲヨクシレリ。コノ人ト談ジテハタラカレヨト頼メリ。左近右衛門京出、山科ニ出デテ地下ノ百姓共ト談合シテ、居屋ヤシキ畑大家売スヘニ相調ノヘ、田畑百四五十石相トトノヘテ普請等俄ニ急ギ、浪人ノ金銀タク

ワへ多キ体ニミエタリ。

大石内蔵介山科里住居之事

一内蔵介宅ハ山科十禪寺ノ海道ヨリ北ノ蔽陰ニ、三間計リノ屋敷
大家ノアリケル売居ヲ買求メ、(57オ)ソノ上ニ作事ヲ加ヘ座敷
モ毛頭武士メカズ、在辺ノ庄屋ノ住居ノゴトクニ伽藍ノゴトク
家ヲシツラヒ、長屋ヲ立ツツケ牛馬ノ部屋並ニ稻ベヤヲ急ギ普
請シテ、ソノ年ノ六月中旬ニ宇治ノ田原村ヲ引越テ山科ニウツ
リ来リ、村庄屋並ニ近辺ノ名主頭ヲ百姓ヲ頼ミテ、我ラコト病
身ニシテ市中ノ望且テナシ。コノ故ニ世ヲカロク一生ヲ安樂ニ
昏スベキナリ。田畑山林等相調ヘ申スベシト頼メリ。惣ジテ在
辺ノコト外ヨリハ過分ニ買難キコト也。ソノ村ニ入テハ入百姓
ニナリ自由也。永代売或ハ(57ウ)元金返シ十年季賃地アリ。
イカ程モコレ有。又名主組頭近村トモニ兼テ聞及ビタリシ。大
石内蔵介願フテモナキコト也ト悦ンデ世話ヲヤキ、田畑山林余
ホド相トトノへ高百三十石目ノ大百姓トナリ、無類ノ才智ユヘ
ニ田面毛付ノ筋モ功者ナリ。野山ノフシンニモ自分ガ出テ只万
年ノ仕入レラスル。我ハ病身ナレドモ主税ガタメナリトテソノ
丁寧ナルコト漆付ノゴトク、扱田原村ヨリ妻子ヲ呼トリ老母モ
ヨビ越下人ドモヲ召アツメ、専ラ耕作ノコトニカカリ、万事ヲ
カマワズ茶ノ穂苗実ウへ、(58オ)或ハ果物ノツギ木柿・栗・

梅・蜜柑・桃ノ苗・桐ノ実植只百年ノ楽ミ也。諸人コレヲ聞ハ
凡ソ一年ノ謀ハ五穀ヲウユルニアリ。十年ノハカリゴトハ木ヲ
植ルニアリ。我金銀トボシクモナケレドモ金ハツクル期アリ。
只地面ノ草木コソタシカナル物ナリト段々植立ル。扱人通り往
還ノ海道ニ出ルモ、撫付ニナリ小袖モシドケナク無刀ニテソロ
リソロリト歩行、近処隣家ニサワタリ、扱々トクヨリ浪人スレ
バヨキニ氣ヅマリナル武士ヤ。後ノ世ノ高名ハ浮雲ノゴトキ者
ナリ。現在ノ楽ミコレニ過ズト(58ウ)テ堺ノ津ヨリ魚類ヲ取
ヨセ常ニ料理、ソノ身ハ精進ナレドモ大津京都ノ珍物ヲハコバ
セ、大坂伊丹ノ酒ヲハコバセ精進ナドモ入前々一滴モノマザル人コ
ノ比ハ酒ヲ吞ナラヒ、折々ムカ腹ヲ立テテ、扱有マジキコトハ
京都ヨリ白人ヲヨビヨセ夜ニ入ルト三味線小哥、扱ハ近辺隣家
ノ夜遊ビ碁・双六・将棋横好トヤラン。朝ハ四ツスギマデ寝テ
終ニ朝貞ノ花ヲ見ズ。主税朝起メサルレバ大ニ怒リ、汝武士ニ
ハナルマジ。入ザル朝起見ラレヌ後口帯何ノ武芸、トカク三味
線ノ一手モナラヒテ、(59オ)父ガ遊ビ次手ニナル覚悟モナキ大
ウツケト甸リ、扱諸親類中ヘモ疎ニシテ終ニ通路モセズシテ、
アケケレ不行跡、兄弟衆池田玄蕃・淺野隼人舅ノ石東源五兵衛
ニモ書状ハ来レドモ返答モナク、朝夕不行跡昼ノ内ハ屋敷マワ
リ耕作ノ見廻リ吟味ツヨク、カ様ノソマツナルコトヤアル。当

分マカナヒ也。念入レスベシ。人間百年ノ齡アリ。孫ヒコノ末マデ大石ノ楠分限ト世ニ云ハルル下地也ト、タワケノアルホド云フテ下人ヲシカル。ソノ上ニコノ比ハ人ヅカヒ大キニ悪クナリ、中々手ア(59ウ)ラク夜会、今日ハ石山參詣明日ハ比叡山又明日ハ湖水スナトリ、遊女白人ヲ召具シ親子同道シテ以ノ外不行跡也。武林只七大キニ悲シミ、養父ノ約アリ。ゼビニ及バズ。扱カワリハテタル人品カナ。今ハ早爪ハジキシテ人ノ笑フヲ聞バ、大石コソ主君ノアト金銀ヲマルメトリ、外目ニハ忠臣ト名ヲ取りウソ八百、今ノ身持コソ本性ナラメ。侍畜生ト笑ヘバ、只七八胸中ヲ痛メリ。

母義内室内蔵介ニ諫言申サル事

一先最初ノ異見ハ母義内室同座ニテ内蔵介ヲ呼(60オ)ンテ御袋ノ申サルルハ、内蔵介ニハ天魔ノ見入カワリタルヤ。コノ比ノ身持諸人ノ後口指ヲサシ笑フ処ナリ。亡君内匠様ノ御跡ニテハ貴殿ヨリ外ニ仇敵ヲ討ベキノ人アラズ。前方赤穂ニテノ仕方ハアツバレ不思議ノ忠臣カナト、御役人衆並ニ家中町方在中マデ神仏ノヤウニ貴ミキ。然ル処ニコノ比ノ身持散々ノ体一ツトシテ武士ノ体ニ非ズ。今日ハ異見ヲ申スベキヤ、今日ハ勘当スベキヤト思ヘド、モハヤ四十二アマリ殊ニハ文武二道ノ達人ト身モ他人ニモ云ハルル人ナ(60ウ)レバ、ヨモヤ悪シキコトハ有

マジキトハ思ヘドモ日々ノ悪行ツミ、亡君ノ仇敵吉良殿ヲ討ント思フ心ハナキト相ミユル。ソノ上聞ク処赤穂ニテ五十一人ノ面々ハ神文血判シテ、相トモニ亡君ノ仇ヲ報ズベシト約諾ノアルト聞ク。手前一人ハトモ角モコノ人々ハ何ト言分アルベキヤ。急ギ心底ヲ改メテ行跡ヲ直シ、人口ヲ塞グ又ハ亡君ノ仇ヲ報ジ玉ヘ。又行末幾億万兩ノ富貴ニナリテモ且テ望ニアラス。タトヘ乞食非人ノ姿ニナリ餓死ニ及ブトモ、一度主君ノ仇ヲ報ズルトノコトヲ(61オ)聞カバ老ノ身ノイカバカリカウレシカラン。大野・三好ガ臆病ヲ笑ヒシカドモ皆アダゴトトナリハテテ、侍ヒ畜生トハ貴殿ノコトヲヤ申スベキト座ヲ打テノ異見、又主税モヨク聞玉ヘ。汝デハ一入ニ亡君ノ御恩フカシ。父内蔵介ハトモ角モ心ヲ改メテ行跡ヲ直シテ、大石ノ家名ヲ立テ玉ヘト涙ハ滝ノゴトクナリ。内蔵介ハコレマデハ随分老母ニ孝行ニテ詞モ常々ヤワラカニ又有マジキ也ト云ホドノ人ナリシガ、コノ時ハ悪言ニテ何ヲ女ノ愚痴ナルコトヲ云ヒ玉フゾ。云ハレザル異見人モ(61ウ)聞ク。今時上野介ヲネラハンハ石ヲイダキテ淵ニ入ル、イカナイカナ思ヒヨリモコレ無コト也。兎角拙者義ハ武士ハイヤナル心入ニテ候。万代ノ高名モイヤイヤ一日ニテモ命ナガラヘ酒肴ニタノシミ、又主税モ末々安楽ナルヤウニ我ラモ百年ノ齡ヲタノシミ申サン。入ラザルコトヲ云ハズトモ

樂十世ヲ樂ミククラシ玉ヘト申サル。主税モ同ク声高二、私モ父上ト同ジ覚悟ニ候ト申ス。母義ハ益腹ヲ立テテ、何様親ニ似タル狐ノ子ナリ。父子トモニソレニテスムベキカ。五十一人ノ連判ノ人々ニ(62才)ハ何トモ言ワケアルマジ。恥ラヒ玉ヘト申サル。世話ヲヤキ玉フソノコトハ五十一人ドモニ連判ヲ切りヌイテサラリト戻シ申セバ別条ナシ。先御覽ノ前ニテ我ラ父子ノ判形ハ切破リ申スベシト、心安ク彼卷物ヲトリ出シテ父子ノ判形ヲ切破リ、武林只七ヲヨシテ急ギコノ卷物ヲモチテ京伏見大津ノ面々ニ残ラズ返シ申サルベシ。急々ニ用意シテマイラレヨトソシラヌ顔ニテ、主税コノ方ニ来レト座敷ニ出ララル。即時ニハヤ三味線酒盛り小哥、死ナザヤムマイトノ小哥大トラ者ノ(62才)タタ中ナリ。蛙ノ面ニ水ヲカケタルゴトクナリ。母義内室コレマデトハ思ヘドモ流水ニ年来貞信ノ内蔵介ナレバ、又何ゾノツカヒニハナナルコトモ有ベシトテ、涙ナガラ二月日ヲ送リ玉フ。痛マシキ有形ナリ。

武林只七諸処ニ連判ヲ戻スコト

一内蔵介心底ニハ、南無三方五十一人ノ連判ハヤ老母ノ耳ニ入、然ラバ上杉殿方ヘモモレ聞ヘナン。コノ処ヲクツロゲズンバ叶フベカラスト武林只七二千馬三郎兵衛ヲ相ソヘテ、一味同意ノ人(63才)々堀部安兵衛・小野寺十内・間喜兵衛ヲハジメ、大

津ノ十一人伏見ノ九人京都二十三人大坂ノ面々ニ申シ入ララル口上ハ、兼々各申シ談ジ候ハ何トゾ亡君ノ仇ヲ報ジ本意ヲ達スベシト存知候ヘドモ、當時上杉家ノ威光朝日ノゴトク、ソノ上ニ紀州ノ御見ツギアリ。又公義ノ光リ強ク思ヒヨリモナキコト、今ハ早日比ノゾミタヘハテテ候。拙者心底コノゴトクニ候。各ニモ勝手勝手ニ身上ヲカタ付玉ヘ。倅主税モ堂上方ヘナリトモ奉公ニ出シ申ベキ条、各ニモ世話致サレ候ヤウニタノミ入候。コノ(63才)ゴトキノ存念故ニ拙者判形ハサシノキ候ト申送レリ。五十一人ノ面々大ニヲドロキアキレハテ京都小野寺十内方ニヨリ合、十人バカリ評定シテ、コレハ先マボロシノ様ナルコトナリ。扱先内蔵介殿行跡宜シカラザルヤウニ聞及ビシガ誠也ヤト相尋ヌル。武林只七申スハ、サレバノコト思フニ違ヒタル内蔵介、今ハ恨ノ内蔵介、以テノ外不行跡、我ラ父子ノ約ナクンバサシ殺シテ捨ント思ヘドモ流石ニ不孝ノ罪ト延引申候。中々仇討ノサタハ思ヒヨラザルコト也トタメ息ニテ云フ。面々モ驚(64才)キ、扱人ハカワルモノナリト大ニ力ヲ落シケリ。コノ時堀部安兵衛云フハ、面々判形ハ切ヌキ玉ヘ。大石殿ノ心底年来不実ノ沙汰コレ無貞信ノ人品ナリ。モシイカナル謀略アリモゼン。拙者ニ於テハ能モ悪キモ大石殿次第ナリ。神文ニモ下知ヲ相ソムクマジキトノコトナレバト、即時ニ判ヲ切ヌキ御口上相

心エ候ト云フ。小野寺十内、成ホド我ヲモ左様ノ心底ト判ヲ切ヌク。若殿原ハ腹ヲ立テテ、コノ方ヨリ御返事申スベシト云輩モアリ。伏見大津堺マデモ皆々コノゴトクニ心々ニ判ヲ切拔。(64ウ) 武林・千馬婦リテコノ由ヲ申ス。内蔵介ヨロコシテ夜ノ明タルヤウニ覚ヘタリ。片心ニ掛リ何ボウ悪カリキト益放埒坤万ニ成タリ。

岡野金右衛門屈死之事

一去ホド二大津伏見ノ若殿原京都小野寺十内方へ来リ集マリ、中ニモ岡野金右衛門申シ出シテ各ヒタヒリアツメ、モハヤ我々ガ運命モ尽ハテタリ。去リトモト頼ミ思ヒツル大石殿サヘコノゴトシ。扱口惜キ次第也。タトヘバ道路ニ餓死スレバトテ、何レノ門ニカ肥馬ノ前ノ塵ヲハラワシヤ。コノ上(65オ)ハ力ナシ。急ギ内蔵介宿処ニ立コヘテ内蔵介ノ心底ヲキキトドケ、弥懦弱ノ心底ニ究マラバ是非ニ及バズ、大石ヲサシ殺シテ直ニ江戸ニ下リ上杉殿館ニ乱レ入、狂死スベキ也ト云フ。堀部・小野寺間テ、ゲニヤ世ノ中ノ不思議ト云ハコノコト也。大石殿ニ限リテ未練ノ人ニ非ズ。シバラク見合セ玉ヘト云ウ。岡野金右衛門、イヤイヤ拙者立コタヘ大石ノ心底ヲ聞トドケ、ソノ上ニテサシチガヘン。ソノアトニテ各心ヲ一筋ニシテ最前申合セノゴトク本望シ玉ヘト、一子九十郎ヲ同道シテ山科(65ウ)ニ急ギケリ。

一比ハ霜月上旬岡野金右衛門怒氣胸中ニミチミチテ、近比不屈ナル内蔵介心底、サシチガヘテ死ベシト思案ヲ極メ、一子九十郎ヲヨンデカ様カ様ノ心底ナリ。若シソンスルコトアラバ汝必ソノ座ヲバノガスベカラズトテ、同道シテ山科ニ行ケリ。ソノ日折フシ内蔵介ハ酒宴シテ^{内心公衆}ソノアトニ座敷ニ只一人亡然トシテ、越方行末ヲ思ヒテ鬱々トシテ居玉フ処ニ、岡野父子案内モナク通りテ金右衛門大石ニセリツメテ、貴辺ハ亡君数代(66オ)ノ長臣也。ソノ上ニ御恩山ノゴトク他ニコトナリ、既ニ赤穂ニテ殉死究メタルトキニ色々サマザマノ謀略ヲ云マワシテ義士ノ名ヲトリ、金銀ヲ引集メアマツサヘ一紙ノ神文ヲ書セ外ニハ義心ヲミセテ内心ハ食欲無道、コノ比ノ行跡以ノ外コレガ誠ノ本心トミヘタリ。久々ニテ化ラアラワス古狐、岡野金右衛門ガ老衰ノ討太刀ウケテ見ヨ。天命也。一寸モ場ハ去ラセジトツメカクル。元来内蔵介ハタクマシキ勇士ニテ、タトヘ劍ノ雨降ルトテモ肌タユマズ心骨丈夫ノ人ナリ。マシテ(66ウ)ヤ誠内ニアル人也。少シモサワガス打笑ヒテ、成ホド金右衛門ノ申サルル通、至極ノ道理左様ニ相ミヘ申セバ一段安堵申ス。貴殿ハ別テ貞信ノ人ナレバ心底ヲ申スベシ。抑思召テモ御覽ゼヨ。内蔵介ソノ重スベキノ義ヲ失イ候ヒテ、万年ノ齡ヲタモチ富貴ハ天下ヲニギルトモ天日ノ照覽恥辱コノ上ナシ。只義トトモニ死スベ

キ命常ニ我ガ楽シム処ナリ。他人ノコトニサヘ一言ノ下ニ命ヲ果ス。況ヤ君臣上下ノ義内蔵介一身ニセマリ昼夜ノ安心ナシ。抑浮世ノ中ヲ案ズルニ、大丈夫(67オ)モ骨肉ノ血ナミ思ヒ忘レズ。忍ビガタキ処ニシテ人情ノ止ムコトアタワザル処ヲ、ホワレテ忠義ヲ失ハバ、鳥獸ト同ジク何レノ世ニカソノ罪ヲ謝スベキヤ。死ハ鴻毛ノカロキニ楽シミ、義ハ泰山ノ重キニ思ヒツメタル義士五十一人、皆死ヲ一凶ニ究ム。コノコト上杉家ニヨクシリテ用心キビシク中々本懐叶フベカラズ。コレ依暫ク反簡ノ謀略ヲナス。コノ意味ニヨリテ只霜ノ朝日ニキユルゴトク、鉛リノ火ニカカルト(ト)ロケルゴトクニナルベシ。ソノ時節ヲ待討ベシトノ心底也。何トテ今連判ヲヌク(67ウ)アランヤ。又コノ義ハ同意連判ノ外ハ父子ノ間ニモ深ク密スベシト約故ニ、老母妻ニモ申聞セズ候処ニコノゴトク貴殿ノ心底殊勝ニ候。又内々ニテ尋ラルル、モラスベキ貴殿ニハアラス。コレ依私語申スト云フ。岡野一々コレヲキキ両手ヲ合掌シテ、アラ忝ナノ御心底ヤト落涙シキリシテ滝ノゴトク、最初感激シテ大ニ怒リ必死ニ究メタル心底今ノウレシサ、又ヨロコビノ涙ニ心ヲ打。日比亡君ノ仇ニ心ヲ痛ム。年ハ六十五歳ナリ。怒リウレシキ感激シバラク心ヲトリ失ナヒ絶入タリ。ヤレ薬ヲ針(68オ)ヨ灸ヨト云ヒサワグニ、トカク情根ツキテ兼テ口クグモリ中風ニテ物

云ハズ。嫡子九十郎ガ手ヲトリ大石ニ引渡ス。内蔵介アワレニ思ヒ、心ヘ申シタリト高声ニ云ヘバ悦ブ体ニテ打ウナツキ終ニ死セリ。扱不便ノ仕合、アツパレ義士ナリ。往昔ヨリカカル勇氣ノ屈死ヲ聞ズ。ゲニヤ内匠様ハヨキ人ヲ大勢持玉ヘリ。内蔵介ハ嫡子九十郎前後聞タルコトナレバ、少シノ遅速ハアレドモ押付同ジ道ナリ。必ズ心ニカケ玉フナ。葬送ハ同村ニテトリオキテ九十郎ハ直ニ内蔵介ノ宿処(68ウ)ニ居テ金右衛門ト名ノリケリ。武林只七今日ノ内蔵介ノ心底ヲ聞テ、コノコロノ訳モ心ニホドケテ一人ノヨロコビナリ。

忠臣規矩順從祿卷之八終(69オ・見返シ)

(やまもと たかしノ本学教授)